



大学演習林年報

第39号

< 2024 >

目次

大学演習林年報第39号の発刊にあたって	会長 揚妻 直樹
1. 演習林の最近の話題	1
2. 令和5年度研究業績	17
3. 演習林所属教員専門分野・キーワード一覧	73
4. 令和6年度春季理事会	
(1) 理事会日程、議題等	89
(2) 令和5年度決算及び令和6年度予算	90
(3) 議事要旨	91
5. 令和6年度秋季総会	
(1) 秋季各種委員会・技術職員連絡会議・理事会日程	94
(2) 総会日程、議題等	95
(3) 議事録	96
6. 各演習林における運営状況についてのアンケート結果	101
7. 公開森林実習の報告	113
8. 全国大学演習林協議会規約	119
9. 森林管理技術賞授与規程	121
10. 公開森林実習運営委員会内規	123
11. 全国大学演習林協議会技術職員連絡会議会則	124
12. 全国大学演習林協議会の役員選出に関する申し合せ	125
13. 会員名簿	126

令和7年2月

全国大学演習林協議会

大学演習林年報

第39号

< 2024 >

目次

大学演習林年報第39号の発刊にあたって	会長 揚妻 直樹
1. 演習林の最近の話題	1
2. 令和5年度研究業績	17
3. 演習林所属教員専門分野・キーワード一覧	73
4. 令和6年度春季理事会	
(1) 理事会日程、議題等	89
(2) 令和5年度決算及び令和6年度予算	90
(3) 議事要旨	91
5. 令和6年度秋季総会	
(1) 秋季各種委員会・技術職員連絡会議・理事会日程	94
(2) 総会日程、議題等	95
(3) 議事録	96
6. 各演習林における運営状況についてのアンケート結果	101
7. 公開森林実習の報告	113
8. 全国大学演習林協議会規約	119
9. 森林管理技術賞授与規程	121
10. 公開森林実習運営委員会内規	123
11. 全国大学演習林協議会技術職員連絡会議会則	124
12. 全国大学演習林協議会の役員選出に関する申し合せ	125
13. 会員名簿	126

令和7年2月

全国大学演習林協議会

大学演習林年報 39 号の発刊にあたって

日頃より、全国演習林協議会（以下、全演協）の活動にご協力をいただき、ありがとうございます。2024 年度はコロナ禍で減っていた演習林利用が、それ以前の水準近くまで回復してきた年となりました。

全演協では、春の理事会をオンライン方式で実施し、秋の理事会・各種委員会・総会を、苫小牧市文化会館においてハイブリッド方式で実施しました。翌日のエクスカージョンでは、北海道大学苫小牧研究林、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター（環境省と苫小牧市の共同運営）、苫小牧市美術博物館の三カ所を見学しました。秋の理事会・総会、懇親会、エクスカージョンでは、とくに苫小牧研究林の教職員の皆様に準備から運営まで、多大なるご協力を頂きました。さらに苫小牧研究林と包括連携協定を結んでいる苫小牧市にも便宜を図って頂きました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

総会に先立ち、文部科学省高等教育局専門教育課の高木さまに、最新の文部科学行政の動向および教育関係共同利用拠点の運営に関する注意点などについてご講演いただきました。

次に行われた森林管理技術賞授賞式では、特別功労賞 3 名、技術貢献賞 4 名、学術貢献賞 3 名、若手奨励賞 4 名の表彰が行われました。表彰された技術職員の皆さんは多彩で素晴らしく、他の技術職員の皆さんにとっても良い刺激となったのではないかと思います。

総会では 5 つの議題が審議されました。まず、森林管理技術賞について選考方針の一部変更と今後の選考日程について説明がありました。現在、教育関係共同利用拠点には、北海道大学、岩手大学、新潟大学、筑波大学、信州大学、静岡大学、京都大学、宮崎大学、鹿児島大学の 9 大学が認定されています。この中で、京都大学が令和 7 年度から再認定されることが報告されました。公開森林実習の令和 5 年度実績は、協定内の参加者が 81 名、協定外の参加者が 71 名の合計 152 名でした。今年度の公開森林実習では、新たに加わった宇都宮大を含め 18 大学から過去最多の 31 講座が提供される予定が示されました。共同研究については、6 課題の実施状況が報告されました。全演協のネットワークを生かした共同研究が進められており、さらなる発展を期待します。

報告事項では、会員校に対して行った運営状況に関するアンケート結果が公表されました。ほとんどの演習林では運営費や人員不足に苦慮しつつも、何とか教育研究活動を維持していました。しかし、現状が続けば、今後は教育研究機能を低下させざるを得ないと考えている大学が 8 割を超えていることが分かりました。さらに頻発する自然災害に対する演習

林の被害状況についても報告がありました。

来年度の春季理事会は 2025 年 5 月 16 日に北海道大学（札幌市）においてハイブリッド形式で、秋の理事会・各種委員会・総会は 2025 年 9 月 25 日にホテルニューイタヤ（宇都宮市）で開催する予定となっております。エクスカージョンでは 9 月 26 日に宇都宮大学農学部附属演習林（日光演習林）および日光杉並木街道を見学します。会員校の関係者の皆さまは奮ってご参加ください。

各大学のトピックス・研究業績は、本年報 39 号で紹介しておりますので、ぜひご覧ください。年報の主要な部分をウェブ公開しております。こちらも、ご活用いただければと思います。

最後になりましたが、文部科学省高等教育局専門教育課のみなさまほか関係各位、演習林が所属する各大学、農学部等の所属部局の教職員の皆さま、演習林が立地する自治体や地域の皆さまには、大学演習林に対して、引き続き、ご支援・ご指導をお願い申し上げます。

2025 年 1 月 全国大学演習林協議会長 揚妻直樹

<演習林の最近の話題>

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	3
山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター	4
宇都宮大学農学部附属演習林	6
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	7
信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター	8
三重大学大学院生物資源学研究科附属 紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 附属施設演習林	9
京都大学フィールド科学教育研究センター	10
鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター	12
愛媛大学農学部附属演習林	13
高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター	14
九州大学農学部附属演習林	15
鹿児島大学農学部附属演習林	16

北海道大学

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）採択

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

北海道大学（以下、本学）は文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に、「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」を申請し、採択されました。2024年度からの5か年で、本学が強みとしている農学、水産学、フィールド科学等の研究力を高め、地球環境の再生と持続的食料生産システムの実現を目指す研究拠点として整備する計画です。この事業において研究林は生態系モニタリングと生態系サービスの広域評価手法の開発などを担当します。今後、全演協会員校の皆さんには協力をお願いする場面が増えてくることと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



写真（左）7月に開催されたシンポジウムの様子



写真（右）左と同じシンポジウムのパネルディスカッションの様子

新たな研究センターの立ち上がりと2024年7月豪雨による被災

流域保全部門長 菊池 俊一

当大学では全学の教育研究支援組織として、2024年4月1日付で「山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター」を鶴岡キャンパスに設置しました。本センターの設置目的は、新たな視点からの土地利用・活用方法を検討し、森林資源の最大活用や野生動物管理の革新による農山村の再生を目指し、上名川演習林を舞台・材料として研究教育活動を進めることとなっています。農学部の教員を中心に5学部19名の教員で構成され、鶴岡市や民間研究組織との連携協力により研究成果の社会実装を目指すとされています。

当センターは①野生動物、②安全・健康、③森林資源管理、④生活・経済といった4つの研究部門により組織されています。①野生動物研究部門は、森林、農地、宅地の変化による影響を調べるために野生動物の生態を考慮した生息地予測、人間との関わりの中での加害性予測、マダニ感染症の媒介に関する調査を行い、合わせて効率化・低コスト化を可能とする野生動物モニタリング調査の新たな技術開発を行うことを目標としています。②安全・健康研究部門は、野生動物由来の感染症のリスク評価研究を行うため、野生動物の生息地の変化がマダニ類の保有する病原体や薬剤耐性菌による汚染にどのような影響をおよぼすかを調べるとしています。さらに地域社会ニーズに応えるため斜面崩壊(土砂崩れ)のリスク評価研究も行うとしています。③森林資源管理研究部門は、スギ人工林だけでなく多様な広葉樹林の森林バイオマス推定手法とその脱炭素機能(カーボンクレジット)の定量手法の開発を行うとともに、森林が有する生物多様性保全、土砂災害防止などの機能を総合的に評価する方法を開発するとしています。④生活・経済研究部門は、新しいコモズの提案とそれに関する合意形成の研究を行うとし、集落の再編の成功条件や外部人材および先端技術が果たす役割を評価しつつ、統合的アプローチを用いた新たな地域資源利用・管理のあり方を提示するとしています。このセンターに上名川演習林も一員として参画し、その目標達成に向けて研究教育活動の支援を進めていきたいと思っております。

その一方で、本年7月の豪雨により山形県や秋田県では大きな災害が発生し、演習林内でも林道全線において路面洗掘や法面崩落が多数発生しました。昨年に発生が確認された地すべり性崩壊により流出し河床に堆積していた土砂が今回の豪雨により再移動したことから河道が変わり、基幹道路に土砂流出する事態も生じました。この甚大な被害に対し職員総出で復旧作業を続けています。しかし、予算と人員は極めて限られているため、文科省災害復旧予算の獲得・執行に向けて動いています。ただ、毎年のように発生する大きな災害により演習林が組織として大いに疲弊していることは隠せない現実であると思っております。

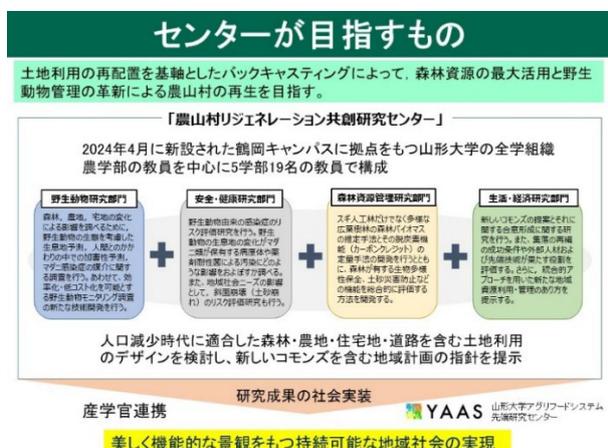


図 山形大学農山村リジェネレーション共創研究センターの目指すもの(2024年8月28日開催の当センターキックオフイベント説明資料より)



写真 河道が変わり河床堆積土砂が道路などに流出(2024年7月豪雨後に撮影)

宇都宮大学

宇都宮大学農学部附属演習林トピック（令和5年度）

宇都宮大学農学部附属演習林

○宇都宮大学農学部附属演習林と栃木県環境森林部で協定書締結

栃木県において林業大学校設置（令和6年度開校）に伴いその実習場所の一部として宇都宮大学農学部附属演習林（船生演習林）を利用することとなり、2024年（令和6年）3月に栃木県環境森林部と本学農学部において協定書を締結した。

実習内容は、当面は、植付（地拵え含む）、下刈り、枝打ち、間伐の実習地となる予定であるが、今後は、伐採、高性能林業機械を使用した造材等の実習利用も検討することとしている。

○公開森林実習の令和6年度からの開講に向け検討

宇都宮大学農学部附属演習林では、令和6年度から全演協における公開森林実習開設に向けて学内協議を進めて、令和6年度は、9月18日～20日の2泊3日で実施することとなった。

学内の意見を取り入れ、日光地域をフィールド利用した日光杉並木の保全や戦場ヶ原での森林と環境について学ぶ他、船生演習林にて里山における食と住に重点を置いた実習を検討中である。

特に里山における食については、地域の食材や本学農場で産出された食材を利用した実習を検討している。

○演習林組織に社会連携部を設置

令和5年度より、演習林組織に社会連携部を設置し、外部との連携を強化することとした。これに伴い経営部を「教育・経営部」へと変更し学内の演習林利用も促進していくこととなった。大久保演習林長（社会連携部主任兼任）が、学内外にアピールし、とちぎ環境・みどり推進機構主催の「里山塾」での演習林利用、本学共同教育学部（附属学校含む）や塩谷町立塩谷中学校での演習林材利用が開始された。特に塩谷中学校においては、演習林内での間伐教室やチェンソーの取り扱いについて学ぶ機会となった。

○船生演習林内にピザ窯設置

公開森林実習、地域連携、及び船生演習林を利用する様々な実習において食に関する実習教育のため船生演習林内にピザ窯を設置し、伐採時に発生する端材を薪として使用しSDGsに貢献している。

特に、本学地域デザイン科学部の一部教員からピザ窯設置について高評価を得ており、今後の演習林を利用し食に関する実習に利用して行きたいとのことであった。

○日光演習林（戦場ヶ原、太郎山演習林）の経営計画策定に着手

懸案であった、日光演習林の経営計画策定について、調査及び管理計画作成を開始し、令和6年度から適用に向け着手した。

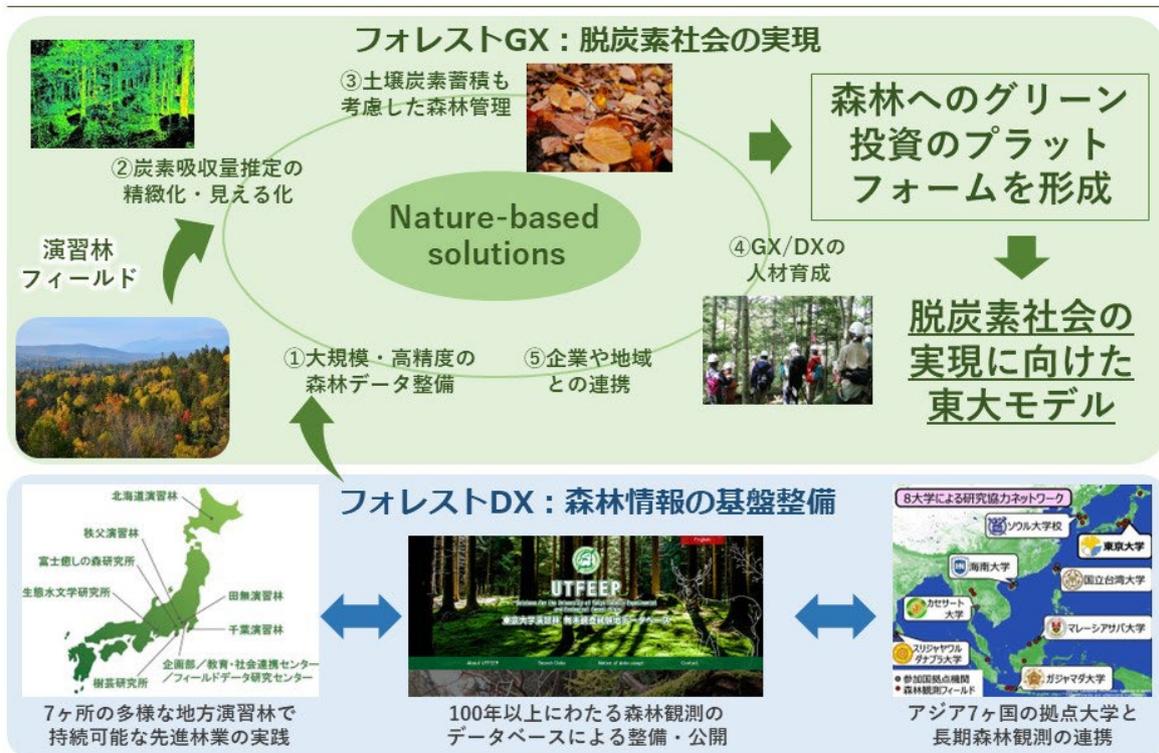
フォレスト GX/DX 協創センターの発足

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林では、令和6年度概算要求（教育研究組織改革分（組織整備））により、フィールドデータ研究センターを発展的に改組し、2024年4月にフォレスト GX/DX 協創センターを発足させた。本センターは、国土の3分の2を占める森林資源にフォーカスし、大規模・高精度の森林データ整備などの部局間連携研究、産学協創や社会協創を通じて、森林へのグリーン投資を呼び込むプラットフォームを形成し、脱炭素社会の実現に向けた東大モデルを作ることミッションとしている。脱炭素社会の実現に必要な経済社会システムの転換のため、Nature-based solutions（自然を活用した解決策）を展開し、次の5つの課題への取り組みを進めている。①大規模・高精度の森林データ整備、②森林の炭素吸収量推定の精緻化・見える化、③土壌炭素蓄積も考慮した森林管理技術の開発、④森林 GX/DX の人材育成、⑤地域の脱炭素化の計画策定へ向けた企業・自治体・地域社会との協創。また、アジアの拠点大学と連携を進め、将来的にアジアの森林 GX/DX 研究拠点の形成を目指している。



フォレストGX/DX協創センターの機能



信州大学

信州大学農学部附属演習林における 2024 年のトピック

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

公開森林実習：

令和 6 年度は台風 10 号の接近に伴い中止した，山岳環境保全学演習を除いた 4 つの公開森林実習を実施した。森林利用デザイン演習には東京都立大学と奈良県立大学，木材工学演習には新潟大学，農林フィールド基礎実習には宇都宮大学と新潟大学から受講生を得た。自然の成り立ちと山の生業演習は，北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの開講する森林フィールド講座・信州編として同時開講した。これらの実習には公開森林実習として受講した奈良県立大学と公立鳥取環境大学以外に，北海道大学，弘前大学，信州大学，大阪大学，岡山大学，日本大学から受講生を得た。中止となった山岳環境保全学演習には北海道大学，岐阜大学，東京農工大学，早稲田大学から受講生が応募していた。教育共同利用拠点再々認定の初年度にあたる本年度の実習では，各実習に SDGs の開発目標を掲げた。実習を体験したことで森林利用デザイン演習では目標 8 [経済成長と雇用]と目標 9 [インフラ、産業化、イノベーション]，木材工学演習では目標 15 [陸上資源]，自然の成り立ちと山の生業演習では目標 13 [気候変動]と目標 15 [陸上資源]に高い関心が寄せられた。

木材生産：

令和 6 年度はカラマツ林 6 ha の間伐による 1,000m³ の素材生産とそれに伴う 1,300m の森林作業道路の開設を目指している。これらの作業は業者請負で現在実施している。



森林利用デザイン演習での伐採現場の見学

演習林の最近の話題

三重大学大学院生物資源学研究科附属
紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター
附帯施設演習林

令和6年度の学生実習の多くは新型コロナウイルス発生前の参加人数・宿泊日数で開催された。ただし、調理等を行う臨時スタッフの不足から、同年度から食事は全て仕出し料理店への外注に切り替えることになった。一般向けの演習林利用も再開されており、令和5年12月には外部森林ボランティア団体の活動の受け入れを行った。

三重大学演習林では、間伐材や支障木を使用した木材製品を製作しており、三重大学内への設置や大学の記念品としての配布などで利用されている。最近では、三重大学生物資源学部・研究科内の一部の空間を演習林産の木材等を使って木質化した。



演習林材等を使って木質化したスペース

北海道研究林で花観察会プチフラワーソンを実施

京都大学フィールド科学教育研究センター

北海道では道内全域で6月中旬に一般市民が植物の開花状況を一斉調査する「フラワー・ウォッチング・マラソン」略して「フラワーソン」と呼ばれるイベントが1997年から5年ごとに開催されています。似たようなイベントに、見つけた野鳥の数を競う「バード・ウォッチング・マラソン」略して「バードソン」がありますが、「フラワーソン」では植物の種数を競うのではなく、道内における植物の分布情報・開花情報を充実させ、経年変化を把握するとともに、北海道の自然の移りかわりについて一般市民と一緒に考えていく機会とし、環境保護に対する意識を高めるとともに、イベントを通じた地域間のつながり形成も主要な目的とされています。

京都大学北海道研究林では2022年に開催されたフラワーソン参加後、北海道研究林独自の取組としてプチフラワーソンと題した研究林内の開花調査を開催することとし、フラワーソンに準じた方法で2023年から毎年一般参加者を募って実施しています。北海道研究林には標茶区と白糠区があるため、毎年交互に実施することで、それぞれの開花情報を蓄積し、植物相とその経年変化をより詳細に把握するとともに、地域の人々に研究林について知ってもらえる機会となることが期待できます。



写真1：小さな花を観察する



写真2：標本作成風景

2022年のフラワーソン参加時には北海道研究林でも一般市民の参加者を募って標茶区で観察会を実施したため、2023年は白糠区で開催し、研究林スタッフが釧路管内から集まった9名の一般参加者とともに林道や川辺を歩きながら花を探し記録しました。林内は昨年職員が同じ時期に実施した調査と比較し、春の花は既に終わっている一方で、夏の花にはまだ少し早かったようで、花の種類が少なく、少し寂しい感じでしたが、64種の植物（開花55種）が確認されました。観察終了後には一般参加者に研究資料としての押し葉標本を作製する体験もしていただき、これらの標本は研究林に蓄積していきたいと考えています。参加者からは「同じように見える植物でも何種類もあることに驚いた」などの感想が寄せられており、今後も足元の生態系を見守るきっかけとしての役割も果たしつつ、継続的に調査を続けていきたいと思えます。

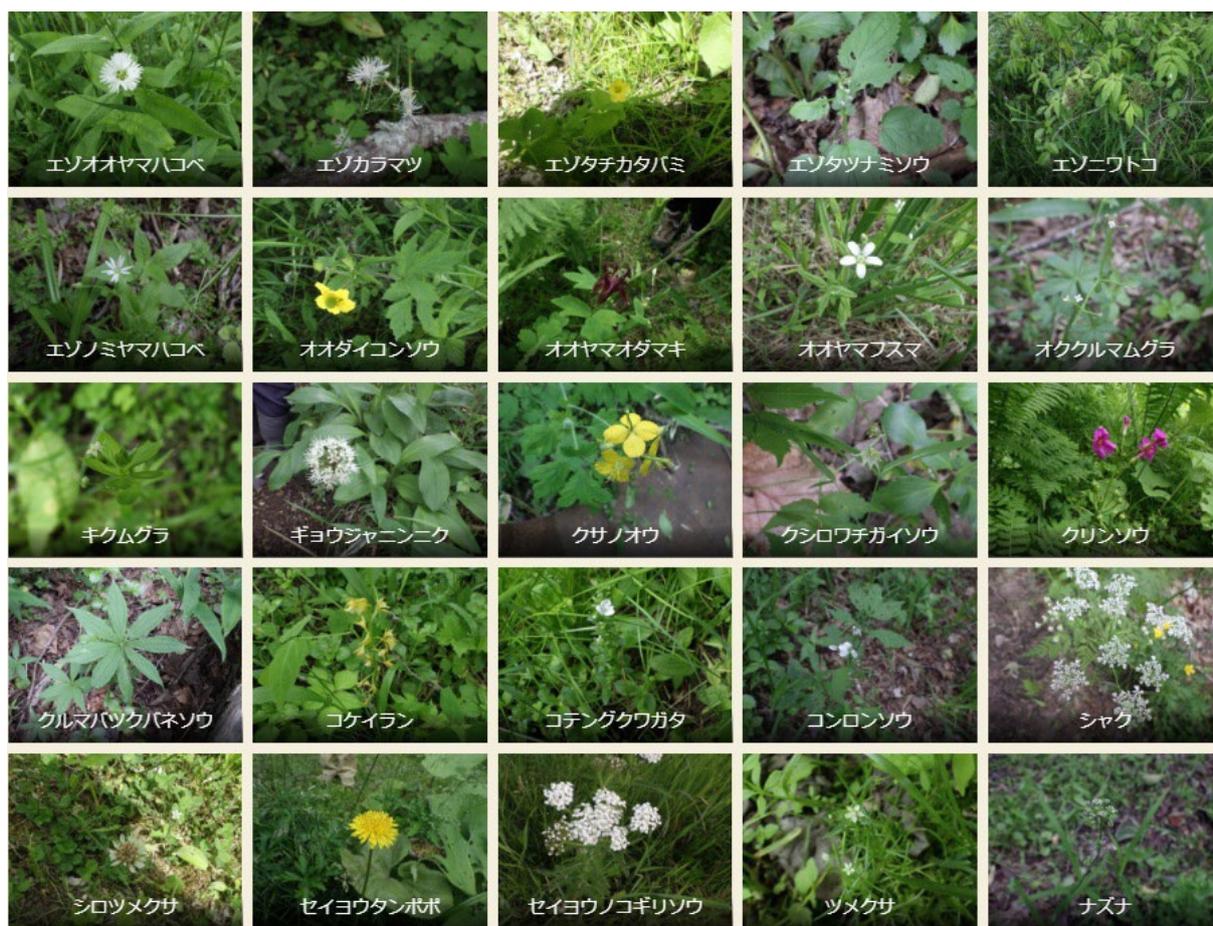


写真 3 : 観察された花の一部

鳥取大学教育研究林の近況

鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター

令和5年5月8日に新型コロナが5類感染症に移行されて以降、一般的な感染症対策（手洗いの励行など）は必要なものの、コロナ禍前の状況に戻つつある。延べ利用者は約1,700人とほぼコロナ禍前の水準に回復した。また、学外者主催の実習が4年ぶりに実施され、外部利用も増加してきた。一方で、宿泊利用者数は約500人とコロナ禍前の約半分の水準となっており、宿泊利用者の回復が待たれる。

令和5年8月の台風7号では教育研究林三朝の森において、林道の崩壊（写真1）、路面の侵食、集水桝の閉塞（写真2）など大きな被害を受けた。文部科学省の災害復旧補助金に採択され、修繕を行った。また、教育研究林蒜山の森では、令和2年のナラ枯れの激害から3年が経過して枯死木の腐朽が深刻になったことから、林道脇の危険木200本を伐倒処理した。宿泊施設の修繕（トイレ壁タイルの張替え）なども行っており、森林および宿泊施設の管理に尽力した。



写真1 路肩が崩壊した林道



写真2 閉塞した集水桝

最近の話題

愛媛大学農学部附属演習林

広葉樹材の販売

愛媛県内の木工所に対して、演習林内で伐採・製材された木材を販売した。この木材は調査・研究の際に伐採したものや、林道の支障木を伐採したものを、演習林事務所に設置の簡易製材機で板材に加工し、乾燥させていたものである。樹種はクリ、ミズナラ、イタヤカエデ、ケヤキなどで、家具や食器、おもちゃなどの製作に利用されている。

ニホンジカ防護柵のイノシシ害

本学演習林は愛媛県内でもニホンジカの密度の高い地域の一つ高縄半島に位置し、演習林内各所がシカの食害により林床植生がほとんど見られない中、防護柵内は雑草や草が生い茂った状態だった。しかし、2024年夏に2021年に施工した防護柵がイノシシと思われる動物によって穴をあけられる被害が発生した。当該防護柵は、ホームセンターで手に入る比較的安価な材料を用いて効果的な防除をおこなうことを目的に、京都大学の高柳敦先生によりご助言をいただきながら愛媛大学方式として開発しているもので、過去3年間に大きな被害は見られなかった。2024年は演習林内にこれまでになくイノシシが出現し、今後もこの傾向が続くのか注視したい。

老朽化した橋の架け替え工事

演習林内主要林道の橋の老朽化が懸念され、学内施設部による調査の結果3つの橋の老朽化が進行していることが判明した。この問題に対しては、橋の架け替えや補強、新たな道の新設など、予算の状況と合わせて検討してきた。そして、昨年度に3つの橋のうち1つを架け替えることが決定し、今年度に着工、完成した。

高知大学演習林の近況（令和6年度）

高知大学農林海洋科学部附属
暖地フィールドサイエンス教育研究センター森林生産環境部門

本学の暖地フィールドサイエンス教育研究センター（以下FSC）では、演習林は「嶺北フィールド」（組織としては「森林生産環境部門」）、農場は「南国フィールド」（組織としては「循環型暖地農業生産部門」）として運営を行っている。今年に入ってから技術職員の退職や異動があり、補充人事が進むまでは演習林の人手は苦しい状況ではあるが、農場と演習林の間で技術職員の担当についての融通を利かせるようにするなど、FSC全体の運営方法についても配慮をしていただき、実習や研究支援に支障がないように業務を進めているところである。今回の近況は、今年度当番校として実施した「中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修」について報告する。

11月12日（火）に高知大学物部キャンパスにて令和6年度中国・四国・近畿地区大学附属演習林協議会が開催され、7大学19名の出席があった（うちオンラインは6名）。夕方の懇親会には12名のご参加をいただいた。翌日11月13日（水）からの技術職員研修には、京都府立大学から1名、鳥取大学から1名、高知大学から職員1名、大学院生1名、学部生1名の計5名が参加した。今回のテーマは、2020年に嶺北フィールドで導入した森林3次元計測システム（OWL）による人工林の資源量調査などへの活用で、高知大学での活用事例の紹介や実際の操作体験と、他機関での活用事例などの情報交換を通して3次元計測システムの利用拡大について検討した。初日は高知県立森林技術センターの研究員にもご協力いただき、OWLの概要と使用方法などの講義を行った（写真1）。この日は演習林宿舎に泊まり、2日目の午前中は演習林にてOWLを用いた林分の材積計測や、スマホアプリによる造材された後の材積計測などの実習を行った（写真2）。昼前には演習林の北東境界に赴き、風力発電建設予定地付近の踏査を行った。この背景として、数年前に演習林の稜線付近に風力発電建設許可の打診があり、大学としては演習林内への建設やそのための林道使用は拒否したものの、隣接地に作られることとなり、すでに建設準備は始められていることがある。午後には、早明浦ダム湖畔の「湖の駅」で昼食を採った後、大豊町で2019年から稼働している風力発電施設「ユーラス大豊ウィンドファーム」を見学した。夕方は物部キャンパスに戻り、FSC棟で懇親会を行った。翌11月15日（金）は午前中にOWL等計測のデータ整理についての実習と講義を行った後、解散となった。今回の技術職員研修は、告知が遅くなってしまったこともあり参加者が少なかったが、その分機材を実際に用いての実習ではそれぞれの研修生が十分な持ち時間で操作などを行うことができ、充実度は高かったものと思われる。関係各位にこの場を借りてお礼申し上げる。

（森林生産環境部門長 鈴木保志）



写真1 宿舎講義室でのOWLに関する講義



写真2 演習林でのOWL等による材積計測

九州大学北海道演習林で観察された風穴*

九州大学北海道演習林

九州大学北海道演習林は十勝平野の内陸に位置する足寄郡足寄町の高標 100m から 450m の低標高域に所在します。演習林の天然生林には常緑針葉樹が混在せず、ミズナラやシラカンバ、エゾイタヤ、オオバボダイジュなどの落葉広葉樹林が広がっています。その演習林内に 1961 年に植栽されたカラマツ造林地の斜面には、高山を代表する植物であるコケモモが高密度に生育している群落（面積約 2500m²）が存在します。コケモモ群落付近では周辺で繁茂しているミヤコザサが見られませんでした。このコケモモ群落の周辺は夏季でも冷涼であり、サーモカメラによる計測では 8℃を記録したことから風穴による影響を受けている可能性が考えられました。風穴とは「山の斜面から夏に 0～10℃程度の冷たい風が吹き出す穴そのものやその現象」のことです。北海道では然別湖に大きな風穴地帯があり、ナキウサギがいることで有名です。

北海道の風穴植生は、「周囲の高木林と明瞭に区別される矮低木群落や低木群落など高山植物群落を形成する」、または「林冠は周囲の高木林と連続するが、林床においてササ類を欠き、亜高山植物や高山植物が出現する」とされています(佐藤 2015**)。当該地は後者にあたり、コケモモ群落の周辺で特異的にミヤコザサが生育していない範囲を風穴の影響が及ぶ風穴地とすると、風穴地内では、コケモモ、カラマツソウ、エゾミヤマハンショウヅル、オオタカネバラなどが分布しており、北海道における風穴を代表する植生(佐藤 2015)が観察されました。

サーモカメラが特に低温と示した岩の隙間の気温(風穴気温)と約 10m 離れた風穴地外の斜面上の地上 1.3m に設置した通風シェルター内の気温(風穴地外の気温)を 1 年間計測しました。測定期間中の風穴気温は最高 8.8℃、最低-16.7℃、平均は-0.7℃でした。風穴地外の気温は最高 31.6℃、最低-19.2℃、平均は 7.0℃でした。風穴地外の気温が 30℃を超える 8 月でも風穴気温は 5℃程度の低い値を示しました。風穴気温の日較差は最大 8.3℃、観測期間の 85%以上で 4℃以内でした。また、1 月には風穴地の斜面上方で対応する温風穴を示す融雪を確認しました。これは北海道演習林における初の風穴の記録となります。当該地以外でもコケモモの生息が確認されており、付近で風穴が確認されました。今後は風穴周辺の生物相の調査が期待されます。



*山内康平・榎木勉 (2023) 九州大学北海道演習林における風穴の気温と風穴地の植生. 九州大学演習林報告, 105: 5-12. <https://doi.org/10.15017/7172206> より

**佐藤謙 (2015) 北海道の風穴植生観察記. (日本の風穴—冷涼の仕組みと産業・観光への活用—. 古今書院, 東京). 142-156

令和7年度に鹿児島県立かごしま林業大学校が開校します

鹿児島大学農学部附属演習林

鹿児島大学農学部附属高隈演習林（以下、本演習）は、鹿児島県が令和7年度4月開校に向けて準備を進めている「かごしま林業大学校」に協力して、鹿児島県の林業技術者養成に取り組めます。かごしま林業大学校は、林業就業者向けの1年間の長期研修プログラムで、林業の基礎から最先端技術まで幅広い知識と技術を兼ね備えた安全意識が高く、即戦力となる人材の育成を目標としています（鹿児島県、林業大学校の設置に係る基本計画、2023.12）。

研修を実施する施設は、鹿児島県始良市にある県の林業研究試験場（現森林技術総合センター研修施設）に隣接する「森の研修館かごしま」と鹿児島県垂水市にある本演習林の2か所が計画されています。カリキュラムは、資格取得や林業基礎などの基本的項目、伐倒造材などの技術的項目、森林経営などの応用的項目など多岐に及び、本演習林では講義と演習林のフィールドを活かした実習を組み合わせながら研修を行う予定です。例えば、研修生が実習で調査したフィールドのスギを伐倒・造材して、柱材などの商品となった木材を実際に販売するなど、複数のカリキュラムや実習をフィールドで統合することで伐倒から販売までの一連の流れを体感でき、理解につながる仕組みづくりを構想しています。

本演習林は、2007年に開始した職業人教育プログラムである林業マイスター養成講座が今年で17年目を迎えるなど、新規就労者から林業経営者を含めた熟練技術者まで業界人に向けた幅広い研修プログラムが充実しています。南九州の林業を盛り上げていく一助になるよう今後も様々な取り組みを展開してまいります。

<令和6年度研究業績>

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション	19
岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	26
東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	27
山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター	29
宇都宮大学農学部附属演習林	29
新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	30
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	30
東京農工大学農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター	35
筑波大学山岳科学センター	36
信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター	38
静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	41
日本大学生物資源科学部演習林	42
東京農業大学地域環境科学部奥多摩演習林	42
名古屋大学大学院生命農学研究科附属 フィールド科学教育研究センター稲武・設楽フィールド	44
岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター	47
三重大学大学院生物資源学研究科附属 紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林	47
京都大学フィールド科学教育研究センター	49
京都府立大学環境科学部附属演習林	58
鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター	60
島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター	60
愛媛大学農学部附属演習林	60
高知大学農林海洋科学部附属 暖地フィールドサイエンス教育研究センター嶺北フィールド	61
九州大学農学部附属演習林	61
宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド	69
鹿児島大学農学部附属演習林	69
琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター	71

演習林を利用した研究業績及び演習林教職員の研究業績
2023年度(2023年4月～2024年3月)

北海道大学

北方生物圏フィールド科学センター

- AIHARA Takaki, ARAKI Kyoko, ONUMA Yunosuke, CAI Yihan, PAING Aye Myat Myat, GOTO Susumu, HISAMOTO Yoko, TOMARU Nobuhiro, HOMMA Kosuke, TAKAGI Masahiro, YOSHIDA Toshiya, IIO Atsuhiko, NAGAMATSU Dai, KOBAYASHI Hajime, HIROTA Mitsuru, UCHIYAMA Kentaro, TSUMURA Yoshihiko: Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges, *Heredity*, 131(5-6):387-397, <https://doi.org/10.1038/s41437-023-00655-0>, (2023.11) 雨龍研究林 他, 査読有
- AIHARA Takaki, ARAKI Kyoko, SARMAH Ragini, CAI Yihan, PAING Aye Myat Myat, GOTO Susumu, HISAMOTO Yoko, TANEDA Haruhiko, TOMARU Nobuhiro, HOMMA Kosuke, TAKAGI Masahiro, YOSHIDA Toshiya, IIO Atsuhiko, NAGAMATSU Dai, KOBAYASHI Hajime, HIROTA Mitsuru, TSUMURA Yoshihiko: Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens, *Journal of Forest Research*, 29(1): 62-71, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2289731>, (2023.12) 雨龍研究林 他, 査読有
- HE Zichen, NAGANUMA Takeshi, NAKAI Ryosuke, UETAKE Jun, HAHN Martin W.: Microbiomic Analysis of Bacteria Associated with Rock Tripe Lichens from Alpine Areas in Eastern Alps and Equatorial Africa, *Current Microbiology*, 81(5): 115, <https://doi.org/10.1007/s00284-024-03626-8>, (2024.3) 東アルプスおよび赤道アフリカ, 査読有
- HINO Takafumi, AGETSUMA Naoki, HIURA Tsutomu: Anthropogenic disturbances alter responses of understory plants to deer density; A 9-year deer density control experiment, *Forest Ecology and Management*, 537: 120928, <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2023.120928>, (2023.6) 苫小牧研究林 他, 査読有
- HOJO Ai, AVTAR Ram, NAKAJI Tatsuro, TADONO Takeo, TAKAGI Kentaro: Modeling forest above-ground biomass using freely available satellite and multisource datasets, *Ecological Informatics*, 74: 101973, <https://doi.org/10.1016/j.ecoinf.2023.101973>, (2023.5) 天塩研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- ISHIBASHI Yasuyuki, SAITOH Takashi: Parentage of 920 gray-sided voles (*Myodes rufocanus*) born in a 3-ha outdoor enclosure between September 1992 and May 1994, *Ecological Research*, 39(2): 250-254, <https://doi.org/10.1111/1440-1703.12431>, (2023.12) 札幌, 査読有
- KOBAYASHI Makoto, KITAGAWA Ryo, BLUME-WERRY Gesche: How do leaf functional traits and age influence the maximum rooting depth of trees?, *European Journal of Forest Research*, 142: 1197-1206, <https://doi.org/10.1007/s10342-023-01585-6>, (2023.6) 中部地方, 査読有
- KOBAYASHI Makoto, UTSUMI Shunsuke, ZENG Ruiqi, MAMIYA Wataru, MIYAZAKI Tohru, OKUYAMA Tomohiro, TANAKA Fumiya, YAMADA Takashi, YOSHIDA Toshiya: Which native legume or non-legume nitrogen-fixing tree is more efficient in restoring post-landslide forests along an environmental gradient?, *Forest Ecology and Management*, 554:121672, <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2023.121672>, (2024.2) 天塩研究林, 中川研究林, 雨龍研究林, 査読有
- KURATA Seikan, SAKAGUCHI Shota, HIROTA Shun K., KURASHIMA Osamu, SUYAMA Yoshihisa, ITO Motomi: Phylogeographic incongruence between two related *Geranium* species with divergent habitat preferences in East Asia, *Ecological Research*, 39(3): 273-288, <https://doi.org/10.1111/1440-1703.12458>, (2024.3) 九州、中国、四国地方および韓国, 査読有
- KURATA Seikan, SAKAGUCHI Shota, KURASHIMA Osamu, OGAWA Risa, SUYAMA Yoshihisa, NISHIDA Sachiko, ITO Motomi: Refugia within refugium of *Geranium yesoense* varieties: a follow-up study using chloroplast genome sequencing data of specimens from Mt. Asama, Japan, *Biological Journal of the Linnean Society*, 142(1): 1-7, <https://doi.org/10.1093/biolinnean/blad121>, (2024.1) 東京, 査読有
- MATSUYAMA Hiroyuki, DOI Kandai, AGETSUMA Naoki, SUZUKI Maki: Quantifying the direct and indirect effects of sika deer (*Cervus nippon*) on the prevalence of infection with *Rickettsia* in questing *Haemaphysalis megaspinosus*; A field experimental study, *Ticks and Tick-borne Diseases*, 14(5): 102201, <https://doi.org/10.1016/j.ttbdis.2023.102201>, (2023.9) 苫小牧研究林, 査読有
- MATSUZAWA Yuki, FUKUDA Shinji, OHIRA Mitsuru, De BAETS Bernard: Modelling fish

- co-occurrence patterns in a small spring-fed river using a machine learning approach, *Ecological Indicators*, 151: 110234, <https://doi.org/10.1016/j.ecolind.2023.110234>, (2023.7) 東京, 査読有
- MITSUO Yoshito, OHIRA Mitsuru, TSUNODA Hiroshi, YUMA Masahide: Effects of anthropogenic shoreline alteration on fish emigration from small lakes, *Limnology*, 24: 217-225, <https://doi.org/10.1007/s10201-023-00720-x>, (2023.4) 岩手, 査読有
- MORI Akira S., SUZUKI Kureha F., HORI Masakazu, KADOYA Taku, OKANO Kotaro, URAGUCHI Aya, MURAOKA Hiroyuki, SATO Tamotsu, SHIBATA Hideaki, SUZUKI-OHNO Yukari, KOBAYASHI Keisuke, TODA Mariko, NAKANO Shin-ichi, KONDOH Michio, KITAJIMA Kaoru, NAKAMURA Masahiro: Perspective; sustainability challenges, opportunities and solutions for long-term ecosystem observations, *Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences*, 378(1881), <https://doi.org/10.1098/rstb.2022.0192>, (2023.5) 世界各地, 査読有
- AGATA Yu, ISHIYAMA Nobuo, NAKAMURA Futoshi, SHIBATA Hideaki, FUKUZAWA Karibu, MORIMOTO Junko: Contribution of Hydrological Connectivity in Maintaining Aquatic Plant Communities in Remnant Floodplain Ponds in Agricultural Landscapes, *Wetlands*, 43: 38, <https://doi.org/10.1007/s13157-023-01684-5>, (2023.4) 十勝地方, 査読有
- NAKA Minagi, MASUMOTO Shota, NISHIZAWA Keita, MATSUOKA Shunsuke, TATSUMI Shinichi, KOBAYASHI Yuta, SUZUKI Kureha F., XU Xinyu, KAWAKAMI Tomoya, KATAYAMA Noboru, KOBAYASHI Makoto, OKADA Kei-Ichi, UCHIDA Masaki, TAKAGI Kentaro, MORI Akira S.: Long-term Consequences on Soil Fungal Community Structure; Monoculture Planting and Natural Regeneration, *Environmental management*, 73(4): 777-787, <https://doi.org/10.1007/s00267-023-01917-7>, (2023.12) 北日本, 査読有
- NAKAJI Tatsuro, MAKITA Naoki, KATAYAMA Ayumi, OGUMA Hiroyuki: Belowground spectroscopy; Novel spectral approach for estimation of vertical and species-specific distributions of forest soil characteristics and heterotrophic respiration, *Agricultural and Forest Meteorology*, 339: 109563, <https://doi.org/10.1016/j.agrformet.2023.109563>, (2023.8) 日本, 査読有
- NAKAYA Akira, OSAKI Hisashi, OHNO Yasuyuki, YOSHIDA Toshiya: Tree and stand characteristics associated with the occurrence of false heartwood in individual Japanese white birch trees, *Canadian Journal of Forest Research*, 54(5): 601, <https://doi.org/10.1139/cjfr-2023-0213>, (2024.3), 北海道, 査読有
- OBATA Ai, YOSHIDA Toshiya, HIURA Tsutomu: Estimation of stand biomass and species-specific biomass in Japanese northern mixed forests in 1920–1930s; Understanding environmental factors affecting carbon sequestration before recent climate change, *Ecological Indicators*, 154: 110495, <https://doi.org/10.1016/j.ecolind.2023.110495>, (2023.10) 天塩研究林, 中川研究林, 雨龍研究林, 査読有
- OHIRA Mitsuru, FUKUDA Shinji: Exploring functional flow heterogeneity in regulated flow regime; fish species turnover along hydraulic gradients in an artificial waterway network, *River Research and Applications*, 39(10): 1961-1971, <https://doi.org/10.1002/rra.4199>, (2023.8) 多摩川流域, 査読有
- OKAWA Ryunosuke, SAITOH Takashi, NODA Takashi: Interactive effects of two rodent species on the seed dispersal of the Japanese walnut, *Scientific Report*, 13: 18098, <https://doi.org/10.1038/s41598-023-44513-9>, (2023.1) 中川研究林, 査読有
- ONO Masato, TAKEUCHI Nozomu, TSUSHIMA Akane, ONUMA Yukihiro, KOBAYASHI Kino, SETO Daiki, USUBA Suzunosuke, KONISHI Fuki, UETAKE Jun: Spatiotemporal changes in communities of snow-ice microbes living on Gulkana Glacier, Alaska, *EGU General Assembly 2023*, EGU23-1690, <https://doi.org/10.5194/egusphere-egu23-1690>, (2023.5) アラスカ, 査読有
- PAING Aye Myat Myat, CHEN Shufen, ARAKI Kyoko, AIHARA Takaki, SARMAH Ragini, HIROTA Mitsuru, TSUMURA Yoshihiko, TOMARU Nobuhiro, HOMMA Kousuke, KADOMATSU Masahiko, YOSHIDA Toshiya, KOBAYASHI Hajime, IIO Atsuhiko, OSUMI Katsuhiko, NAGAMATSU Dai, TAKAGI Masahiro, TANEDA Haruhiko, KIMURA Noriyuki, FUKUOKA Satoshi, HISAMOTO Yoko, GOTO Susumu: Site characteristics of *Betula ermanii* range-wide provenance trials [revised version], *Miscellaneous Information of The University of Tokyo Forests*, 63: 11-22, <https://doi.org/10.15083/0002008357>, (2024.3) 雨龍研究林 他, 査読有
- SAKAI Masaru, OHIRA Mitsuru, GOMI Takashi: Spatiotemporal patterns in differences between the ¹³⁷Cs concentrations of forest and stream litters; effect of leaching, *Environmental Science: Processes & Impacts*, 25: 1385-1390, <https://doi.org/10.1039/D3EM00236E>, (2023.7) 福島県、群馬県, 査読有
- SHI Cong, MASUI Noburu, KOIKE Takayoshi, TERADA Chisato, NAKAMURA Masahiro, WATANABE Toshihiro: Leaf defense traits of birch, beech, and oak saplings grown under two types of soil in a

- free-air ozone exposure system, *Journal of Forest Research*, 29(1): 19–29, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2280730>, (2023.11) 札幌研究林, 査読有
- SHI Weili, ZHOU Zhongliang, LETCHER Benjamin H., HITT Nathaniel, KANNO Yoichiro, FUTAMURA Ryo, KISHIDA Osamu, MORITA Kentaro, LI Sheng: Aging Contrast; A Contrastive Learning Framework for Fish Re-identification Across Seasons and Years, *Lecture Notes in Computer Science*, 14471: 252-264, https://doi.org/10.1007/978-981-99-8388-9_21, (2023.11) 苫小牧研究林, 査読有
- SUGAI Tetsuto, ISHIZUKA Wataru, MASUMOTO Taiga, ENDO Izuki, IDE Jun'ichiro, FUJITA Saki, KOBAYASHI Makoto, MAKITA Naoki: Spring Growth Variation in Pioneer and Fibrous Roots in *Abies sachalinensis* Seedlings from Provenances with Contrasting Snow Cover Environments, *International Journal of Plant Sciences*, 185(2): 187-197, <https://doi.org/10.1086/728188>, (2024.3) 北部北海道, 査読有
- UETAKE Jun, ONO Masato, USUBA Suzunosuke, TSUSHIMA Akane, TAKEUCHI Nozomu: Dense spatial variation of the eukaryotic and prokaryotic communities on the Gulkana Glacier, Alaska, *EGU General Assembly 2023*, EGU23-11725, <https://doi.org/10.5194/egusphere-egu23-11725>, (2023.5) アラスカ, 査読有
- YANG Ru, FUKUZAWA Karibu, NAKAYAMA Masataka, TATENO Ryunosuke, HISHI Takuo, SHIBATA Hideaki, CHIWA Masaaki: Nitrate leaching and its susceptibility in response to elevated nitrogen deposition in Japanese forests, *Journal of Forest Research*, 29(2): 81-88, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2242542>, (2023.8) 中川研究林 他, 査読有
- YOSHIKAWA Tetsuro, TOTSU Kumiko, NAKAMURA Masahiro, et. al: Forest monitoring data of 45 plots across the Japanese archipelago during 1980–2021, *Ecological Research*, 39(3): 391-406, <https://doi.org/10.1111/1440-1703.12457>, (2024.3) 苫小牧研究林、和歌山研究林 他, 査読有
- ZENG Ruiqi, KOBAYASHI Makoto: Is the Fine Root Tensile Strength Predictable from Structural and Morphological Traits across Mycorrhizal Types in Cool-Temperate Woody Species?, *Forests*, 14(8): 1542, <https://doi.org/10.3390/f14081542>, (2023.6) 名寄, 査読有
- 新井 孝尚, 福澤 加里部, 黒川 紘子, 彦坂 幸毅, 中静 透, 柴田 英昭: 八甲田山における地温変化が土壌窒素無機化速度に及ぼす影響, *日本生態学会誌*, 74(1): 1-9, https://www.doi.org/10.18960/seitai.74.1_1, (2024.3) 八甲田山, 査読有
- 遠藤 大斗, 宇野 裕美, 岸田 治, 森田 健太郎: 北海道北部のプトカマベツ川におけるイトウ *Parahucho perryi* の生息環境特性, *保全生態学研究*, 28(2): 453-465, <https://doi.org/10.18960/hozen.2318>, (2023.12) 雨龍研究林, 査読有
- 五味 高志, 猪越 翔大, 荒田 洋平, 小柳 賢太, 大平 充: 流域的視点を踏まえた森林科学と応用地形学; 森林植生と地形プロセスの相互作用とその時空間スケール, *地形*, 44(4): 149-185, (2023.12) 査読有
- 宮崎 徹: 雨龍研究林における高性能林業機械の運用と課題, *北方森林保全技術*, 41: 8, <http://hdl.handle.net/2115/90723>, (2023) 雨龍研究林, 査読有
- CERTINI Giacomo, KWON TaeOh, ROMPATO Bianca, DJUKIC Ika, FORTE Claudia: Decomposition of green tea and rooibos tea across three monospecific temperate forests; Effect of litter type and tree species, *Heliyon*, 9(6), <https://doi.org/10.1016/j.heliyon.2023.e16689> (2023.6), 査読有
- KAMIYAMA Chiho, HORI Keiko, MATSUI Takanori, PRETTY Jules, SAITO Osamu: Longitudinal analysis of home food production and food sharing behavior in Japan; multiple benefits of local food systems and the recent impact of the COVID-19 pandemic, *Sustainability Science*, 18: 2277-2291, <https://doi.org/10.1007/s11625-023-01363-8> (2023.11), 札幌研究林, 査読有
- KOBAYASHI Makoto, UTSUMI Shunsuke, ZENG Ruiqi, MAMIYA Wataru, MIYAZAKI Tohru, OKUYAMA Tomohiro, TANAKA Fumiya, YAMADA Takashi, YOSHIDA Toshiya: Which native legume or non-legume nitrogen-fixing tree is more efficient in restoring post-landslide forests along an environmental gradient?, *Forest Ecology and Management*, 554: 121672, <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2023.121672> (2024.2), 天塩研究林、中川研究林、雨龍研究林, 査読有
- LAHOTI Shruti Ashish, WITHANINGSIH Susanti, LOMENTE Laizha, KAMIYAMA Chiho, DE LUNA Catherine, SAHLE Mesfin, MALIK Annas Dwitri, PARIKESIT Pampang, PULHIN Juan, HASHIMOTO Shizuka, SAITO Osamu: Exploring bioproduction systems in socio-ecological production landscapes and seascapes in Asia through solution scanning using the Nature Futures Framework, *Sustainability Science*, Early View, <https://doi.org/10.1007/s11625-023-01338-9>

- (2023.7), 北管理部, 査読有
- MORITA Kentaro, Tsuboi Jun-ichi, SAHASHI Genki, FUTAMURA Ryo, UEDA Kazutoshi, KUROKI Mari: Longitudinal structuring of stream-fish assemblages; is niche partitioning observed in two-species systems applicable to three-species systems?, *Ichthyological Research*, <https://doi.org/10.1007/s10228-023-00937-x>, (2023.11) 瀬戸瀬川, 査読有
- NAKAYA Akira, OSAKI Hisashi, OHNO Yasuyuki, YOSHIDA Toshiya: Tree and stand characteristics associated with the occurrence of false heartwood in individual Japanese white birch trees, *Canadian Journal of Forest Research*, 54(5): 601-610, <https://doi.org/10.1139/cjfr-2023-0213> (2024.3), 雨龍研究林, 査読有
- SHI Cong, MASUI Noburu, KOIKE Takayoshi, TERADA Chisato, NAKAMURA Masahiro, WATANABE Toshihiro: Leaf defense traits of birch, beech, and oak saplings grown under two types of soil in a free-air ozone exposure system, *Journal of Forest Research*, 29(1): 19-29, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2280730> (2023.7) 札幌研究林, 査読有
- SHI Weili, ZHOU Zhongliang, LETCHER Benjamin H., HITT Nathaniel, KANNO Yoichiro, FUTAMURA Ryo, KISHIDA Osamu, MORITA Kentaro, LI Sheng: Aging Contrast; A Contrastive Learning Framework for Fish Re-identification Across Seasons and Years, *Lecture Notes in Computer Science*, 14471: 252-264, https://doi.org/10.1007/978-981-99-8388-9_21, (2023.11) 苫小牧研究林, 査読有
- ZENG Ruiqi, KOBAYASHI Makoto: Is the Fine Root Tensile Strength Predictable from Structural and Morphological Traits across Mycorrhizal Types in Cool-Temperate Woody Species? *Forests*, 14(8): 1542, <https://doi.org/10.3390/f14081542>, (2023.7) 北管理部, 査読有
- 遠藤 大斗, 宇野 裕美, 岸田 治, 森田 健太郎: 北海道北部のブトカマベツ川におけるイトウ *Parahucho perryi* の生息環境特性, *保全生態学研究*, 28(2): 453-465, <https://doi.org/10.18960/hozen.2318>, (2023.12) 雨龍研究林, 査読有
- 二村 凌: Ecological studies on size-dependent growth tactics before migration in masu salmon (*Oncorhynchus masou*) (サクラマスにおける回遊前のサイズ依存成長戦略に関する生態学的研究), 環境科学院・生物圏科学専攻・森林圏環境科学コース, 博士論文, (2024.3)
- LITANG Francis Agreement Felix: Improvement of above ground biomass estimation model using UAV-LiDAR in cool temperate secondary forest (冷温帯二次林における UAV-LiDAR を用いた地上部バイオマス予測モデルの改良), 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.3)
- 菅原 悠斗: 気候変動と人工林化が土壌微生物群集の分解機能に与える地域スケールの影響, 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.3)
- 蘇 子墨: Effects of climate change on the evergreen conifer saplings regenerating from coarse woody debris in a boreal forest (気候変動が北方林で倒木更新する常緑針葉樹の稚樹へ及ぼす影響), 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.2)
- 馬 鋭麒: Long-term warming effects on soil CO₂ and CH₄ fluxes in a cool-temperate forested peatland in northern Hokkaido (長期地温上昇処理が北海道北部の冷温帯植林泥炭地土壌の CO₂・CH₄ 交換量に与える影響), 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.2)
- 村上 萌: 針広混交林における葉リターの重なり方がリターベッドの燃えやすさに及ぼす影響, 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.2)
- 村松 寛太: Riverscape features shape distribution of Japanese eel (*Anguilla japonica*) in the northern limit (河川の景観特性が形作る北限域におけるニホンウナギの分布), 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.2)
- 森山 泉梨: Habitat shift of highly sedentary species; Individual tracking reveals behavioral ecology of masu salmon (*Oncorhynchus masou*) (定住性の強い動物のハビタット変更: 個体追跡で迫るサクラマスの行動生態), 環境科学院 生物圏科学専攻 森林圏フィールド科学コース, 修士論文, (2024.2)
- AKAGAMI Kota: Review of the species of *Sorolopha* Lower (Lepidoptera: Tortricidae) in Japan, with descriptions of three new species, *Zootaxa*, 5278(1): 131-142, <https://doi.org/10.11646/zootaxa.5278.1.6>, (2023.5) 和歌山研究林, 査読有
- FU Dongchuan, CHIWA Masaaki: Contrasting nitrate leaching from an abandoned Moso bamboo forest and a Japanese cedar plantation; role of vegetation in mitigating nitrate leaching, *Plant and Soil*, 492:

- 229-240, <https://doi.org/10.1007/s11104-023-06167-4>, (2023.11) 北管理部, 査読有
- HINO Takafumi, AGETSUMA Naoki, HIURA Tsutom: Anthropogenic disturbances alter responses of understory plants to deer density; A 9-year deer density control experiment, *Forest Ecology and Management*, 537:120928, <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2023.120928>, (2023.6) 苫小牧研究林, 査読有
- HOJO Ai, AVTAR Ram, NAKAJI Tatsuro TADONO, Takeo, TAKAGI Kentaro: Modeling forest above-ground biomass using freely available satellite and multisource datasets, *Ecological Informatics*, 74: 101973, <https://doi.org/10.1016/j.ecoinf.2023.101973>, (2023.5) 天塩研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- HOTTA Wataru, HAGA Chihiro, MORIMOTO Junko, SUZUKI Satoshi N., MATSUI Takanori, OWARI Toshiaki, Shibata Hideaki, NAKAMURA Futoshi: Leaving disturbance legacies conserves boreal conifers and maximizes net CO₂ absorption under climate change and more frequent and larger windthrow regimes, *Landscape Ecology*, 38: 1785-1805, <https://doi.org/10.1007/s10980-023-01680-4>, (2023.5) 北管理部, 査読有
- ISHIGURO Tomoki, JOHNSON Marc T. J., UTSUMI Shunsuke: Urban spatial heterogeneity shapes the evolution of an antiherbivore defense trait and its genes in white clover, *Oikos*, <https://doi.org/10.1111/oik.10210>, (2023.12) 札幌研究林, 査読有
- KATAYAMA Naoki, FUJITA Taku, UETA Mutsuyuki, MORELLI Federico, AMANO Tatsuya: Effects of human depopulation and warming climate on bird populations in Japan, *Conservation Biology*, 38(2): e14175, <https://doi.org/10.1111/cobi.14175>, (2023.8) 雨龍研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- KATSURA Shin'ya, SUZUKI Yuko, YOSHINO Takahiko: Saturated hydraulic conductivity and water retention curve of variably weathered tuff breccia bedrock in a headwater catchment, *Journal of Hydrology*, 632: 130889, <https://doi.org/10.1016/j.jhydrol.2024.130889>, (2024.2) 雨龍研究林, 査読有
- KITAOKA Satoshi, QU Laiye, KANETOSHI Masatoshi, WATANABE Yoko, FUJITA Saki, KOIKE Takayoshi: Photosynthetic nitrogen utilization of *Robinia pseudoacacia*, an invasive species, grown in contrasting light conditions; A leaf scale approach, *Annals of Applied Biology*, 184: 61-71, <https://doi.org/10.1111/aab.12857>, (2023.7) 札幌研究林, 査読有
- KITAOKA Satoshi, SHI Cong, WATANABE Toshihiro, KOIKE Takayoshi: Ecophysiological difference in co-existing beech and oak saplings grown in different soil types under a free-air ozone exposure system, *Journal of Forest Research*, 29(1): 30-37, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2290765>, (2023.12) 札幌研究林, 査読有
- KOBAYASHI Makoto, KITAGAWA Ryo, BLUME-WERRY Gesche: How do leaf functional traits and age influence the maximum rooting depth of trees?, *European Journal of Forest Research*, 142: 1197-1206, <https://doi.org/10.1007/s10342-023-01585-6>, (2023.6) 北管理部, 査読有
- KOBAYASHI Makoto, UTSUMI Shunsuke, ZENG Ruiqi, MAMIYA Wataru, MIYAZAKI Tohru, OKUYAMA Tomohiro, TANAKA Fumiya, YAMADA Takashi, YOSHIDA Toshiya: Which native legume or non-legume nitrogen-fixing tree is more efficient in restoring post-landslide forests along an environmental gradient?, *Forest Ecology and Management*, 554: 121672, <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2023.121672>, (2024.2) 天塩研究林, 中川研究林, 雨龍研究林, 査読有
- KOYAMA Masato, TAMAI Yutaka, SHIGETOMI Kengo, SANO Yuzou: Evaluation of antifungal activities of woody plant barks using an incubation system with *Trametes versicolor* *Trees*, 38: 37-47, <https://doi.org/10.1007/s00468-023-02464-8>, (2023.11) 札幌研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- KUSAKABE Gen, MORI Hideki, HIURA Tsutom: Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types, *Basic and Applied Ecology*, 72: 1-9, <https://doi.org/10.1016/j.baae.2023.08.001>, (2023.11) 雨龍研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- MASUI Noboru, INOUE Shiro, AGATHOKLEOUS Evgenios, MATSUURA Hideyuki, Koike Takayoshi: Elevated ozone alters long-chain fatty acids in leaves of Japanese white birch saplings, *Environmental Science and Pollution Research*, 30: 79161-79170, <https://doi.org/10.1007/s11356-023-28056-0>, (2023.7) 札幌研究林, 査読有
- MASUI Noboru, SHIOJII Kaori, TANI Akira, AGATHOKLEOUS Evgenios, KOIKE Takayoshi: Elevated O₃ threatens biological communications mediated by plant volatiles; A review focusing on the urban environment, *Critical Reviews in Environmental Science and Technology*, 53(22): 1982-2001,

- <https://doi.org/10.1080/10643389.2023.2202105>, (2023.4) 札幌研究林, 査読有
- MASUI Noboru, WATANABE Yoko, TOBITA Hiroyuki, KOIKE Takayoshi: Feeding of leaf beetle to two species of alder grown under two different soils in a Free Air CO₂ Enrichment, *Journal of Forest Research*, 29(1): 11-18, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2290763>, (2023.11) 札幌研究林, 査読有
- MORI Akira S., SUZUKI Kureha F., HORI Masakazu, KADOYA Taku, OKANO Kotaro, URAGUCHI Aya, MURAOKA Hiroyuki, SATO Tamotsu, SHIBATA Hideaki, SUZUKI-OHNO Yukari, Koba Keisuke, TODA Mariko, NAKANO Shin-ichi, KONDOH Michio, KITAJIMA Kaoru, NAKAMURA Masahiro: Perspective; sustainability challenges, opportunities and solutions for long-term ecosystem observations, *Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences*, 378(1881), <https://doi.org/10.1098/rstb.2022.0192>, (2023.5) 天塩研究林, 中川研究林, 雨龍研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- NAGATA Yu, ISHIYAMA Nobuo, NAKAMURA Futoshi, SHIBATA Hideaki, FUKUZAWA Karibu, MORIMOTO Junko: Contribution of Hydrological Connectivity in Maintaining Aquatic Plant Communities in Remnant Floodplain Ponds in Agricultural Landscapes, *Wetlands*, 43: 38, <https://doi.org/10.1007/s13157-023-01684-5>, (2023.4) 北管理部, 査読有
- NAKA Minagi, MASUMOTO Shota, NISHIZAWA Keita, MATSUOKA Shunsuke, TATSUMI Shinichi, KOBAYASHI Yuta, SUZUKI Kureha F., XU Xinyu, KAWAKAMI Tomoya, KATAYAMA Noboru, KOBAYASHI Makoto, OKADA Kei-ichi, UCHIDA Masaki, TAKAGI Kentaro, MORI Akira S.: Long-term Consequences on Soil Fungal Community Structure; Monoculture Planting and Natural Regeneration, *Environmental Management*, 73: 777-787, <https://doi.org/10.1007/s00267-023-01917-7>, (2023.12) 天塩研究林, 査読有
- NAKAHAMA Naoyuki, KURATA Seikan, USHIMARU Atushi: Contribution of genetic analyses to semi-natural grassland biodiversity conservation in Japan, *Plant Species Biology*, 38(4): 158-170, <https://doi.org/10.1111/1442-1984.12424>, (2023.5), 日本, 査読有
- NAKAYA Akira, OSAKI Hisashi, OHNO Yasuyuki, YOSHIDA Toshiya: Tree and stand characteristics associated with the occurrence of false heartwood in individual Japanese white birch trees, *Canadian Journal of Forest Research*, 54(5): 601-610, <https://doi.org/10.1139/cjfr-2023-0213>, (2024.3) 雨龍研究林, 査読有
- NAKAZAWA Takefumi, KATAYAMA Noboru, UTSUMI Shunsuke, YAMAWO Akira, YAMAMICHI Masato: When to help juveniles, adults, or both; analyzing the evolutionary models of stage-structured mutualism, *Frontiers in Ecology and Evolution*, <https://doi.org/10.3389/fevo.2023.1138138>, (2023.6) 札幌研究林, 査読有
- OBATA Ai, YOSHIDA Toshiya, HIURA Tsutomu: Estimation of stand biomass and species-specific biomass in Japanese northern mixed forests in 1920–1930s; Understanding environmental factors affecting carbon sequestration before recent climate change, *Ecological Indicators*, 154: 110495, <https://doi.org/10.1016/j.ecolind.2023.110495>, (2023.10) 雨龍研究林, 北管理部, 査読有
- PAING Aye Myat Myat, CHEN Shufen, ARAKI Kyoko, AIHARA Takaki, SARMAH Ragini, HIROTA Mitsuru, TSUMURA Yoshihiko, TOMARU Nobuhiro, HOMMA Kousuke, KADOMATSU Masahiko, YOSHIDA Toshiya, KOBAYASHI Hajime, IIO Atsuhiko, OSUMI Katsuhiko, NAGAMATSU Dai, TAKAGI Masahiro, TANEDA Haruhiko, KIMURA Noriyuki, FUKUOKA Satoshi, HISAMOTO Yoko, GOTO Susumu: Site characteristics of *Betula ermanii* range-wide provenance trials [revised version], *Miscellaneous Information of The University of Tokyo Forests*, 63: 11-22, <https://doi.org/10.15083/0002008357>, (2024.3) 北管理部, 査読有
- SAHASHI Genki, MORITA Kentaro: Partial Migration in Salmonids; Focusing on Asian Endemic Masu Salmon (*Oncorhynchus masou*) and White-Spotted Charr (*Salvelinus leucomaenis*), *Fish & Fisheries Series*, 44: 255-278, https://doi.org/10.1007/978-3-031-44389-3_12, (2024.2) 雨龍研究林, 査読有
- SHI Cong, MASUI Noboru, KOIKE Takayoshi, TERADA Chisato, NAKAMURA Masahiro, WATANABE Toshihiro: Leaf defense traits of birch, beech, and oak saplings grown under two types of soil in a free-air ozone exposure system, *Journal of Forest Research*, 29(1): 19-29, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2280730>, (2023.11) 札幌研究林, 査読有
- SUGAI Tetsuto, ISHIZUKA Wataru, MASUMOTO Taiga, ENDO Izuki, IDE Jun'ichiro, FUJITA Saki, KOBAYASHI Makoto, MAKITA Naoki: Spring Growth Variation in Pioneer and Fibrous Roots in *Abies sachalinensis* Seedlings from Provenances with Contrasting Snow Cover Environments, *International Journal of Plant Sciences*, 185(2): 187-197, <https://doi.org/10.1086/728188>, (2024.3) 北

- 管理部, 査読有
- The Herbivory Variability Network (ROBINSON M. L., UTSUMI Shunsuke, KAGIYA Shinnosuke, et al.): Plant size, latitude, and phylogeny explain within-population variability in herbivory, *SCIENCE*, 382(6671): 679-683, <https://doi.org/10.1126/science.adh8830>, (2023.11) 雨龍研究林, 査読有
- VEGH Lea, KATO Tomomichi: Modified SEIB-DGVM enables simulation of masting in a temperate forest, *Ecological Modeling*, 488: 110577, <https://doi.org/10.1016/j.ecolmodel.2023.110577>, (2023.12) 雨龍研究林, 査読有
- WATANABE Makoto, HOSHIKA Yasutomo, KOIKE Takayoshi: Physiological ecology of woody species under changing environments, *Journal of Forest Research*, 29(1): 1-2, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2291743>, (2024.1) 札幌研究林, 査読有
- YAMAKI Takatoshi, MIYAMOTO Toshizumi, MASUYA Hayato, URABE Satoshi, SAITO Hideyuki, SHIBUYA Masato: New vectors: *Scolytus chikisanii* and *S. japonicus* (Scolytidae) associated with Dutch elm disease in Hokkaido, Japan, *Journal of Forest Research*, 29(3): 228-232, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2286040>, (2023.11) 苫小牧研究林, 札幌研究林, 査読有
- YANG Ru, FUKUZAWA Karibu, NAKAYAMA Masataka, TATENNO Ryunosuke, HISHI Takuo, SHIBATA Hideaki, CHIWA Masaaki: Nitrate leaching and its susceptibility in response to elevated nitrogen deposition in Japanese forests, *Journal of Forest Research*, 29(2): 81-88, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2242542>, (2023.8) 中川研究林, 査読有
- YANG Ru, FUKUZAWA Karibu, NAKAYAMA Masataka, TATENNO Ryunosuke, HISHI Takuo, SHIBATA Hideaki, CHIWA Masaaki: Nitrate leaching and its susceptibility in response to elevated nitrogen deposition in Japanese forests, *Journal of Forest Research*, 29(2): 81-88, <https://doi.org/10.1080/13416979.2023.2242542>, (2023.8) 中川研究林, 査読有
- 伊東 宏樹: モニタリングサイト 1000 と JaLTer における森林動態モニタリング, *北方林業*, 74(2): 50-53, (2023.4) 天塩研究林, 中川研究林, 雨龍研究林, 苫小牧研究林, 査読有
- 小池 孝良, 増井 昇, 渡邊 陽子, 渡部 敏裕: 高オゾン環境で育成したヤマナラシ属二種の虫害への反応と成長, *北方森林研究*, 72: 15-16, https://doi.org/10.24494/jfsh.72.0_15, (2024.2) 札幌研究林, 査読有
- 小池 孝良, 宮本 敏澄, 藤野 介延: 北海道の樹木医会の活躍; 北京樹木医研修会への貢献を通じて, *北方林業*, 75(1): 26-29, (2024.1) 札幌研究林, 査読有
- 小池 孝良, 小池 辰典, 上田 裕文: 森林美学のめざす森造り: 光質、生態系、持続性の視点から, *北方林業*, 74(2): 25-28, (2023.4) 苫小牧研究林, 中川研究林, 査読有
- 野中 勝, 佐々木 恵一: トドマツにも依存して広域分布する北海道のニセゴマダラモモフトカミキリ, *月刊むし*, 637: 4-8, (2024.3) 雨龍研究林, 査読有
- 日浦 勉: 過去と未来をつなぐ長期モニタリング, *北方林業*, 74(2): 43-46, (2023.4) 中川研究林, 査読有
- 日野 貴文, 白根 ゆり, 三浦 一輝: 北海道におけるヒグマ管理とモニタリング, *北方林業*, 75(1): 10-13, (2024.1) 天塩研究林, 査読有
- 前田 大輝, 能勢 正仁, 野村 太志, 足立 匠, 山本 優佳, 熊本 篤志, 石田 祐宣, 市原 寛, 河野 剛健, 岩永 吉広, 立松 峻一, 浅利 晴紀, 平原 秀行, 海東 恵美, 長町 信吾, 渡邊 修一, 山内 大輔: 磁気インピーダンスセンサを用いた廉価な磁力計の開発: 関東一東北一北海道への稠密磁場観測ネットワークの展開, *宇宙科学情報解析論文誌*, 13:71-82, <https://doi.org/10.20637/0002000302>, (2024.2) 苫小牧研究林, 査読有
- 渡邊 陽子, 小池 孝良: 高 CO2 濃度環境上昇が冷温帯落葉広葉樹の葉の防御能力を変化させる?, *北方林業*, 74(2): 33-36, (2023.4) 札幌研究林, 檜山研究林, 査読有
- 岩切 鮎佳: 雪腐病菌の多様な種および種内系統が針葉樹の更新に与える影響の解明, 東京大学大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻, 博士論文, (2024.3)
- 越後谷 駿: 繊毛虫ラップムシの行動遷移と細胞外幾何形状に応じた固着場所の選択, 北海道大学生命科学院, 博士論文, (2024.3)
- 鈴木 拓海: 日本列島山岳域の季節積雪および越年性雪渓における雪氷藻類群集に関する研究, 千葉大学 融合理工学府 地球環境科学専攻 地球科学コース, 博士論文, (2024.2)
- 増井 昇: 高濃度オゾン環境下におけるシラカンバの虫害と植物由来揮発性有機化合物の関係性に関する研究, 北海道大学 農学院学 生命フロンティアコース 生物化学ユニット, 博士論文, (2023.12)

- 石田 将一朗: カラマツ苗木の直根の成長に及ぼす根切りと土壌硬度の影響, 北海道大学大学院農学院, 修士論文, (2024.3)
- 岩佐 廉: コウノアケハダニの虫こぶ利用に関する研究, 高知大学大学院 総合人間自然科学研究科, 修士論文, (2024.2)
- 大西 貴一: シカの植物に対する不嗜好性は学習によって得られるのか?, 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻, 修士論文, (2023.4)
- 金澤 安蓮: 北海道幌加内町朱鞠内・添牛内地域の築別層の形成環境-特に蛇紋岩・変成岩起源粒子の供給源について-, 信州大学大学院 総合理工学研究科理学専攻理科学分野地球学ユニット, 修士論文, (2024.3)
- 三枝 弘典: "Effect of sneakers' position and number on female spawning behavior in Siberian lamprey (*Lethenteron kessleri*), 北海道大学環境科学院生物圏科学専攻動物生態学コース, 修士論文, (2024.3)
- 中田 修人: ダケカンバにおける電子伝達速度と気孔コンダクタンスの産地間変異の評価 (Evaluation of inter-provenances variations in electron transport rate and stomatal conductance for *Betula ermanii*), 静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻生物資源科学コース造林学研究室, 修士論文, (2024.3)
- 前田 大輝: 磁気インピーダンスセンサと Raspberry Pi を用いた廉価な磁力計の開発; 関東-東北-北海道への稠密磁場観測ネットワークの展開と磁気圏内部プラズマ質量密度の推定, 名古屋大学大学院 工学研究科 電気工学専攻, 修士論文, (2024.3)
- 荒井 康樹: センサ・アクチュエータネットワークにおける通信負荷を抑えたノード故障検知手法の提案と評価, 和歌山大学システム工学部ネットワーク情報学メジャー, 卒業論文, (2024.2)
- 猪 グスタフ 貴裕: オニグルミにおけるフェノール性成分含有量と心材色に関する研究, 東京農工大学農学部環境資源科学科, 卒業論文, (2024.2)
- 岡田 乃安: 幹枝内クロロフィル量の樹種による違いと周皮光透過率との関係, 静岡大学農学部生物資源科学科造林学研究室, 卒業論文, (2024.3)
- 千葉 悠斗: 広葉樹多湿心材の木部繊維間壁孔の構造と水分分布, 北海道大学農学部森林科学科, 卒業論文, (2024.2)
- 土屋 良: 先史時代におけるハシドイの利用要因の解明に向けた材質評価, 北海道大学農学部森林科学科, 卒業論文, (2024.2)
- 本田 基史: マイクロホンアレイの DOA 測定値の最頻値を用いたセンサノードの位置関係推定精度向上手法の提案と評価, 和歌山大学システム工学部ネットワーク情報学メジャー, 卒業論文, (2024.2)
- 山田 真希: 合板の繊維方向に対して斜めに挿入接着した木ダボ接合部の性能, 北海道大学農学部森林科学科, 卒業論文, (2024.3)

岩手大学

農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

- 小藤田 久義, 三原 昌之, 片寄 芳紀, ムンソンゼ, 田嶋 由, 日當 和孝: アカマツの樹皮および節部の化学成分, 岩手大学農学部演習林報告, 54 : 1-13 (2023):
- 千代島 蒔人, 大竹 崇寛, 渡邊 篤, 出口 善隆: 岩手県雫石町におけるイノシシの泥浴び行動および擦り木の観察事例, 岩手大学農学部演習林報告, 54:15-25 (2023)
- 福島 良樹, 原科 幸爾: アナグマ (*Meles anakuma*) とタヌキ (*Nyctereutes procyonoides*) およびハクビシン (*Paguma larvata*) が選好する餌の比較, 岩手大学農学部演習林報告, 54:27-38 (2023)
- 池田 小春, 大泉 龍太郎, 山内 貴義: ニホンジカの捕獲に適したくくりわなの性能試験, 岩手大学農学部演習林報告, 54 : 39-51 (2023)
- 関野 登, 佐藤 汐菜, 阿部 萌子, 梅原 琢也, 細越 確太, 松沢 卓生: ウルシ内樹皮の圧搾による新たな漆生産システム (第1報) ~採取可能なウルシオール量の推定~, 岩手大学農学部演習林報告, 54 : 53-78 (2023)
- 関野 登, 梅原 琢也, 阿部 萌子, 細越 確太, 松沢 卓生: ウルシ内樹皮の圧搾による新たな漆生産システム (第2報) ~圧搾濃縮液の硬化特性~, 岩手大学農学部演習林報告, 54 : 79-97 (2023)
- 姜 卓秋, 関野 登: 広葉樹チップを原料とするシイタケ廃菌床の燃料・材料利用の可能性 (第3報)

- 圧縮乾燥された廃菌床の機械的性質,岩手大学農学部演習林報告,54 : 99-112 (2023)
- 姜 卓秋,関野 登,秋元 望: 広葉樹チップを原料とするシイタケ廃菌床の燃料・材料利用の可能性 (第4報) バインダレスボードの製造方法と性能,岩手大学農学部演習林報告,54 : 113-128 (2023)
- 國崎 貴嗣: コナラ高齢天然生林における皆伐後1年目の萌芽発生状況,岩手大学農学部演習林報告,54 : 129-134 (2023)
- 國崎 貴嗣: 高齢天然生林の主伐後に更新したクリ, コナラの樹高成長,岩手大学農学部演習林報告,54 : 135-141 (2023)
- 宮澤 優輔,真坂 一彦,杉田 久志,高橋 利彦,野口 麻穂子,澤田 佳美,白旗 学: 御明神演習林大滝沢試験地の針広混交林における32年間の動態,第135回日本森林学会大会要旨集,243 (2024): 御明神演習林
- Shimada, T., Okabe, K., Makino, S., Nakamura, S., & Fujii, S. Phoretic behavior of the pseudoscorpion *Megachernes ryugadensis* on the Japanese wood mouse *Apodemus speciosus*. *The Science of Nature*, 110: 51. (2023): 滝沢演習林
- Shimada, T., Itô, H., Saitoh, T., & Iijima, H. Effects of acorn masting on individual growth and sexual maturity of the Japanese wood mouse. 13th International Mammalogical Congress, abstract 302. (2023): 滝沢演習林
- 黒沢 匠馬: アカマツ林皆伐後に再生した広葉樹幼齢林における高木性広葉樹の生残・成長,岩手大学農学部卒業論文 (2024) : 滝沢演習林
- 齋藤 弥紘: 刈り出しと筋残し刈りの組み合わせがコナラ稚樹の生残・成長に及ぼす影響,岩手大学農学部卒業論文 (2024) : 滝沢演習林
- 日比谷 建瑠: エゾエノキを利用するカブトムシの個体群動態—樹液獲得のための樹皮傷つけ—, 岩手大学農学部卒業論文 (2024) : 滝沢演習林
- 三宅 駿矢: スギ過密老齢林における陽樹冠量と胸高直径成長量の関係—個体管理指標の検討—, 岩手大学農学部卒業論文 (2024) : 滝沢演習林
- 山崎 遥,田中 亜季,石田 恵莉: オニグルミの更新初期における生育特性および好適な立地環境,第135回日本森林学会大会講演要旨集 : 208 (2024) : 滝沢演習林

東北大学

大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター

- Shibabayashi M, Shimizu T, Tokuhiro C, Suyama Y, Sakaguchi S, Ito T, Yu C-C, Chung K-F, Nagasawa J, Shiuchi T, Kokubugata G, Abe A, Naiki A, Nagano AJ, Isagi Y.: The contrary conservation situations of two local critically endangered species, *Vaccinium emarginatum* (Ericaceae) and *Elatostema platyphyllum* (Urticaceae), growing on the eastern edge of the distribution. *Frontiers in Ecology and Evolution*, 11:1093321(2023)
- Suetsugu K, Hirota SK, Hsu T-C, Kurogi S, Imamura A, Suyama Y.: *Monotropastrum kirishimense* (Ericaceae), a new mycoheterotrophic plant from Japan based on multifaceted evidence. *Journal of Plant Research*, 136:3-18(2023)
- Bell KL, Turo KJ, Lowe A, Nota K, Keller A, Encinas-Viso F, Parducci L, Richardson RT, Leggett RM, Brosi BJ, Burgess KS, Suyama Y, de Vere N.: Plants, pollinators, and their interactions under global ecological change: the role of pollen DNA metabarcoding. *Molecular Ecology*, 32:6345-6362(2023)
- Tsujimoto D, Ando H, Suzuki H, Horikoshi K, Nakajima N, Suyama Y, Matsuo A, Fujii C, Isagi Y.: Has long-distance flight ability been maintained by pigeons in highly insular habitats? *Journal of Biogeography*, 50:235-246(2023)
- Ye R, Tajima R, Sadaike A, Saito D, Ogawa M, Kawamura I, Ishimori S, Nakajima T, Uno T, Kano K, Ito T, Suyama Y, Kato S, Kikuchi A, Homma K.: Mixed cropping of determinate and indeterminate soybean lines enhances productivity. *Field Crops Research*, 291:108785(2023) : 川渡フィールドセンター
- Nakajima S, Suzuki H, Nakatsugawa M, Matsuo A, Hirota SK, Suyama Y, Nakamura F.: Inferring future changes in gene flow under climate change in riverscapes: a pilot case study in fluvial sculpin. *Landscape Ecology*, 38:1351-1362(2023)
- Ebihara A, Tagane S, Hirota SK, Suyama Y, Nakato N, Kuo L-Y.: Resurrection of *Spicantopsis hancockii* (Blechnaceae) as an endemic species to Taiwan -Reidentification of *Spicantopsis* in the Tokara Islands, Japan. *Taiwania*, 68:148-154(2023)
- Suetsugu K, Hirota SK, Hayakawa H, Fujimori S, Ishibashi M, Hsu TC, Suyama Y.: *Spiranthes*

- hachijoensis (Orchidaceae), a new species within the *S. sinensis* species complex in Japan, based on morphological, phylogenetic, and ecological evidence. *Journal of Plant Research*, 136:333-348(2023)
- Suetsugu K, Hirota SK, Suyama Y.: *Spiranthes minamitaniana* (Orchidaceae), a new orchid species from Japan based on morphological and phylogenetic data. *Phytotaxa*, 599:139-149(2023)
- Sakaba T, Soejima A, Fujii S, Ikeda H, Iwasaki T, Saito H, Suyama Y, Matsuo A, Kozhevnikov AE, Kozhevnikova ZV, Wang H, Wang S, Pak J-H, Fujii N.: Phylogeography of the temperate grassland plant *Tephrosieris kirilowii* (Asteraceae) inferred from multiplexed inter-simple sequence repeat genotyping by sequencing (MIG-seq) data. *Journal of Plant Research*, 136:437-452(2023)
- Imanishi J, Imanishi A, Suyama Y, Isagi Y.: Geographical genetic structure of *Lespedeza cuneata* var. *cuneata* in Japan: Necessity of genetic considerations in slope revegetation. *Landscape and Ecological Engineering*, 19:583-596 (2023)
- Kagawa O, Hirota SK, Saito T, Uchida S, Watanabe H, Miyazoe R, Yamaguchi T, Matsuno T, Araki K, Wakasugi H, Suzuki S, Kobayashi G, Miyazaki H, Suyama Y, Hanyuda T, Chiba S.: Host-shift speciation proceeded with gene flow in algae covering shells. *The American Naturalist*, 202:721-732(2023)
- Hamabata T, Kawata M, Kondo S, Matsuo A, Suyama Y, Suzuki K, Kameda K. Twenty-year changes in the composition of a mixed stock of foraging green turtles in the Yaeyama Islands of Japan. *Marine Ecology Progress Series*, 716:93-105(2023)
- Sato MP, Matsuo A, Otsuka K, Takano KT, Maki M, Okano K, Suyama Y, Ito-Inaba Y.: Potential contribution of floral thermogenesis to cold adaptation, distribution pattern, and population structure in skunk cabbage. *Ecology and Evolution*, 13:e10319(2023)
- Aoki S, Li P, Matsuo A, Suyama Y, Ito M.: Molecular phylogeny and taxonomy of the genus *Nanocnide* (Urticaceae) with particular attention to the Ryukyu Islands endemic *N. lobata*. *Phytotaxa*, 607: 23-40(2023)
- Suetsugu K, Hirota SK, Yonekura K, Abe A, Suyama Y, Hsu T-C.: First record of *Thrixspernum annamense* (Orchidaceae) from Iriomote Island, Ryukyu Islands, Japan, with discussions on its intraspecific taxonomy. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 74:1-9 (2023)
- Uchiyama K, Fujii S, Tsuyama I, Tanaka N, Setsuko S, Kimura MK, Suyama Y, Tsumura Y.: Range shift and introgression of three Japanese *Abies* species: insights from population genetic data and species distribution modeling. *Tree Genetics & Genomes*, 19:41(2023)
- Takahashi D, Suyama Y.: Demographic history and conservation aspects of two relict shrubs (*Daphnimorpha* spp., Thymelaeaceae) showing disjunct and restricted distribution in the southern part of Japan. *Tree Genetics & Genomes*, 19:43(2023)
- Suetsugu K, Nozaki T, Hirota SK, Funaki S, Ito K, Kurita K, Isagi Y, Suyama Y, Kaneko S.: Phylogeographical evidence for historical long-distance dispersal in the flightless stick insect *Ramulus mikado*. *Proceedings of the Royal Society B*, 290:20231708(2023)
- Hirata M, Higuchi Y, Matsuo A, Sato MP, Suyama Y, Takako K, Konuma A, Tominaga T, Shimono Y.: Introduction pathways and evolutionary mechanisms of alien species of *Lolium* spreading across sandy coasts in Japan. *Journal of Ecology*, 111:2583-2596(2023)
- Yahara T, Hirota S, Fujii S, Kokami Y, Fuse K, Sato H, Tagane S, Suyama Y.: Molecular phylogeny and taxonomy of *Hosta* (Asparagaceae), including five new species, *H. kagamiriparia*, *H. longipedicellata*, *H. minazukiflora*, *H. samukazemontana*, and *H. takiminazukiflora*, on Shikoku Island, Japan. *PhytoKeys*, 235:137-187(2023)
- Kikkawa HS, Sato MP, Matsuo A, Sasaki T, Suyama Y, Tsuge K.: Discrimination of *Camellia* cultivars using iD-NA analysis. *Scientific Reports*, 13:17674(2023)
- Tamaki I, Mizuno M, Ohtsuki T, Shutoh K, Tabata R, Tsunamoto Y, Suyama Y, Nakajima Y, Kubo N, Ito T, Noma N, Harada E.: Phylogenetic, population structure, and population demographic analyses reveal that *Vicia sepium* in Japan is native and not introduced. *Scientific Reports*, 13:20746. (2023)
- Itani A, Masuo S, Yamamoto R, Serizawa T, Fukasawa Y, Takaya N, Toyota M, Betsuyaku S, Takeshita N.: Local calcium signal transmission in mycelial network exhibits decentralized stress responses. *PNAS Nexus* 2:1-10(2023)
- Fukasawa Y, Akai D, Ushio M, Takehi T.: Electrical conversation of ectomycorrhizal mushrooms after the rain. *Fungal Ecology*, 63: 101229(2023)
- Fukasawa Y, Ishii K.: Foraging strategies of fungal mycelial networks: responses to quantity and distance of new resources. *Frontiers in Cell and Developmental Biology*, 11:1244673(2023)
- 永谷 工, 稲川 博紀, 高田 純子, 西川 洋子, 島村 崇志, 陶山 佳久, 水永 優紀, 中村 剛: 北海道大学植物園におけるヒダカソウ *Callianthemum miyabeianum* 生息域外保全の10年間(2011

- ～2020年)の成果. 日本植物園協会誌, 57:66-71(2023)
- 陶山 佳久: MIG-seq 法を用いたゲノムワイド SNP 分析による森林遺伝学研究. 森林遺伝育種 12(2): 63–67(2023)
- Suyama Y. Preface to the 20th International Symposium on Integrated Field Science “Biodiversity and Phylogeography”. Journal of Integrated Field Science, 20:1(2023)
- Isagi Y, Suyama Y, Makino T.: Tailor-made Biological Conservation of Endangered Plant Species with Genomic Information. Journal of Integrated Field Science, 20:15(2023)
- Murakami S, Ito T, Uemachi T, Fujii S, Matsuo A, Suyama Y, Maki M.: Phylogeography of infraspecific differentiation of *Hydrangea serrata* (Hydrangeaceae), a widespread shrub species in the Japanese Archipelago. Journal of Integrated Field Science, 20:18(2023)
- Taguchi H, Takahashi D, Ito T, Tagane S, Sugawara R, Oguri E, Abe H, Suyama Y.: Phylogeography of *Juniperus* species (Cupressaceae) with a disjunct distribution in the island areas of Japan. Journal of Integrated Field Science, 20:21(2023)
- Kawasaki Y, Matsuoka S, Sato H, Pouska V, Nordén J, Orman O, Bače R, Panayotov M, Tsvetanov N, Mikoláš M, Zíbarová L, Papadimitriou A, Polemis E, Král K, Svoboda M, Fukasawa Y.: Decay types and fungal communities of Norway spruce dead wood in Europe. Journal of Integrated Field Science, 20:22(2023)
- Motomiya M, Takahashi D, Tagane S, Naiki A, Watanabe K, Ito T, Suyama Y.: Population genetic structure of a bamboo taxon, *Pleioblastus* Sect. *Pleioblastus*, in the Ryukyu Islands formed by geohistory and human activity. Journal of Integrated Field Science, 20:23(2023)
- Ishii K, Fukasawa Y.: Effects of the resource distance on the decisions of mycelial behavior. Journal of Integrated Field Science, 20:24(2023)
- Hamatsu K, Taguchi H, Takahashi D, Suyama Y.: Development of plant environmental DNA analysis method for forest soil. Journal of Integrated Field Science, 20:25(2023) : 川渡フィールドセンター
- Kimura S, Fukasawa Y, Kominami Y, Takagi M, Matsukura K, Ushio M, Makoto K, Suzuki S, Takemoto S, Tanaka N, Jomura M, Kadowaki K, Kinuura H, Yamashita S.: Effects of oak wilt disease on fungal community composition and wood decomposition in dead *Quercus serrata* trunks. Journal of Integrated Field Science, 20:26(2023)
- Allekotte H, Hiroya T, Takahashi D, Suyama Y.: Phylogenetic origin of *Cryptomeria japonica* on Kinkasan island in Japan. Journal of Integrated Field Science, 20:27(2023)
- Hoson T, Ito T, Fujii S, Takahashi D, Matsuo A, Suyama Y, Maki M.: Molecular phylogenetic analyses of geographical and ecological speciation of *Anaphalis margaritacea*. Journal of Integrated Field Science, 20:28(2023)

山形大学

農学部附属やまがたフィールド科学センター

- Shiori Nagahora, Masateru Nishiyama, Takahiro Sato, Kazuya Watanabe : Investigation of eDNA Quantitative Analysis Method for Understanding Fish Dynamics in Mountain Streams, The DNA Society International Meeting 2023, 107(2023): 早田川全線 (上名川演習林)
- 永洞 史織, 西山 正晃, 佐藤 高広, 棟方 宏昇, 渡邊 一哉: eDNA 分析手法を用いた渓流域における魚類生息量の推定, 応用生態工学会第 26 回大会講演要旨集, 130 (2023) : 早田川全線 (上名川演習林)
- 棟方 宏昇, 畑間 陽太, 渡邊 一哉: 河川分断区間における河川残留型サクラマスが生息場選択特性, 応用生態工学会第 26 回大会講演要旨集, 185 (2023) : 早田川上流 (上名川演習林)

宇都宮大学

農学部附属演習林

- Ikumi Nezu, Nuerdong Nueraihaimaiti, Dwi Sukma Rini, Futoshi Ishiguri, Takumi Sato, Keisuke Mitsukuni, Tomohiro Suzuki, Naoto Habu, Jyunichi Ohshima, Shinso Yokota: Clarifying the decay process by *Inonotus obliquus* in Japanese white birch naturally grown in Nikko, Japan, *Holzforschung*, 77(8): 585-597(2023): 日光演習林
- Futoshi Ishiguri, Ikumi Nezu, Jyunichi Ohshima, Kazuya Iizuka, Shinso Yokota: Possibilities of tree breeding for wood quality of *Abies firma* to produce wooden frame-construction lumber, *Bulletin of the Utsunomiya University Forests*, 60: 1-6(2024): 船生演習林
- 松英 恵吾: 宇都宮大学船生演習林スギ密度効果試験地定期測定資料 (IV) , 宇都宮大学農学部演

習林報告, 60: 7-14(2024):船生演習林
齋藤 忠信, 齋藤 紀雄, 大森 伸也, 阿部 和彦, 大島 潤一, 飯塚 和也: 船生演習林干害発生地に補植されたヒノキの苗タイプの違いによる初期成長の検証, 宇都宮大学農学部演習林報告, 60: 15-19(2024):船生演習林

新潟大学

佐渡自然共生科学センター・演習林

- H. Abe, H. Miura, R. Katayama: A comprehensive comparison of flower morphology in the genus *Camellia*, with a focus on the section *Camellia*, *Journal of Integrated Field Science*, 20: 2–9 (2023): Japan
- K. Masuda, H. Setoguchi, K. Nagasawa, S. K. Hirota, Y. Suyama, K. Sawa, S. Fukumoto, M. I. Ishihara, H. Abe, H. Tsuboi, T. Tango, S. Mori, S. Sakaguchi: Genetic consequences of Last Glacial–Holocene changes in snowfall regime in *Arnica montana* populations: A plant confined to heavy-snow areas of Japan, *American Journal of Botany*, [a: <http://doi.org/10.1002/ajb2.16275>]doi.org/10.1002/ajb2.16275 (Online, 2024): Japan
- W. Yoichi, I. Tamaki, S. H. Oh, A. J. Nagano, K. Uehara, N. Tomaru, H. Abe: The evolutionary history of rice azaleas (*Rhododendron tschonoskii* alliance) involved niche evolution to a montane environment, *American Journal of Botany*, 110(4): e16166 (2023): Japan
- 松倉 君予, 堀田 崇仁, 阿部 晴恵: ツバキ菌核病菌ツバキキンカクチャワシタケのツバキ属樹種自生地における生息密度と宿主選好性, *樹木医学研究*, 27(4): 187–193 (2023): 日本
- 澤田 聖人, 阿部 晴恵: 佐渡島南西部においてジムグリの胃内容物から発見されたサドトガリネズミ *Sorex shinto sadonis* の初記録, *哺乳類科学*, 63(2): 215–218 (2023): 佐渡島
- A. M. M. Paing, S. Chen, K. Araki, T. Aihara, R. Sarmah, M. Hirota, Y. Tsumura, N. Tomaru, K. Homma, M. Kadomatsu, T. Yoshida, H. Kobayashi, A. Iio, K. Osumi, D. Nagamatsu, M. Takagi, H. Taneda, N. Kimura, S. Fukuoka, Y. Hisamoto & S. Goto: Site characteristics of *Betula ermanii* range-wide provenance trials. *Miscellaneous Information of The University of Tokyo Forests* 63 : 11-22 (2023): 佐渡演習林ほか
- T. Aihara, K. Araki, Y. Onuma, Y. Cai, A. M. M. Paing, S. Goto, Y. Hisamoto, N. Tomaru, K. Homma, M. Takagi, T. Yoshida, A. Iio, D. Nagamatsu, H. Kobayashi, M. Hirota, K. Uchiyama & Y. Tsumura: Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges. *Heredity* 131:387–397.(2023): 佐渡演習林ほか
- T. Aihara, K. Araki, R. Sarmah, Y. Cai, A. M. M. Paing, S. Goto, Y. Hisamoto, H. Taneda, N. Tomaru N, K. Homma, M. Takagi, Toshiya T. Yoshida, A. Iio, D. Nagamatsu , H. Kobayashi, M. Hirota & Y. Tsumura: Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens. *Journal of Forest Research* 29 (1) , 62–71 (2024): 佐渡演習林ほか
- A. Sumida, Y. Inagaki, T. Kajimoto, et al. (2023) Allometry of the quasi-pipe (qPipe) model for estimating tree leaf area and tree leaf mass applied to plant functional types. *Scientific Reports* 13, 9954 (2023).<https://doi.org/10.1038/s41598-023-37112-1> (June 2023, online) : 日本ほか

東京大学

大学院農学生命科学研究科附属演習林

- Nakamura KW, Miyajima K, Fujiwara A, Saito K: Development of a web application for flowering phenology observation and its applicability to climate-related learning in elementary schools, *Cogent Education*, 10(2) : DOI:10.1080/2331186x.2023.2277045 (2023): 秩父演習林
- Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T: Integration of unmanned aerial vehicle imagery and machine learning technology to map the distribution of conifer and broadleaf canopy cover in uneven-aged mixed forests, *Drones*, 7(12): 705 (2023) : 北海道演習林
- Iwakiri A, Ota H, Matsushita N, Haraguchi R, Yamada T, Fukuda K: Multilocus phylogenetic analysis revealed a new cryptic lineage of *Serpula himantoides* in Japan: *Forest Pathology*, 53(2): e12805 (2023) : 秩父演習林
- Aihara T, Araki K, Onuma Y, Cai Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Uchiyama K, Tsumura Y: Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges, *Heredity*,131: 387-397 (2023) : 千葉演習林

- Asano Y, Kawasaki M, Takatoku K, Uchida T, Hiroki S: Lateral flow in bedrock dominates baseflow and flood flow in a catchment underlain with permeable sedimentary rock in the high-relief Chichibu Mountains, *Hydrological Processes*, 37(11): e15011 (2023) : 秩父演習林
- Miura N, Niwa Y, Yamada S: Assessment of light environment for herbaceous vegetation in semi-natural grassland using time-series UAV data, *ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences*, X-1/W1-2023: 1081-1088 (2023)
- Tatsuhara S, Toyama K, Suzuki M: Effectiveness of the Canopy Closure Curve to Inform Management of Two-Storied Stands, *Journal of Forest Planning*, 29: 1-9 (2023) : 千葉演習林
- Bakar A, Bidin K, Rusli H, Kamlun KU, Kuraji K, Mahali M, Nainar A: Soil erosion risk in relation to rainfall erosivity in Gunung Alab and Inobong of Crocker Range Park in Sabah, Malaysia, *Journal of Sustainability Science and Management*, 18(10): 220-228 (2023)
- Hotta W, Haga C, Morimoto J, Suzuki SN, Matsui T, Owari T, Shibata H, Nakamura F: Leaving disturbance legacies conserves boreal conifers and maximizes net CO₂ absorption under climate change and more frequent and larger windthrow regimes, *Landscape Ecology*, 38: 1785-1805 (2023) : 北海道演習林
- So MR, Yokota S, Miura N: Data Fusion of Drone and Satellite Imagery for Alien Species Classification on Riverdike, *Proceedings of 2023 Asian Conference on Remote Sensing, ACRS2023042* (2023)
- Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T: Identifying spatial variation of carbon stock in a warm temperate forest in central Japan using Sentinel-2 and digital elevation model data, *Remote Sensing*, 15(8): 1997 (2023) : 北海道演習林
- Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T: Identifying spatial variation of carbon stock in a warm temperate forest in central Japan using Sentinel-2 and digital elevation model data, *Remote Sensing*, 15(8): 1997 (2023) : 北海道演習林
- Niga Y, Fujioka E, Heim O, Nomi A, Fukui D, Hiryu S: A glimpse into the foraging and movement behavior of *Nyctalus aviator*; a complementary study by acoustic recording and GPS tracking, *Royal Society Open Science*, 10: 230035 (2023)
- Karthigesu J, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T: UAV photogrammetry for estimating stand parameters of an old Japanese larch plantation using different filtering methods at two flight altitudes, *Sensors*, 23(24): 9907 (2023) : 北海道演習林
- Farahnak M, Tanaka N, Sato T, Nainar A, Gomyo M, Kuraji K, Suzaki T, Suzuki H, Nakane Y: Enhancing Overland Flow Infiltration through Sustainable Well-Managed Thinning: Contour-Aligned Felled Log Placement in a *Chamaecyparis obtusa* Plantation, *Sustainability*, 15(19): e14124 (2023) : 生態水文学研究所
- Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T: Mapping the Distribution of High-Value Broadleaf Tree Crowns through Unmanned Aerial Vehicle Image Analysis Using Deep Learning, *Algorithms*, 17(2): 84 (2024) : 北海道演習林
- Volf M, Fontanilla AM, Vanhakylä S, Abe T, Libra M, Kogo R, Lilip R, Kamata N, Murakami M, Novotny V, Salminen JP, Segar ST: High intraspecific variability and previous experience affect polyphenol metabolism in polyphagous *Lymantria mathura* caterpillars, *Ecology and Evolution*, 14(2): e10973 (2024)
- Imamura N, Ohte N, Tanaka N: Factors influencing the difference in dissolved ion inputs to the forest floor between deciduous and coniferous stands: Comparison under high and low atmospheric deposition conditions, *Environmental Monitoring and Assessment*, 196: 10.1007/s10661-023-12132-6 (2024) : 秩父演習林・田無演習林
- Nojiri T, Takechi M, Furutera T, Brualla NLM, Iseki M, Fukui D, Tu VT, Meguro F, Koyabu D: Development of the hyolaryngeal architecture in horseshoe bats: Insights into the evolution of the pulse generation for laryngeal echolocation, *EvoDevo*, 15: <https://doi.org/10.1186/s13227-024-00221-7> (2024)
- Aihara T, Araki K, Sarmah R, Cai Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Taneda H, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Tsumura Y: Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens, *Journal of Forest Research*, 29(1): 62-71 (2024) : 千葉演習林
- Mizuuchi Y, Son YH: What on-site landscape experiences attract potential visitors to a site? A Japan–Korea cross-cultural comparison, *Journal of Forest Research*, 29(2): 73-80(2024)
- Carolina A, Sari RK, Nawawi DS, Bahtiar ET, Kusumoto D: Mechanical-chemical induction of balsam from *Liquidambar excelsa* trees, *Silva Fennica*, 58(2): 23050 (2024)

- Brualla NLM, Wilson LAB, Tu VT, Nojiri T, Carter RT, Ngamprasertwong T, Wannaprasert T, Doube M, Fukui D, Koyabu D: Comparative anatomy of the vocal apparatus in bats and implication for the diversity of laryngeal echolocation, *Zoological Journal of the Linnean Society*, zlad180: <https://doi.org/10.1093/zoolinnean/zlad180> (2024)
- 岸本 光樹: 生態水文学研究所赤津研究林白坂小流域固定試験地において衝突板トラップに捕獲されたコガネムシ上科食糞群, 演習林(東大),68: 1-5 (2023) : 生態水文学研究所
- 三俣 学,齋藤 暖生: 英国イングランドにおける自然アクセス制の実態—Cleeve Hill Common と Epping Forest におけるアンケート調査を中心に—, *経済学論叢*, 75(1): 71-99 (2023)
- 蔵治 光一郎: 森林と治水,月刊「技術士」,9月号,3 (2023)
- 蔵治 光一郎,福永 真弓: 意味ある〈水〉を取り戻すために——水の科学と作法のゆくえ,現代思想: 11月号,8-22 (2023)
- 浅野 友子: 山地での水の動きを知る 林業動静年報 教育,研究編 , 山林 , 1674: 50-56 (2023)
- 原口 竜成,平尾 聡秀,山田 利博: 針葉樹根株心腐菌ナミダタケモドキの子実体の生立木上での発生状況とその特徴,樹木医学研究,27(2), 115-116 (2023) : 秩父演習林
- 山下 香菜,小林 明,徳江 泉,河原 典生,梶野 健,石澤 伸彰,山田 利博: 町田市におけるサクラ類街路樹の検査結果の検証—腐朽材の硬さ及び圧縮強度,樹木医学研究,27(4): 200-201(2023)
- 河原 典生,高田 恵一,徳江 泉,山下 香菜,清水 隆行,小林 明,梶野 健,石澤 伸彰,山田 利博: 町田市におけるサクラ類街路樹の検査結果の検証—樹木診断機器 RESI の波形データと材の腐朽状態との関係, 樹木医学研究, 27(4), 202-203 (2023)
- 徳江 泉,山下 香菜,河原 典生,清水 隆行,小林 明,梶野 健,石澤 伸彰,山田 利博:町田市におけるサクラ類街路樹の診断結果の検証—ドクターウツズ画像におけるパラメーターの操作—, 樹木医学研究, 27(4), 204-205 (2023)
- 田中 延亮,小川 瞳,福岡 哲,後藤 晋: 2021年に東京大学北海道演習林の苗畑で発生した乾燥害について, 森林遺伝育種, 12(3), 108-110 (2023) : 北海道演習林
- 當山 啓介: 学会および教科書の整理を通じた森林計画学を含む各分野の計画学の確認と計画学的共通点の探索, 森林計画学会誌, 56(2), 39-52 (2023)
- 楠本 大,久本 洋子,村川 功雄,澤田 晴雄: 千葉県鴨川市のマテバシイ林と愛知県瀬戸市のコナラ林におけるナラ枯れ被害の年次推移, 日本森林学会誌, 105(4), 103-109 (2023) : 千葉演習林・生態水文学研究所
- 平岡 裕一郎,西村 尚之,小山 泰弘,岡田 充弘,柳澤 賢一,鈴木 智之,新其楽 函: 北八ヶ岳における亜高山帯針葉樹林に及ぼすニホンジカの影響—20年間の観測に基づく森林動態—, 日本森林学会誌, 105(4): 216-224 (2023)
- 浅野 友子,大住 克博,内田 太郎,齋藤 暖生,堀田 紀文,南光 一樹: 日本森林学会 133 回日本森林学会大会企画シンポジウム「山地森林環境の長期的な変化と,それらが水,土砂,流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性」開催報告,日本森林学会誌,105(9): 306-309 (2023)
- 橋爪 謙治,山下 民岐子,山田 利博,鈴木 覚: 耐風速に着目した倒木リスク定量評価手法の開発, 第 35 回日本道路会議発表論文 (2023)
- 蔵治 光一郎: 球磨川森林計画区の森林の皆伐の現状,不知火海,球磨川流域圏学会誌,17: 3-8 (2023)
- 斉藤 明子,尾崎 煙雄,鈴木 勝,村川 功雄: 「東京大学千葉演習林の昆虫相」の追加と訂正 その 7, 房総の昆虫,73: 15-18 (2023) : 千葉演習林
- 蔵治 光一郎: 大雨による路網損壊未然防止のための「林業技士」の心得, 林業技士会ニュース, 165: 1-7 (2023)
- 尾張 敏章: "Close-to-nature silviculture for global change adaptation and mitigation(地球規模変動への適応と緩和のための近自然型森林施業)",IUFRO-J NEWS, 135: 4-5(2024)
- Paing AMM, Chen S, Araki K, Aihara T, Sarmah R, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Nagamitsu D, Takagi M, Taneda H, Kimura N, Fukuoka S, Hisamoto Y, Goto S: Site characteristics of *Betula ermanii* range-wide provenance trials [revised version], 演習林(東大),69: 11-22 (2024) : 千葉演習林
- 岸本 光樹,松井 理生,高橋 功一,澤田 晴雄,井上 淳,高德 佳絵,黒木 里香,浅野 友子: 生態水文学研究所赤津研究林白坂南北谷小流域日流出量観測報告(II)(自 2008 年 1 月至 2015 年 12 月),演習林(東大),69: 23-29 (2024) : 生態水文学研究所

- 大村 和也,高德 佳絵,原口 竜成,才木 道雄,高野 充広,吉田 弓子: 秩父演習林における針葉樹人工林試験地成長資料(2019~2022年),演習林(東大),69: 31-36 (2024) : 秩父演習林
- 岸本 光樹,澤田 晴雄,井上 淳,高德 佳絵,梁瀬 桐子: 生態水文学研究所ヒノキ人工林各種試験地の成長資料, 演習林(東大), 69: 37-57 (2024) : 生態水文学研究所
- 里見 重成,藤平 晃司,當山 啓介: 東京大学千葉演習林のスギ高齢人工林長伐期施業試験地の成長資料, 演習林(東大),69: 61-69(2024) : 千葉演習林
- 吉田 弓子,高野 充広,大村 和也: 秩父演習林における二次林試験地成長資料(2022),演林(東大), 69: 71-78 (2024) : 秩父演習林
- 東京大学演習林長期生態系データ生物部門昆虫分野: ピットフォールトラップにより東京大学演習林で捕獲されたオサムシ科甲虫相の目録(2008年~2012年), 演習林(東大), 69: 79-97 (2024) : 全演習林
- 東京大学演習林: 東京大学演習林水文観測,水質分析報告(2021年1月~2021年12月)演習林(東大),69:99-108 (2024) : 千葉演習林, 北海道演習林, 秩父演習林, 生態水文学研究所, 樹芸研究所
- 東京大学演習林: 東京大学演習林気象報告(2022年1月~2022年12月),演習林(東大), 69: 109-131 (2024) : 千葉演習林, 北海道演習林, 秩父演習林, 田無演習林, 生態水文学研究所, 樹芸研究所
- 蔵治 光一郎: 森林の保水力と人との関わり,グリーン,エージ,590: 36-40 (2024)
- 齋藤 暖生: 森林の恵みと私たちの暮らし,月刊地理, 572:10-13 (2024)
- 高村 聡,高田 恵一,永石 憲道,石井 匡志,有賀 一郎,山下 得男,野上 一志,飯塚康雄,山田利博: 樹木腐朽診断機器によるデータと腐朽程度の関係(1)~腐朽空洞率と断面性状の比較~,樹木医学研究, 28(1):22-23 (2024)
- 高田恵一,永石憲道,高村 聡,石井匡志,有賀 一郎,山下 得男,野上 一志,飯塚 康雄,山田 利博: 樹木腐朽診断機器によるデータと腐朽程度の関係(2)~部位ごとの機器データと材質密度の比較~,樹木医学研究,28(1): 24-25 (2024)
- 永石 憲道,高村 聡,高田 恵一,石井 匡志,有賀 一郎,山下 得男,野上 一志,飯塚 康雄,山田利博: 樹木腐朽診断機器によるデータと腐朽程度の関係(3)~機器データと材質密度の相関~, 樹木医学研究,28(1):26-27 (2024)
- 尾崎 煙雄,西内 李佳,村川 功雄,斉藤 明子,樽 宗一郎: 千葉県で60年ぶりに採集された天然生ヒノキバヤドリギ(ビャクダン科),千葉中央博研究報告,17(1):41-44 (2024) : 千葉演習林
- 鈴木 智之,福岡 哲,木村 徳志,松井 理生: 東京大学北海道演習林のミズナラ産地別試験地,北海道の林木育種, 66(2): 8-16 (2024) : 北海道演習林
- 安原 有紗,水内 佑輔: Google Map レビューからみる国立公園の利用者評価,ランドスケープ研究, 87(5): 465-470 (2024)
- Ban T: A new species of the genus *Stigmatonotum* (Hemiptera: Heteroptera: Rhyparochromidae) from Japan, with notes on related species from the East Palearctic and Oriental Regions, ACTA ENTOMOLOGICA, 63(2): 265-278(2023): 千葉演習林
- Kusakabe G, Mori H, Hiura T: Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types, Basic and Applied Ecology, 72: 1-9 (2023) : 秩父演習林, 生態水文学研究所
- Sakio H, Kon A, Kubo M, Nakano Y: Long-term fluctuations and mechanisms of seed production of riparian tree canopy species, Ecological Research, 38(3),370-385 (2023) : 秩父演習林
- Takagi E: Colonization success of a tree-killing bark beetle: Geographic variation and mismatch with host preference, Ecology and Evolution, 13(7): DOI: 10.1002/ece3.10274(2023) : 北海道演習林
- Tatsumi S, Loreau M: Partitioning the biodiversity effects on productivity into density and size components, Ecology Letters, 26(11): 1963-1973 (2023) : 北海道演習林
- Hiura T, Yoshida H, Miyata U, Asami T, Suzuki Y: Conferring High IAA Productivity on Low-IAA-Producing Organisms with PonAAS2, an Aromatic Aldehyde Synthase of a Galling Sawfly, and Identification of Its Inhibitor, Insects, 14(7): 598. doi: 10.3390 (2023) : 千葉演習林
- Yamasaki T, Hamamoto S, Nishimura T, Base flow separation for soil erosion simulation in a granitic forested headwater catchment using a process-based model, GeoWEPP, International Journal of Sediment Research, 38(4), 494-502 (2023) : 生態水文学研究所

- Djotan AKG, Matsushita N, Fukuda K: Paired root-soil samples and metabarcoding reveal taxon-based colonization strategies in arbuscular mycorrhizal fungi communities in Japanese cedar and cypress stands, *Microbial Ecology*, 86, 2133-2146 (2023) : 千葉演習林, 秩父演習林, 田無演習林
- Suzuki S, Yoshimura K, Ueno S, Worth JRP, Ujino-Ihara T, Katsuki T, Noshiro S, Fujii T, Arai T, Yoshimaru H: A DNA barcode reference library for the native woody seed plants of Japan, *Molecular Ecology Resources*, 23(4), 855-871 (2023) : 秩父演習林
- Iwasaki K, Fukushima K, Nagasaka Y, Ishiyama N, Sakai M, Nagasaka A: Real-Time Monitoring and Postprocessing of Thermal Infrared Video Images for Sampling and Mapping Groundwater Discharge, *Water Resources Research*, 59(4): 1-11 (2023) : 北海道演習林
- Toshihiro Yamada: Chapter 16 Ten-Year Transition of Radiocesium Contamination in Wild Mushrooms in the University of Tokyo Forests After the Fukushima Accident, *Agricultural Implications of Fukushima Nuclear Accident (IV) After 10 Years*. Nakanishi TM, Tanoi K (Eds), 185-196(2023) : 千葉演習林, 北海道演習林, 秩父演習林, 富士癒しの森研究所
- 野中 咲葉: トドマツ優占天然針広混交林におけるエゾモモンガ *Pteromys volans orii* の食性: 葉食性の季節変化の検討, 帯広畜産大学, 卒業論文: 40pp (2024) : 北海道演習林
- 藤谷 直樹: サリグナ種ユーカリ造林による林業経営の可能性 ~樹芸研究所10年生林分の分析から~, 東京大学, 卒業論文: 46pp (2024) : 樹芸研究所
- 内藤 英理香: 樹木実生動態の密度依存性がシカの採食圧からの植生回復に果たす役割, 東京大学, 卒業論文: 53pp (2024) : 秩父演習林
- 菖 蒲周: 秩父地方の天然生ヒノキと共生するアーバスキュラー菌根菌群集の解明, 東京大学, 卒業論文: 23pp (2024) : 秩父演習林
- 笹田 勇麻: トドマツ種苗の葉緑体と核 SSR マーカー分析に基づく採種園構成クローンの母親および父親としての評価, 東京大学, 卒業論文: 35pp (2024) : 北海道演習林
- 金子 拓未: 北海道針広混交林の倒木上蘚類群落に生育する菌類とシアノバクテリアの群集組成, 東京大学, 卒業論文: 46pp (2024) : 北海道演習林
- 馬場 森寛: ミズナラ (*Quercus crispula*) 樹幹木部の通水の季節変化, 東京大学, 卒業論文: 35pp (2024) : 秩父演習林
- 白石 健太: 外来種と交雑個体の長期的な存続: 北海道空知川のサケ科魚類に着目した分布と種組成の時間的变化, 東京農業大学, 卒業論文: 33pp (2024) : 北海道演習林
- 滝口 慶人: 複数の堆積岩流域との比較による降雨流出特性の比較, 東京農業大学, 卒業論文: 52pp (2024) : 秩父演習林, 生態水文学研究所
- 三宅 康太: 落葉広葉樹林斜面における林内雨の時空間分布, 東京農業大学, 卒業論文: 25pp (2024) : 生態水文学研究所
- 志賀 有紗: 水晶体安定炭素・窒素同位体比を用いたカエルの成長履歴の復元可能性の検証, 東京農工大学, 卒業論文: 22pp (2024) : 秩父演習林
- 寛 優祐: コナラ二次林における樹幹流の DOC 負荷量と樹木特性因子の関係, 豊田工業高等専門学校, 卒業論文: 23pp (2024) : 生態水文学研究所
- 青山 周平: コナラの樹幹流下量に影響を与える樹木特性因子の検討, 豊田工業高等専門学校, 卒業論文: 28pp (2024) : 生態水文学研究所
- 大沼 裕貴: 森林流域における蛍光回帰法を用いた溶存有機炭素流出負荷量の推定, 豊田工業高等専門学校, 卒業論文: 22pp (2024) : 生態水文学研究所
- 清水 将: 富良野市東大演習林を活用した中学生の森林学習プログラム, 北海道教育大学, 卒業論文: 66pp (2024) : 北海道演習林
- 日置 大河: ササ類における地下茎形質の変異とジェネットの空間的混在度, 山形大学, 卒業論文: 32pp (2024) : 北海道演習林
- 山田 穂: ヒグマの匂いコミュニケーションの季節変化と行動パターンの多様性の検討, 酪農学園大学, 卒業論文, 60pp (2024) : 北海道演習林
- 佐々木 乃梨: 繁殖期におけるヒメネズミ *Apodemus argenteus* の集団営巣および巣箱利用に関する研究, 帯広畜産大学: 修士論文, 94pp (2024) : 北海道演習林
- 卑 依瑠: 気候変動と森林の回復が山地流域の水収支に及ぼす影響, 東京大学, 修士論文, 54pp (2024) : 生態水文学研究所
- 加藤 大樹: 偶蹄類の利用頻度の異なるナラ枯れ被害地の更新可能性, 東京大学, 修士論文: 40pp

- (2024) : 生態水文学研究所
- 坂巻 実佳: 広葉樹の乾燥方法の検討 –*Eucalyptus saligna* を対象として–, 東京大学, 修士論文: 35pp (2024) : 樹芸研究所
- 金子 竣亮: 数理モデルを用いた事業計画ツールの開発と木材利用への応用可能性, 東京大学, 修士論文: 60pp (2024) : 北海道演習林
- 村田 智也: フェノロジーを考慮した深層学習モデルによるミズナラ・コナラの画像検出に関する研究, 東京大学, 修士論文: 65pp (2024) : 富士癒しの森研究所
- 上野 大輔: 房総半島に生息するキョンとニホンジカのニッチ分化, 東京大学, 修士論文: 57pp (2024) : 千葉演習林, 秩父演習林
- 藤井 恵理奈: ミヤマハンノキの共生微生物群集と宿主成長促進作用, 東京大学, 修士論文: 40pp (2024) : 北海道演習林
- 菅原 悠斗: 気候変動と人工林化が土壌微生物群集の分解機能に与える地域スケールの影響, 北海道大学, 修士論文: 37pp (2024) : 秩父演習林
- 岩切 鮎佳: 雪腐病菌の多様な種および種内系統が針葉樹の更新に与える影響の解明, 東京大学, 博士論文: 186pp (2024) : 北海道演習林
- 岸本 光樹: 生態水文学研究所赤津研究林白坂小流域固定試験地において衝突板トラップに捕獲されたコガネムシ上科食糞群, 演習林(東大), 68: 1-5 (2023) : 生態水文学研究所
- 伊藤 茉美, 佐藤 雅俊, 押田 龍夫: 北海道の山間部天然林においてヒメネズミ *Apodemus argenteus* が単材に利用する植物種の選好性, 帯広畜産大学学術研究報告, 44: 105-116 (2023) : 北海道演習林
- 鈴木 義人, 徳田 誠: 虫こぶ形成と植物ホルモン, 植物の生長調節, 58(1): 105-111 (2023) : 千葉演習林
- 田中 延亮, 小川 瞳, 福岡 哲, 後藤 晋: 2021 年に東京大学北海道演習林の苗畑で発生した乾燥害について, 森林遺伝育種, 12(3):108-110 (2023) : 北海道演習林
- 石塚 航: 樹木の遺伝的な適応の実態を知る, 森林技術, 976: 8-11 (2023) : 北海道演習林
- 斉藤 明子, 尾崎 煙雄: 「ナラ枯れ」に関連する甲虫 3 種 —タイショウオオキノコ, ルイスホソカタムシ, ナガフトヒゲナガゾウムシ—, 房総の昆虫, 73: 12-14 (2023) : 千葉演習林
- 斉藤 明子, 尾崎 煙雄, 鈴木 勝, 村川 功雄: 「東京大学千葉演習林の昆虫相」の追加と訂正 その 7, 房総の昆虫, 73: 15-18 (2023) : 千葉演習林
- 植田 睦之: 巣箱カメラで見たヤマガラ繁殖経緯, モニタリングサイト 1000 陸生鳥類調査情報, 15(1) : 5 (2023) : 秩父演習林
- 當山 啓介, 藤平 晃司, 村川 功雄: 東京大学千葉演習林のスギ・ヒノキ高齢人工林試験地における各立木の胸高線地上高の約 100 年間の変化, 演習林(東大), 69: 1-10 (2024) : 千葉演習林
- 石塚 航, 津山 幾太郎: 産地別トドマツ苗木の植栽適地を考える –適地適木の転換へ向けて–, 北方森林研究, 72: 5-9 (2024) : 北海道演習林

東京農工大学

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

- Yoshikawa, T., Totsu, K., Takeuchi, Y., Kadoya, T., Enoki, T., Fujii, S., Fukamachi, A. S., Hirota, M., Hoshizaki, K., Iiyama, N., Ishikawa, Y., Itô, H., Kobayashi, H., Kohyama, T. S., Konno, Makita, Y., A., Mori, A. S., Nagamatsu, D., Nakashizuka, T., Namikawa, K., Noguchi, M., Sakimoto, M., Ozaki, Y., Seino, T., Sugita, H., Suzuki, J.-I., Suzuki, R. O., Suzuki, S. N., Takahashi, K., Tateno, R., Watanabe, R., Yamashita, T., Yoshida, T., Ishihara, M. I., Kenta, T., Nakamura, M., Hiura, T.: Forest monitoring data of 45 plots across the Japanese archipelago during 1980–2021, *Ecological Research*, 39(3): 391–406 (2024): FM 草木
- Fukamachi, A.S., Yoshida, T., Hoshino, Y., Watanabe, N.: Homogenization of understory vegetation by deer (*Cervus nippon*) overabundance in a temperate forest, central Japan, *Journal of Forest Research*, 28(4): 271–279 (2023): FM 草木
- Watanabe, K., Yoshida, T., Nakamura, A.: Effects of resource size on invertebrate assemblages in water-filled treeholes, *Acta Oecologica*, 118: 103884 (2023)
- Shinohara, N., Kobayashi, Y., Nishizawa, K., Kadowaki, K., Yamawo, A.: Plant–mycorrhizal associations may explain the latitudinal gradient of plant community assembly. *OIKOS*, 2024(6): e10367 (2024).

- Naka, M., Masumoto, S., Nishizawa, K., Matsuoka, S., Tatsumi, S., Kobayashi, Y., Suzuki, K. F., Xinyu, Xu, Kawakami, T., Katayama, N., Makoto, K., Okada, K., Uchida, M., Takagi, K., Mori, A. S: Long-term consequences on soil fungal community structure: Monoculture planting and natural regeneration. *Environmental Management*, 73: 777–787 (2024).
- Kobayashi, Y., Haga, C., Shinohara, N., Nishizawa, K., Mori, A. S: Dominant temperate and subalpine Japanese trees have variable photosynthetic thermal optima according to site mean annual temperature. *Global Ecology and Biogeography*, 32(3): 397–407 (2024).
- Tanaka, M, Baek, S, Tochigi, K, Naganuma, T, Inagaki, A, Dewi, BS, Koike, S: Conditions affecting ant nesting in stumps in a temperate coniferous planted forest, *Forest Ecology and Management*, 537: 120976 (2023): FM 草木
- 赤間宥紀: 北関東に植栽したユーカリ属 3 種の活着および初期成長の違いと土壌理化学性, 東京農工大学大学院農学府 修士論文: 84 pp. (2024): FM 唐沢山
- 國分大地: 油圧ショベルのバケットによる締固め力の特性, 東京農工大学大学院農学府 修士論文, 71 pp. (2024): FM 唐沢山
- 川勝菜乃子: ユーカリ属 3 種のコンテナ育苗に及ぼす用土と pH の影響, 東京農工大学農学部 卒業論文: 38 pp. (2024): 府中苗畑
- 前土井秀典: コナラとクヌギの菌根菌感染率及び土壌条件がナラ枯れ被害度に及ぼす影響, 東京農工大学農学部卒業論文: 83 pp. (2024): 府中苗圃
- 正田一真: 温帯の樹上性アリの行動形質と形態形質は収斂する, 東京農工大学農学部 卒業論文: 47 pp. (2024): 府中苗圃

筑波大学

山岳科学センター

- Aye Myat Myat Paing, Chen S, Araki K, Aihara T, Sarmah R, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Kimura N, Fukuoka S, Hisamoto Y, Goto S : Site characteristics of *Betula ermanii* range-wide provenance trials [revised version], *Miscellaneous Information of The University of Tokyo Forests*, 63, 11-22 (2024 年) : 八ヶ岳演習林
- Takaki Aihara, Kyoko Araki, Yunosuke Onuma, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Nobuhiro Tomaru, Kosuke Homma, Masahiro Takagi, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota, and Kentaro Uchiyama, Yoshihiko Tsumura : Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges. *Heredity*, 131: 387-397 (2023):筑波実験林
- Takaki Aihara, Kyoko Araki, Ragini Sarmah, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Haruhiko Taneda, Nobuhiro Tomaru, Kousuke Homma, Masahiro Takagi, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota, Yoshihiko Tsumura : Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens. *Journal of Forest Research*, 29 (1): 62-71 (2024):筑波実験林
- 安井 さち子, 佐藤 美穂, 山田 秀雄, 門脇 正史: ハクビシン等中型食肉目の樹上のため糞場で確認された実生, *森林立地*, 65(1), 39-42 (2023) : 筑波実験林
- 大橋正孝, 遠藤好和 : 冬期林道沿いで給餌とくくりわなによりニホンジカを捕獲する技術, *中部森林研究*, 71 : 53-54 (2023) : 井川演習林
- Catur Putra Satgada, Tomohiro Egusa, Yosuke Yamakawa, Fumitoshi Imaizumi : Forest harvesting affects soil organic carbon and total nitrogen transports by facilitating landslides, *Catena*, 233 : 1-9 (2023) : 井川演習林
- 輿水康二, 山川陽祐, 内田太郎 : 大起伏の中古生代付加体堆積岩山地における地質構造に着目した降雨流出特性に関する考察, *砂防学会誌*, 76(5) : 25-32 (2024) : 井川演習林
- 後藤 晋 : ダケカンバ産地試験林の設立経緯と現代的意義, 第 133 回日本森林学会大会, (2024 年) : 八ヶ岳演習林
- Aye Myat Myat Paing · Chen S · Araki K · Aihara T · Hirota M · Tsumura Y · Tomaru N · Homma K · Yoshida T · Kobayashi H · Iio A · Nagamatsu D · Takagi M · Hisamoto Y · Taneda H · Goto S : Effects of elevated temperature on survival and growth of *Betula ermanii* revealed by range-wide, 第 133 回日本森林学会大会, (2024 年) : 八ヶ岳演習林

- 中田修人・早川朋花・相原隆貴・吉田俊也・戸丸信弘・小林 元・津村義彦・後藤 晋・水永博己・檜本正明・飯尾淳弘：ダケカンバにおける電子伝達速度と気孔コンダクタンスの産地間変異の評価，第 133 回日本森林学会大会，(2024 年)：八ヶ岳演習林
- 早川朋花・中田修人・檜本正明・相原隆貴・吉田俊也・戸丸信弘・小林 元・後藤 晋・津村義彦・飯尾淳弘，ダケカンバの葉形質の種内変異：5 つの産地試験林を用いた評価，第 133 回日本森林学会大会，(2024 年)：八ヶ岳演習林
- 飯尾淳弘・中田修人・早川朋花・相原隆貴・吉田俊也・戸丸信弘・小林 元・後藤 晋・津村義彦：5 つの産地試験林を用いたダケカンバの光合成特性の種内変異の評価，第 133 回日本森林学会大会，(2024 年)：八ヶ岳演習林
- 今西貞夫：本州中央部の高標高地域における森林性鳥類の約 20 年後の鳥類相の変化，日本鳥学会 2023 年度大会，(2023 年)：八ヶ岳演習林
- 佐々木陽依,山尾僚：葉脈構造の進化は広葉樹に何をもちこたせたか？—光合成速度と葉の通水性の比較，第 55 回種生物学会，(2023 年)：八ヶ岳・川上演習林
- 佐々木陽依,山尾僚：ループかつリーか：葉の通水性が介する生育環境に応じた葉脈タイプの進化，第 71 回日本生態学会大会，(2024 年)：八ヶ岳演習林
- 大澤 光,土井 一生,荒井 紀之,東 良慶,渡壁 卓磨,山川 陽祐：線状凹地を有する地すべり地における地盤構造の推定，日本地球惑星科学連合 2023 年大会：口頭発表：井川演習林
- 川上 香：こぼれ種子を用いた地カブ栽培—焼畑衰退後の常畑における自給的農耕—，生き物文化誌学会第 20 回学術大会：ポスター：井川演習林
- Yamakawa Yosuke, Uchida Taro：Clarifying the Roles of Bedrock Geology on andslide Geometrical Variation: Case Studies in Japan and Sri Lanka Neranjan Suneth, 第 62 回 (2023 年度) 地すべり学会研究発表会：ポスター：井川演習林
- 山川 陽祐; 興水 康二, 内田 太郎：地すべり・深層崩壊の多発する付加体堆積岩山地における地質構造に着目した降雨流出応答特性の検討，第 62 回 (2023 年度) 地すべり学会研究発表会：ポスター：井川演習林
- 内田 太郎, 羽鹿 孝文, 山川 陽祐, 中村 美結：大起伏山地における流出ピーク遅れ時間に及ぼす「斜面」の影響，水文・水資源学会／日本水文科学会 2023 年度研究発表会：ポスター：井川演習林
- 中村 美結, 内田 太郎, 山川 陽祐：大起伏山地での EC 連続観測に基づく流出源の空間変動の検討，水文・水資源学会／日本水文科学会 2023 年度研究発表会：ポスター：井川演習林
- 張曼青,周玉琴：南アルプス農山村地域の生業変容を生きる人々の生活史，2023 年度日本農村生活学会大会：口頭：井川演習林
- 石崎 理慶, 甲山 哲生, 太田 有紀, 齊藤 拓也, 陶山 佳久, 津村 義彦, 日浦 勉:共通圃場を用いたスギ葉圏微生物群集の集団間比較，第 71 回日本生態学会大会ポスター発表, P1-280(2024): 筑波実験林
- Masahito Kataoka, Toshiki Nagakubo, Nobuhiko Nomura, Makoto Ueno, Masanori Toyofuku : Ecological Functions of a Volatile Molecule Produced by an Isopod-Intestinal Bacteria., 日本微生物生態学会第 36 回浜松大会・アジア微生物生態シンポジウム第 13 回浜松大会,ポスター発表, P326-B (2023): 筑波実験林
- 小切 壮仁, 杉本 廉, 奥山 颯大, 太田 有紀, 津村 義彦, 日浦 勉, 黒田 慶子, 東 若菜: スギ集団間の乾燥ストレスに対する水理学的適応機能の差異，第 135 回日本森林学会大会,ポスター発表, (2024): 筑波実験林
- Yuki OTA, Takuya SAITO, Tetsuo I KOHYAMA, Yoshihisa SUYAMA, Yoshihiko TSUMURA, Tsutom HIURA : Geographical variations in BVOC emissions from Japanese cedar : An approach based on common field experiments, 日本生態学会第 71 回全国大会ポスター発表 P1-216 (2024): 筑波実験林
- 太田 有紀, 齊藤 拓也, 日浦 勉, 甲山 哲生, 津村 義彦:スギが放出する BVOCs の新測定法の開発，日本地球惑星科学連合 2023 年大会ポスター発表, (2023): 筑波実験林
- 田原 真夢, 古川 顕充, 佐藤 幸恵:社会性ハダニにおける捕食者卵を転がす行動～行動の詳細からその目的を探る，第 71 回日本生態学会大会口頭発表, F02-07 (2024): 筑波実験林

- 谷野 彩奈, 佐藤 幸恵: 致死的雄間闘争を行うハダニに血縁認識能力はあるのか?, 第9回山岳科学学術集会, (2023): 筑波実験林
- 谷野 彩奈, 佐藤 幸恵: 社会性ハダニは雄同士の殺し合いにおいて生物学的兄弟と社会的兄弟を認識している?, 第42回菅平動物学セミナー口頭発表, (2023): 筑波実験林
- 谷野 彩奈, 佐藤 幸恵: 社会性ハダニにおける血縁認識と致死的雄間闘争: 血縁と馴染みの影響, 日本生態学会第71回全国大会ポスター発表 P1-063(2024): 筑波実験林
- 相原 隆貴: 日本の南北にわたる産地由来のダケカンバの表現型変異と遺伝子との関連, 筑波大学筑波大学生命環境科学研究科博士論文, (2024): 筑波実験林
- 船橋 美月: 筑波大学構内における鳥類相の解明: 1970年代から2023年の比較から, 筑波大学生物学類卒業研究, つくば生物ジャーナル, 23:37-37 (2024): 筑波実験林
- 細谷祐太: 国内外来種ヌマガエルの茨城県土浦市宍塚大池における生息状況とその生態について, 筑波大学生物資源学類卒業研究, (2024): 茨城県土浦市
- 石崎 理慶: スギの種内変異と葉圏微生物群集組成との関係: 共通圃場を利用した比較, 東京大学農学部卒業研究, (2024): 筑波実験林
- 風間匠馬: カシナガトラップの効果と森林動物群集に与える影響, 筑波大学生物資源学類卒業研究, (2024): 筑波実験林
- 新藤 啓太: 社会性ハダニにおける公共トイレの究極要因を探る, 筑波大学生物学類卒業研究, つくば生物ジャーナル, 23:9-9 (2024): 筑波実験林
- 田原 真夢: 社会性ハダニはなぜ天敵の卵を転がすのか?, 筑波大学生物学類卒業研究, つくば生物ジャーナル, 23:10-10 (2024): 筑波実験林
- 田中 優希奈: 異なる植物群集における植物-送粉者ネットワークの時間的変化の比較, 筑波大学生物学類卒業研究, つくば生物ジャーナル, 23:7-7 (2024): 筑波実験林

信州大学

農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

- 小林 智: 中央アルプス将基頭山北東面の維管束植物相と垂直分布, 京都大学理学部植物系統分類学研究室卒業論文: (2024): 西駒ステーション
- 小林元, 加藤岳: 斜面の異なる位置に生育するヒノキの根呼吸および細根動態, 第135回日本森林学会大会プログラム: 177(2024): 手良沢山演習林
- 室谷楓香, 小林元, 後藤晋, 戸丸信弘, 津村義彦: ダケカンバ産地試験地における4年生苗の萌芽幹動態, 第135回日本森林学会大会プログラム: 248(2024): 構内演習林
- 坂本小雪, 小林元, 安江恒: 中央アルプスの亜高山帯林における標高勾配に沿った土壌呼吸および根呼吸, 第135回日本森林学会大会プログラム: 175(2024): 西駒演習林
- Tetsuro Yoshikawa, Kumiko Totsu, Yayoi Takeuchi, Taku Kadoya, Tsutomu Enoki, Sakae Fujii, Atsuko S. Fukamachi, Mitsuru Hirota, Kazuhiko Hoshizaki, Naoki Iiyama, Yukio Ishikawa, Hiroki Itô, Hajime Kobayashi, Takashi S. Kohyama, Yasuo Konno, Akifumi Makita, Akira S. Mori, Dai Nagamatsu, Tohru Nakashizuka, Kanji Namikawa, Mahoko Noguchi, Michinori Sakimoto, Yoshinobu Ozaki, Tatsuyuki Seino, Hisashi Sugita, Jun-Ichirou Suzuki, Ryo O. Suzuki, Satoshi N. Suzuki, Koichi Takahashi, Ryunosuke Tateno, Ryuichi Watanabe, Tamon Yamashita, Tomohiro Yoshida, Masae I. Ishihara, Tanaka Kenta, Masahiro Nakamura, Tsutomu Hiura: Forest monitoring data of 45 plots across the Japanese archipelago during 1980–2021, Ecological Research, 39(3): 391-406(2024): 西駒演習林
- Takaki Aihara, Kyoko Araki, Ragini Sarmah, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Haruhiko Taneda, Nobuhiro Tomaru, Kosuke Homma, Masahiro Takagi, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota & Yoshihiko Tsumura: Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens, Journal of Forest Research, 29(1): 62-71(2023): 西駒演習林
- Takaki Aihara, Kyoko Araki, Yunosuke Onuma, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Nobuhiro Tomaru, Kosuke Homma, Masahiro Takagi, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota, Kentaro Uchiyama & Yoshihiko Tsumura, Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges, Heredity, 131: 387-397(2023): 西駒演習林

大野田 直弥, Yannik Wardius, 城田 徹央, 岡野 哲郎, Sebastian Hein: コナラの幹傾斜に対する樹冠可塑性および斜面傾斜の影響, 第 13 回中部森林学会大会, 富山県民会館: (2023): 手良沢山演習林

伊藤 太陽, 城田 徹央, 岡野 哲郎: 89 年生ヒノキ林縁個体の大枝の 1 次枝と 2 次枝における心材分布パターン, 第 13 回中部森林学会大会, 富山県民会館: (2023): 手良沢山演習林

大野田 直弥: コナラの幹傾斜に対する樹冠可塑性と斜面傾斜の影響, 第 9 回山岳科学学術集會口頭発表, 筑波大学: (2023): 手良沢山演習林

山崎 千種: アカマツヒノキ二段林における伐採による攪乱強度の違いが初期更新に与える影響, 第 9 回山岳科学学術集會口頭発表, 筑波大学: (2023): 構内演習林

伊藤 太陽: 89 年生ヒノキ林縁個体の 1 次枝と 2 次枝における心材分布, 第 9 回山岳科学学術集會ポスター発表, 筑波大学: (2023): 手良沢山演習林

大野田 直弥: コナラの幹傾斜と樹冠の偏りに対する斜面傾斜の影響, 令和 5 年度信州大学大学院農学研究科修士論文 (2024): 手良沢山演習林

山崎 千種: アカマツ択伐跡地における更新および初期成長の種特性, 令和 5 年度信州大学大学院農学研究科修士論文 (2024): 構内演習林

神江 真衣: カラマツ若齢個体における心材形成と樹冠構造の関係, 令和 5 年度信州大学農学部卒業論文 (2024): 手良沢山演習林

牧寄 遼詩: 林冠が再閉鎖した壮齢ヒノキ人工林におけるムラサキシキブの樹形の構造特性, 令和 5 年度信州大学農学部卒業論文 (2024): 手良沢山演習林

城田 徹央, 一柳 きくの, 岡野 哲郎: ササ型林床ヒノキ人工林における間伐後の下層植生の発達様式, 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学: (2024): 手良沢山演習林

伊藤 太陽, 安部 有佳子, 城田 徹央, 岡野 哲郎: ヒノキ林縁個体の 1 次枝と 2 次枝における心材と辺材の軸方向分布, 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学: (2024): 手良沢山演習林

牧寄 遼詩, 城田 徹央, 岡野 哲郎: 林冠が再閉鎖した壮齢ヒノキ人工林におけるムラサキシキブの樹形の構造特性, 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学: (2024): 手良沢山演習林

神江 真衣, 城田 徹央: カラマツ若齢個体における心材形成と樹冠構造の関係, 第 74 回日本木材学会大会, 京都大学: (2024): 手良沢山演習林

伊藤太陽, 岡野哲郎: 2023 年に AFC 構内演習林で採集されたカミキリムシ科昆虫, 信州大学農学部 AFC 報告, 22, 63-64(2024): 構内演習林

Yoshihiro Hosoo, Teppei Kishinaka, Kaho Nishimura: Molecular cloning and analysis of a gene encoding a monosaccharide uptake transporter in *Cryptomeria japonica*, Plant Biology Europe 2023 Congress, 0038-B (2023): 構内演習林

細尾 佳宏, 丸橋 衣織, 岡山 実紗: スギにおける HKT 系カリウムトランスポーター遺伝子の単離と解析, 第 135 回日本森林学会大会, PG-24(2024): 構内演習林

竹口 実咲, 山本 浩之, 吉田 正人, 細尾 佳宏, 安江 恒: 引張あて材の湿熱回復挙動に関する研究—G 層を形成しないモクレン科と G 層を形成するカエデの比較—, 第 74 回日本木材学会大会, C13-04-1115 (2024): 構内演習林

松田 ひかる, 細尾 佳宏, 末定 拓時, 桑山 知子, 奥原 祐司, 吉田 孝久: 長野県産スギ熱処理木材の縦引張強度特性と化学成分量, 第 74 回日本木材学会大会, C14-P-06 (2024): 構内演習林

齋藤 陽, 末定 拓時, 細尾 佳宏, 山口 健太: 長野県産広葉樹材と針葉樹材の複合集成材の強度性能及び接着性能の検証, 第 74 回日本木材学会大会, I14-P-05 (2024): 構内演習林

川浦 康輔, 末定 拓時, 細尾 佳宏, 神原 広平, 前田 啓: 焼杉材熱変性部における化学成分量の変化と耐朽性に関する実験的研究, 第 74 回日本木材学会大会, N14-P-12 (2024): 構内演習林

加藤 倫花: スギ由来糖輸送体 SWEET をコードする遺伝子の単離および解析, 信州大学農学部専攻研究論文 (2024): 構内演習林

丸橋 衣織: スギ由来 HKT 系カリウムトランスポーター遺伝子の単離および解析, 信州大学農学部専攻研究論文 (2024): 構内演習林

松田 ひかる: 長野県産スギ熱処理木材の物性および化学成分量, 信州大学農学部専攻研究論文 (2024): 構内演習林

川浦 康輔: 焼杉材熱変性部における化学成分量の変化と耐朽性・耐候性に関する実験的研究, 信州大学農学部専攻研究論文 (2024): 構内演習林

杉浦 七樹: 梁を用いた枠組壁工法面材耐力壁の面内せん断性能—面材を梁と土台に留め付ける効果—, 信州大学農学部専攻研究論文 (2024): 構内演習林

齋藤 陽: 長野県産広葉樹材と針葉樹材による複集成材材の強度性能及び接着性能に関する実験的研究, 信州大学農学部専攻研究論文 (2024): 構内演習林

齋藤 陽: 長野県産広葉樹材の強度性能の把握, 第 9 回山岳科学学術集会, P13 (2023): 構内演習林

未定 拓時: 長野県産広葉樹のめり込み性能に関する実験的研究, 2023 年度 日本木材学会中部支部大会 (石川), A08 (2023): 構内演習林

未定 拓時, 園田真吾, 杉浦七樹: 梁と長尺の面材を用いた枠組壁工法耐力壁の面内せん断性能に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿), 22349 (2023): 構内演習林

諏訪竜之介, 伊藤拓生, 岩田拓記, 牧田直樹. 高山帯の樹木および低木は土壤中の無機態窒素と有機態窒素のどちらを多く利用するのか? 第 71 回日本生態学会大会. 横浜国立大学. 2024, 03. 【優秀発表賞】: 西駒演習林

諏訪竜之介, 伊藤拓生, 岩田拓記, 牧田直樹. 高山帯における木本根系の無機態および有機態窒素吸収と根特性の関係. 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学, 2024,03 【優秀発表賞】: 西駒演習林

諏訪竜之介, 伊藤拓生, 岩田拓記, 牧田直樹. 山岳域における木本根系の無機態窒素および有機態窒素吸収速度と根形態特性. 第 58 回根研究集会. 兵庫県立大学. 2023,11 : 西駒演習林

諏訪竜之介, 伊藤拓生, 岩田拓記, 牧田直樹. 中央アルプス森林限界域における樹木細根の窒素吸収能:無機態および有機態窒素吸収に樹種間差はあるのか? 2023 年度日本生態学会中部地区大会. 筑波大学山岳科学センター八ヶ岳演習林. 2023.9【優秀発表賞】: 西駒演習林

木元茉莉, 牧田直樹, 安江恒. 13C ラベリングによるカラマツ粗根の年輪への光合成産物配分の季節変動. 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学, 2024,03 : 手良沢山演習林

勝間帆波, 暁麻衣子, 高梨功次郎, 高橋史樹, 牧田直樹. 冷温帯 9 樹種における細根・葉・土壌に含まれる一次代謝産物の樹種間差. 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学, 2024,03 : 手良沢山演習林

細井彩, 増本泰河, 諏訪竜之介, 松田陽介, 牧田直樹. 細根解剖特性の季節変動: 原生木部数の割合は季節によって変わるのか? 第 135 回日本森林学会大会, 東京農業大学, 2024,03 : 手良沢山演習林

木元茉莉, 安江恒, 牧田直樹. 13CO₂ パルスラベリングによるカラマツ粗根の年輪形成～光合成産物はいつどこに配分されるのか?～. 第 9 回山岳科学学術集会, 筑波大学, 2023, 12 【優秀発表賞】: 手良沢山演習林

勝間帆波, 暁麻衣子, 高梨功次郎, 高橋史樹, 牧田直樹. 冷温帯 9 樹種の細根と葉に含まれるアミノ酸・有機酸・糖の種特異性. 第 9 回山岳科学学術集会, 筑波大学, 2023, 12 : 手良沢山演習林

細井彩, 朝倉知佳, 坂下凜, 増本泰河, 牧田直樹. 樹木細根における解剖構造の土壌深度に対する応答～スギとヒノキの異なる原生木部数～. 第 57 回根研究集会. 明治大学. 2023.5 【優秀発表賞】: 手良沢山演習林

堤 友香, 城田 徹央, 香川 聡, 安江 恒:13CO₂ ラベリングを用いたスギにおける光合成産物配分の季節変動～葉・幹・根への配分割合について～, 第 74 回日本木材学会大会, 京都大学: (2024): 構内演習林

安江 恒, 香川 聡, 檀浦 正子, 半 智史, 小林 元: カラマツにおける樹幹および根への光合成産物配分の季節変動, 第 74 回日本木材学会大会, 京都大学: (2024): 手良沢山演習林

猪 ユスタフ貴裕, 柴山 凜, 牧野 礼, 橋田 光, 児嶋 美穂, 安部 久, 安江 恒, 小林 真, 吉田 俊也, 高橋 直樹, 船田 良, 半 智史: オニグルミにおけるフェノール性成分含有量と心材色の関係, 第 74 回日本木材学会大会, 京都大学: (2024): 構内演習林

安江 恒, 工藤 佳世, 高田 克彦: イチョウにおける幹, 葉, 根への光合成産物配分の季節変動, 第 74 回日本木材学会大会, 京都大学:(2024): 構内演習林

山本 陽太, 渡辺 陽子, 大野 泰之, 安江 恒: 食葉性昆虫の食害を模した摘葉がカラマツの光合成産物配分に与える影響, 第 74 回日本木材学会大会, 京都大学: (2024): 手良沢山演習林

平谷理人, 荒木眞岳, 安江恒: スギにおける樹幹 CO₂ 放出速度に樹幹温度および木部分化帯幅が与える影響, 第 135 回日本森林学会大会学術講演集: (2024): 構内演習林

- 堤 友香: $^{13}\text{CO}_2$ ラベリングを用いたスギにおける光合成産物の葉・幹・根への配分割合の季節変動, 令和5年度信州大学農学部卒業論文: (2024): 構内演習林
- 平谷理人: スギにおける樹幹表面からの二酸化炭素放出速度に影響を与える要因—木部分化帯幅および樹幹温度, 樹幹の形態的要素との関係—, 令和5年度信州大学大学院農学研究科修士論文: (2024): 構内演習林
- 荒瀬輝夫, 内川 義行: 長野県根羽村における林間放牧後の植生変化, 日本緑化工学会誌, 49(1): 87-90(2023)
- 荒瀬 輝夫, 吉澤 優理: 掌状複葉における小葉の葉形の意義について, 環境科学年報 (信州大学), 46: 1-7(2024)
- 吉澤 優理, 荒瀬 輝夫: 葉の形態的変異に基づくアケビ属3種の分類学的検討, 信州大学農学部 AFC 報告, 22: 45-54(2024): 構内演習林
- 荒瀬 輝夫, 宮本 裕美子, 小林 元, 木下 渉, 野溝 幸雄, 奥田 百音: 学生実習による雨天時の林道巡視, 信州大学農学部 AFC 報告, 22: 55-61(2024): 手良沢山演習林

静岡大学

農学部附属地域フィールド科学教育研究センター

- Takayama, S., Karasawa, R., Imaizumi, F. : Depth-averaged mixture model for development processes of debris flows over a steep unsaturated mobile bed, *Landslides*, 21, 1173–1187 (2024) : 演習林外
- Oya, S., Imaizumi, F., Takayama, S. : Field monitoring of pore water pressure in fully and partly saturated debris flows at Ohya landslide scar, Japan, *Earth Surface Dynamics*, 12, 2, 67–86 (2024) : 演習林外
- Ballesteros-Cánovas, J. A., Kariya, Y., Imaizumi, F., Manchado, A. M. T., Nishii, R., Matsuoka, N., Stoffel, M. : Debris-flow activity in the Japanese Alps is controlled by extreme precipitation and ENSO – evidence from multi-centennial tree-ring records, *Global and Planetary Change*, 231, 104296 (2023) : 演習林外
- Satgada, C. P., Egusa, T., Yamakawa, Y., Imaizumi, F. : Forest harvesting affects soil organic carbon and total nitrogen transports by facilitating landslides, *Catena*, 233, 107517 (2023) : 演習林外
- Imaizumi, F., Oya, S., Takayama, S. : Initiation and runout characteristics of partially saturated debris flows in Ohya landslide scar, Japan, *Proceedings of 8th International Conference on Debris Flow Hazard Mitigation*, 03013 (2023) : 演習林外
- Takayama, S., Hayashi, N., Imaizumi, F. : Experimental study on the effects of local sediment accumulation on a debris flow surge in a steep channel, *Proceedings of 8th International Conference on Debris Flow Hazard Mitigation*, 01026 (2023) : 演習林外
- Hanya G, Ohta T, Kurihara Y, He T, Sawada A, Shiroishi I, Kinoshita K.: Mineral acquisition of Japanese macaques: contents in the foods, digestibility and sodium-provisioning experiment, *American Journal of Primatology*, 85(7): e23502(2023): 演習林外
- Kurihara Y.: Scavenging on a carcass of sika deer by introduced raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides*) in spring: a case report in the World Heritage Site of Yakushima Island, Japan, *Mammal Study*, 48(4): 289-295(2023): 演習林外
- Hanya G, Yoshihiro SI, Yamamoto H, Ueda Y, Kakuta F, Hiraki M, Otani Y, Kurihara Y, Kondo Y, Hayaishi S, Honda T, Takakuwa T, Koide T, Sugaya S, Yokota T, Jin S, Shiroishi I, Fujino M, Tachikawa Y.: Two-decade changes in habitat and abundance of Japanese macaques in primary and logged forests in Yakushima: Interim report, *Forest Ecology and Management*, 545: 121306(2023): 演習林外
- 栗原 洋介: 自動撮影カメラで確認された静岡大学演習林周辺 (浜松市・川根本町) の哺乳類相, 東海自然誌, 17: 39-51(2024): 天竜ランチ・南アルプスランチ
- 遠藤 圭太, 織部 雄一郎, 北山 朋裕, 村田 崇真, 吉井 嘉子, 横谷 みどり, 花岡 創, 松下 通也, 長谷部 辰高, 玉城 聡, 倉本 哲嗣, 山田 浩雄: 飲料用ペットボトルを再利用した絶滅危惧種オガサワラグワの培養苗の馴化, 日本森林学会誌, 106: 7-12 (2024): 演習林外
- NAKADA, R., HANAOKA, S., OHSAKI, H., MURAKAMI, S., AKUTSU, H.: Intrafamily variation of grain spirality in a control-pollinated family of hybrid larch, 森林総合研究所研究報告, 23: 1-11 (2024): 演習林外
- 石塚 航, 成田 あゆ, 今 博計, 米沢 美咲, 来田 和人, 中田 了五, 加藤 一隆, 生方 正俊, 花岡 創: 北海道東部太平洋側地域におけるトドマツ優良個体の新規選抜, 北海道林業試験場報

- 告, 61: 11-21 (2023): 演習林外
- 遠藤圭太, 花岡創, 松下通也, 生方正俊, 山田浩雄: 細胞外凍結するシラカンバ冬芽の超低温保存, 低温生物工学会誌, 69: 53-56 (2023): 演習林外
- 武津 英太郎, 長谷部 辰高, 花岡 創: 深層学習を用いた培地上でのスギ花粉発芽の自動分類手法の検討, 関東森林研究, 74: 149-150 (2023): 演習林外
- Gan, Y., Wang, Q., Song, G. : Non-destructive estimation of deciduous forest metrics: comparisons between UAV-LiDAR, UAV-DAP, and terrestrial LiDAR leaf-off point clouds using two QSMs. Remote Sensing, 16, 697. (2024) : 中川根演習林
- Song, G., Wang, Q. : Species classification from hyperspectral leaf information using machine learning approaches. Ecological Informatics, 76, 102141 (2023) : 中川根演習林
- Song, G., Wang, Q., Jin, J. : Fractional-order derivative spectral transformations improved partial least squares regression estimation of photosynthetic capacity from hyperspectral reflectance. IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing, 61, 5510110 (2023) : 中川根演習林
- Gan, Y., Wang, Q., Matsuzawa, T., Song, G., Iio, A. : Multivariate regressions coupling colorimetric and textural features derived from UAV-based RGB images can trace spatiotemporal variations of LAI well in a deciduous forest. International Journal of Remote Sensing, 44(15), 4559-4577 (2023) : 中川根演習林
- 上野美桜, 上村真由子, 韓 慶民, 飯尾淳弘. 積雪が有機物の分解速度と分解者微生物に与える影響. 関東森林研究 75/1 35-38 (2024) ; 演習林外
- Takaki Aihara, Kyoko Araki, Ragini Sarmah, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Haruhiko Taneda, Nobuhiro Tomaru, Kosuke Homma, Masahiro Takag, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota and Yoshihiko Tsumura. Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens, Journal of Forest Research 29/1 62-71 (2023 年) ; 演習林外
- Aihara T, Araki K, Onuma Y, Cai Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Uchiyama K, Tsumura Y. Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges. Heredity 131/ 387-397 (2023 年) ; 演習林外

日本大学

生物資源科学部演習林

- 上野美桜・上村真由子・韓 慶民・飯尾淳弘：積雪が有機物の分解速度と分解者微生物に与える影響，関東森林研究，75:53-56 (2024)：日本大学水上演習林
- 生田海斗・小坂 泉・定元太智・畑岸萌香・白井琴乃・瀧澤英紀・阿部和時：ブナが優占する冷温帯落葉広葉樹林における夏季の土壤水分の減少が熱フラックスに与える影響，関東森林研究，75:65-58 (2024)：日本大学水上演習林
- 畑岸萌香・小坂 泉・白井琴乃・松倉君予・太田祐子・瀧澤英紀・阿部和時：冷温帯および暖温帯に植栽されたブナのガス交換と葉の特徴，関東森林研究，75:69-72 (2024)：日本大学水上演習林

東京農業大学

奥多摩演習林

- 原田 慎也, 亀山 翔平, 矢部 和弘 : コンテナ苗植栽の作業効率と作業姿勢の評価, 関東森林研究, 75(1) (2024) : 奥多摩演習林
- 大平 朋毅 : 針葉樹 3 種の個体特性および地理的特性がシカ角研ぎに与える影響の評価, 地域環境科学部森林総合科学科 森林生態学研究室卒業論文, (2024) : 奥多摩演習林
- 森 馨 : スギ・ヒノキ林内における樹洞二次利用動物の樹洞選択と利用, 地域環境科学部森林総合科学科 森林生態学研究室卒業論文, (2024) : 奥多摩演習林
- 西脇 辰仁 : ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) の樹上採食に起因する落穂拾い行動の評価 (中間発表), 地域環境科学部森林総合科学科 森林生態学研究室卒業論文, (2024) : 奥多摩演習林
- 飯坂 侑矢 : 奥多摩演習林におけるスギ冠縦断面形のフラクタル次元について周辺木からの被圧が与える影響, 地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文, (2024) : 奥多摩演習

林

- 鈴木 尊：木の枝の高さの違いによる枝の太さ変化が起こる因子の検討，地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 樽木 雅人：大腸菌を用いたコケ植物の生育環境別の抗バクテリア活性，地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 野崎 尚哉：成長の違いによるヒノキ芳香の変化，地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 廣江 裕輝：カラマツ林とスギーヒノキ交林の境界における外生菌根菌の分布 地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 宝福 海斗：列状間伐地に植栽した落葉広葉樹3種の10年後の動態から考えた今後の森林施業方法，環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 松葉 樹：スギ植栽区と広葉樹植栽区における小型土壤動物相の違い，地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 横溝 正太：全天球の林内画像を用いた間伐後イメージ画像の制作，地域環境科学部森林総合科学科 造林学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 古市 嗣洋：狩倉流域の基岩地形と土層厚，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 原 敬也：林床環境の違いがオサムシ科甲虫の群衆構造に与える影響，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 初見 悠太：奥多摩演習林狩倉沢流域の地下水の降雨流出特性，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 酒井 美瑛：狩倉流域における表面土壌の透水特性，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 佐久間 楽奈：斜面上に生育するオオバアサガラノの水平根による表層崩壊防止機能について，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 滝口 慶人：複数の堆積岩流域における降雨流出特性の比較，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 登坂 拓矢：奥多摩演習林間伐施業地におけるヒノキ根系の掘り取り調査，地域環境科学部森林総合科学科 治山緑化工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 原田 慎也：コンテナ苗植栽の作業効率と作業姿勢の評価，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 伊奈 栞：森林作業道における路面支持力の経年変化，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 越前 陽斗：縦断勾配の違いによる竹製横断排水溝の排水能力の検証，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 黄 嘉駿：林内におけるLPWAによる測位システムの構築，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 勝又 真：シダとBSCを用いた法面保護工，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 小板橋 宏太：簡易LiDARを活用した土量計測，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 四宮 龍太郎：植栽作業におけるアシストスーツを用いた負担軽減と効率の検証，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 中西 太郎：基本トレーニングを使用した受け口作成技術の向上，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 横手 友輝：奥多摩演習林における横断排水溝の施工状況と課題，地域環境科学部森林総合科学科 林業工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 塩谷 勇世：LVL原料としてのサワグルミ材の評価，地域環境科学部森林総合科学科 木材工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林
- 岡嶋 千穂：スギおよびカラマツにおける樹幹径の日変化にかかわる樹皮の収縮・膨潤，地域環境科学部森林総合科学科 木材工学研究室卒業論文，(2024)：奥多摩演習林

- Baek SU, Shimazaki A, Zedrosser A, Naganuma T, Yamazaki K, Koike S : Response to human-modified landscape of an apex consumer: Sex- and season-related variations in road selection and movement pattern, *Global Ecology and Conservation*, 46: 1-13. (2023) : 奥多摩演習林
山崎 晃司, 鈴木 郁子, 根本 唯, 伊藤 哲治 : 阿武隈山地でのツキノワグマの分布状況, *哺乳類科学*, 63(2):185-192.(2023)
- Tochigi K, Steyaert SMJG, Fukasawa K, Kuroe M, Anezaki A, Naganuma T, Kozakai C, Inagaki A, Yamazaki K, Koike K. : Demographic Parameters of Asian Black Bears in Central Japan, *Mammal Study*, 48: 1-14. (2023)
- Itoh T, Sato Y, Ishiguro N, Shimizu M, Kurhihara N, Mminami M, Yamazaki K.: Molecular Phylogeny and New Haplotypes of Extinct Asian Black Bear Populations in Kyushu Island, Japan. *Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine*, 28(1): 35-44.(2023)
- Bombieri G, Penteriani V, Almasieh K, Ambarl H, Ashrafzadeh M R, Das C S, Dharaia N, Hoogesteijn R, Hoogesteijn A, Ikanda D, Jdrzejewski W, Kaboli M, Kirilyuk A, Jangid A K, Sharma R K, Kushnir H, Lamichhane B R, Mohammadi A, Monroy-Vilchis O, Mukeka J M, Nikolaev I, Ohrens O, Packer C, Pedrini P, Ratnayeke S, Seryodkin I, Sharp T, Palei H S, Smith T, Subedi A, Tortato F, Yamazaki K, Delgado M del M.: A worldwide perspective on large carnivore attacks on humans, *PLOS Biology*, 21: e3001946 - e3001946. (2023)
- Saito R, Nemoto Y, Kondo NI, Kanda K, Takeda T, Beasley JC, Tamaoki M.: Study on the relationship between the dispersal of wild boar (*Sus scrofa*) and the associated variability of Cesium-137 concentrations in its muscle Post-Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident, *Science of the Total Environment*, 917: 170328.(2024)
- 富坂 峰人, 矢部 和弘, 江口 文陽 : 土壤藻類を活用した侵食防止及び植生の自然侵入促進技術「BSC 工法」, *山林*, No.1673: 47-48.(2023)
- 矢部 和弘, 富坂 峰人, 尾関 哲史, 城野 裕介, 梁 有希, 足立 幸大, 江口 文陽 : 微細藻類を用いた法面保護工の晩秋施工, *関東森林研究*, 75-1. (2024)
- 山崎 晃司, 鈴木 郁子, 根本 唯, 伊藤 哲 : 阿武隈山地でのツキノワグマの分布状況, *哺乳類科学*, 63 (2) : 185-192.(2023)
- 山崎 晃司 : 登山と自然—動物, 新・高みへのステップ. 国立登山研修所. (分担執筆第2部 登山と自然) (2023)
- 山崎 晃司 : 短期連載鉛弾 2024 鉛弾について考える Vol.1. 狩猟生活, 別冊山と溪谷, Vol.18: 104-105.(2023)

名古屋大学

大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター稲武・設楽フィールド

- Zhao H, Suzuki R, Sumitani S, Matsubayashi S, Arita T, Nakadai K, Okuno HG: Visualization and quantification of activities of animal vocalizations in forest species using robot audition techniques, *Journal of Ecoacoustics*, 7(1): 2(2023): 稲武フィールド
- Suzuki H, Kajimura H: Utilization of *Sasa borealis* seeds by Japanese field mouse: Discovery of small-seed caching, *Frontiers in Ecology and Evolution*, 11: DOI:10.3389/fevo.2023.1124393(2023): 稲武フィールド
- Suzuki H, Kajimura H: How much do field mice prefer dwarf bamboo seeds? Two-choice experiments between seeds of *Sasa borealis* and several tree species on the forest floor, *Ecology and Evolution*, 13(10): DOI: 10.1002/ece3.10636(2023): 稲武フィールド
- Ichioka Y, Kajimura H: Arboreal or terrestrial: Oviposition site of *Zhangixalus* frogs affects the thermal function of foam nests, *Ecology and Evolution*, 14(3): DOI: 10.1002/ece3.10926(2023): 稲武フィールド
- 田畑 望実, 梶村 恒: キツツキ類の採餌木と営巣木の特徴を探る—枯死木を保全する森林管理指針の検討—, *中部森林研究*, 71, 73-76(2023): 稲武フィールド
- Urvois T, Perrier C, Roques A, Sauné L, Courtin C, Kajimura H, Huler J, Cognato AI, Auger-Rozenberg M-A, Kerdelhué C: The worldwide invasion history of a pest ambrosia beetle inferred using population genomics, *Molecular Ecology*, 32(15): 4381-4400(2023): 稲武フィールド
- 鈴木 麗璽: ロボット聴覚技術で探る野外鳥類の鳴き声ダイナミクス, *細胞*, 55(8), 86-90(2023): 稲武フィールド
- 鈴木 麗璽: ロボット聴覚技術で探る野外鳥類の鳴き声ダイナミクス, *アグリバイオ*, 8(2): 74-79

- (2024): 稲武フィールド
- 鈴木 麗璽: 第 21 回 HARK 講習会 Case study 野鳥の歌の分析 -鳥類生態音響学に対するロボット聴覚アプローチと HARKBird の紹介: (2023): 稲武フィールド
- 鈴木 麗璽: ロボット聴覚に基づくマルチスケール野外鳥類観測とこれから, 第 64 回 AI チャレンジ研究会予稿集 (SIG-Challenge, 064-10): 24-31(2024): 稲武フィールド
- 鈴木 麗璽, 古山 諒, Zachary Harlow, 中臺 一博, 有田 隆也: 生成モデルに基づく形質表現を利用した鳥類の鳴き声に関する進化モデルとフィールド実験の融合の試み, 第 63 回 AI チャレンジ研究会予稿集 (SIG-Challenge, 063-07): 31-37(2023): 稲武フィールド
- Zhao H, Suzuki R, Arita T, Nakadai K: Visualization and Quantification of Forest Animal Vocalizations: Applying Robot Audition Techniques in Ecoacoustics, Abstract booklet of The XXVIII International 2023 Bioacoustics Congress (IBAC203): P-28 (2023): 稲武フィールド
- Zhao H, Suzuki R, Kojima R, Arita T, Nakadai K: Utilizing Embedding Methods for Soundscape Analysis of Forest Animal Vocalization based on azimuth and elevation localization, 第 64 回 AI チャレンジ研究会予稿集 (SIG-Challenge, 064-06): 16(2024): 稲武フィールド
- 土岐 和多瑠: ハナカミキリと酵母の共生関係, アグリバイオ, 8(3): 43-45(2024): 稲武フィールド
- 古山 諒, 鈴木 麗璽, 中臺 一博, 有田 隆也: 鳥類の鳴き声行動の理解に対するロボット聴覚に基づく観測と生成進化モデル, 日本鳥学会 2023 年度大会: (2023): 稲武フィールド
- Gong Q, Aoki D, Yoshida M, Fukushima K: Distribution of Eight Taxoids in the Freeze-fixed Stems of *Taxus cuspidate*, the 7th International Symposium of the Kyoto Biomolecular Mass Spectrometry Society / 521st Sustainable Humanosphere Symposium: (2024): 稲武フィールド
- Gong Q, Aoki D, Yoshida M, Takabe N, Takabe H, Mishiro-Sato E, Fukushima K: Seasonal variations of the distribution of eight alkaloids in the freeze-fixed stems of mature *Phellodendron amurense*, 第 74 回日本木材学会: (2024): 稲武フィールド
- Jing Q, 山本 浩之, 吉田 正人, Jiang Z, 安藤 幸世, 高部 直紀: 圧縮あて材の湿熱回復挙動に及ぼす S2L 層の役割, 第 74 回日本木材学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 金子 祥也, 谷川 東子, 藤堂 千景, 池野 英利, 山瀬 敬太郎, 大橋 瑞江, 檀浦 正子, 杵山 哲矢, 黒見 信輔, 平野 恭弘: 巨礫のある土壌・無い土壌に生育するスギの根に地中レーダを探索した際の検出精度, 第 58 回根研究集会: (2023): 稲武フィールド
- 金子 祥也, 谷川 東子, 藤堂 千景, 池野 英利, 山瀬 敬太郎, 大橋 瑞江, 檀浦 正子, 杵山 哲矢, 黒見 信輔, 平野 恭弘: スギ林土壌の巨礫の有無に着目した二周波地中レーダによる推定根系の比較, 第 135 回日本森林学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 木俣 朱理, 渡邊 彰: 森林土壌の炭素貯留量と樹木生育に対するバイオ炭の施用効果, 日本土壌肥料学会 2023 年度大会: (2023): 稲武フィールド
- Nakatsuka T, Kato M, Kato Y, Li Z: Vertical changes in cellulose oxygen and hydrogen isotope ratios along conifer trunks: Implications for physiological controls on tree-ring isotopes, European Geosciences Union 2023 - 発表番号 10378 - セッション名 "Oxygen and hydrogen isotope analyses of aquatic and terrestrial compounds: Advances in methods, models, and interpretation": (2023): 稲武フィールド
- 千古 晴菜, 兒玉 宏樹, Sleighter RL, Hatcher PG, 渡邊 彰: FTICR-MS を用いた各種環境中のフルボ酸の構成成分の比較解析, 日本腐植物質学会第 39 回講演会: (2023): 稲武フィールド
- 竹口 実咲, 山本 浩之, 吉田 正人, 細尾 佳宏, 安江 恒: 引張あて材の湿熱回復挙動に関する研究- G 層を形成しないモクレン科と G 層を形成するカエデの比較-, 第 74 回日本木材学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 山田 風由音, 山本 一清: 深層学習を用いた森林作業道の抽出, 第 13 回中部森林学会大会: (2023): 稲武フィールド
- 山口 大樹: 航空機 LiDAR によるブナ類の樹冠特徴の考察, 第 13 回中部森林学会大会: (2023): 稲武フィールド
- 山本 浩之: あて材の特異な挙動が木材の構造-物性相関を解く鍵であること, 第 522 回生存圏シンポジウム 木材の構造-物性相関の深化: (2023): 稲武フィールド
- 山本 一清: GIS、リモセン技術と森林計画学の振り返りと今後の方向性, 森林 GIS フォーラム 30 周年記念大会: (2023): 稲武フィールド
- 柳瀬 亮太, 谷川 東子, 杵山 哲矢, 黒見 信輔, 金子 祥也, 山瀬 敬太郎, 藤堂 千景, 池野 英利,

- 大橋 瑞江, 檀浦 正子, 平野 恭弘: 異なる土壤環境に生育するスギ個体根系内の深さ別細根特性, 第 57 回根研究集会: (2023): 稲武フィールド
- 柳瀬 亮太, 谷川 東子, 杵山 哲矢, 黒見 信輔, 金子 祥也, 山瀬 敬太郎, 藤堂 千景, 池野 英利, 大橋 瑞江, 檀浦 正子, 平野 恭弘: 表層から深さ 1.5m までの土壤物理特性の変化がスギ細根形態に与える影響, 第 58 回根研究集会: (2023): 稲武フィールド
- 柳瀬 亮太, 谷川 東子, 杵山 哲矢, 黒見 信輔, 金子 祥也, 山瀬 敬太郎, 藤堂 千景, 池野 英利, 大橋 瑞江, 檀浦 正子, 平野 恭弘: 土壤表層から根系最大深さに至るまでのスギ細根形態特性, 第 135 回日本森林学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 飯尾 淳弘, 中田 修人, 早川 朋花, 相原 隆貴, 吉田 俊也, 戸丸 信弘, 小林 元, 後藤 晋, 津村 義彦: 5つの産地試験林を用いたダケカンバの光合成特性の種内変異の評価, 第 135 回日本森林学会大会: (2024 年): 設楽フィールド
- 中田 修人, 早川 朋花, 相原 隆貴, 吉田 俊也, 戸丸 信弘, 小林 元, 津村 義彦, 後藤 晋, 水永 博己, 檜本 正明, 飯尾 淳弘: ダケカンバにおける電子伝達速度と気孔コンダクタンスの産地間変異の評価, 第 135 回日本森林学会大会: (2024 年): 設楽フィールド
- 早川 朋花, 中田 修人, 相原 隆貴, 吉田 俊也, 戸丸 信弘, 小林 元, 津村 義彦, 後藤 晋, 檜本 正明, 水永 博己, 飯尾 淳弘: ダケカンバ葉形質の種内変異: 5つの産地試験林を用いた評価, 第 135 回日本森林学会: (2024 年): 設楽フィールド
- Suzuki H, Kajimura H: Field mouse preference for dwarf bamboo and tree seeds: Long-period synchronized seeding and mortality of *Sasa borealis* may alter forest regeneration, 2023 ESA Annual Meeting: (2023): 稲武フィールド
- 鈴木 華実: 一斉開花・結実・枯死したスズタケの更新過程と動物との生物間相互作用の解明, 未来の博士フェス 2023: (2023): 稲武フィールド
- 市岡 幸雄, 梶村 恒: モリアオガエルの卵を捕食する森林性ネズミの発見: 泡巣形成場所と捕食行動の関係, 日本爬虫両棲類学会第 62 回大会: (2023): 稲武フィールド
- 梶田 瑠依, 梶村 恒: スズタケ枯死稈の存在はアカネズミ・ヒメネズミの活動性を変えるか?: ネズミ種間関係にも着目した捕獲調査とクリ堅果の供試実験を通じた枯死稈の役割の考察, 第 13 回中部森林学会大会: (2023): 稲武フィールド
- 梶田 瑠依, 梶村 恒: 野ネズミによるクリ堅果の採餌行動: 大胆な巣の破壊と繊細な森林環境の選択, 第 71 回日本生態学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 柴山 潤太: 森の時空間的变化に対する鳥の反応, バードリサーチ鳥類学大会 2023: (2023): 稲武フィールド
- 柴山 潤太, 梶村 恒: 森林植生の空間的变化および長・短期的変化が鳥類群集に及ぼす影響, 第 135 回日本森林学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 高木 隆, 梶村 恒: 日本産クビナガキバチ科昆虫 3 種の利用樹種と卵・共生菌・粘液の保有状態, 日本昆虫学会第 83 回大会: (2023): 稲武フィールド
- 高木 隆, 梶村 恒: クビナガキバチ科昆虫 3 種の利用樹種と羽化・脱出パターン: 穿孔部位をめぐる養菌性キクイムシとの関係も含めて, 日本昆虫学会第 84 回大会・第 68 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会: (2024): 稲武フィールド
- 中山 直紀, 梶村 恒: スギ・ヒノキ丸太へのエタノール注入によるキクイムシ穿孔様式の劇的な変化, 第 135 回日本森林学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 土岐 和多瑠, 岸上 真子, 門司 早紀, 鈴木 智之: 日本産ハナカミキリ亜科と *Scheffersomyces* 属酵母の共生パターン, 日本昆虫学会第 83 回大会: (2023): 稲武フィールド
- 土岐 和多瑠, 岸上 真子, 門司 早紀: ハナカミキリと酵母の共生関係の多様性, 日本甲虫学会第 13 回大会: (2023): 稲武フィールド
- Toki W, Kishigami M, Monji S: Diversity of longicorn beetle-yeast associations, 第 71 回日本生態学会大会: (2024): 稲武フィールド
- 松川 悌己: 木材の DART(Direct Analysis in Real Time)-MS 分析とケモメトリックス解析, 2023 年度名古屋大学農学部卒業論文: (2024): 稲武フィールド
- 山田 風由音: 深層学習を用いた森林内路網の検出, 2023 年度名古屋大学農学部卒業論文: (2024): 稲武フィールド
- 澤入 健太: 山地源流域に生息するネバタゴガエルの水域環境利用様式, 2023 年度名古屋大学農学

- 部卒業論文: (2024): 稲武フィールド
- 中山 直紀: スギ・ヒノキ丸太へのエタノール注入が養菌性キクイムシの穿孔様式に与える影響, 2023 年度名古屋大学農学部卒業論文: (2024): 稲武フィールド
- 野口 楓華: クリタマバチがクリに形成する虫えいの内部状態と幼虫期における菌相, 2023 年度名古屋大学農学部卒業論文: (2024): 稲武フィールド, 設楽フィールド
- 芳賀 航: ハナカミキリー菌共生系における共生菌の重要性:菌取り換え実験による検証, 2023 年度名古屋大学農学部卒業論文: (2024): 稲武フィールド
- 梶村 太楠: 可視-近赤外空間分解分光法による木材の成長応力評価, 2023 年度名古屋大学大学院生命農学研究科修士論文: (2024): 稲武フィールド
- Kaneko S: Effects of boulders in forest soils on estimation of root systems of *Cryptomeria japonica* using ground penetrating radar, Master's thesis of Environmental Studies, Nagoya University: (2024): 稲武フィールド
- 千古 晴菜: 土壌・天然水中のフルボ酸の化学構造特性と生態系保全機能との関係, 2023 年度名古屋大学大学院生命農学研究科修士論文: (2024): 稲武フィールド
- 竹口 実咲: 引張あて材の湿熱回復挙動に関する研究—G層を形成しないモクレン科とG層を形成するカエデの比較—, 2023 年度名古屋大学大学院生命農学研究科修士論文: (2024): 稲武フィールド
- 鈴木 華実: スズタケの有性繁殖に伴う生物間相互作用—更新過程とそれに関わる要因、および森林生態系に与える影響—, 名古屋大学大学院生命農学研究科博士論文: (2024): 稲武フィールド

岐阜大学

フィールド科学教育研究センター位山演習林および柳戸試験林

- 深澤圭太, 安川雅紀, 中島啓裕, 飯島勇人, 高木俊, 安藤正規, 相澤宏旭: 自動撮影カメラ映像のオープンデータベースの構築に向けて, 日本哺乳類学会 2023 年度大会 100 周年記念沖縄大会(沖縄) 自由集会 F09
- 安中美咲, 山田雄作, 池田敬, 安藤正規: 岐阜大学位山演習林におけるカモシカの行動圏およびその季節変化, 日本哺乳類学会 2023 年度大会 100 周年記念沖縄大会(沖縄) ポスター発表 P059
- 船津沙月, 中森さつき, 野澤秀倫, 安藤正規: カメラトラップを用いたニホンジカおよびカモシカの生息地利用状況の把握, 日本哺乳類学会 2023 年度大会 100 周年記念沖縄大会(沖縄) ポスター発表 P064
- 早崎涼花, 安藤正規: カメラトラップ画像の野生動物検出における深層学習モデルの比較, 第 13 回中部森林学会大会(富山) 口頭発表 707
- 若林祐樹, 安藤正規: 草食動物の存在はクマイザサの当年稈生産数を増加させる?, 第 13 回中部森林学会大会(富山) 口頭発表 708

三重大学

大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林

- 加藤 亜里紗, 吉井 達樹, 松村 直人: LiDAR データを用いた人工林整備のための高精度森林情報データベースの構築, 中部森林研究, 71: 91~94 (2023): 平倉演習林
- 横山 航大, 吉井 達樹, 沼本 晋也, 松村 直人: スギ人工林における GNSS 測定の精度分析, 中部森林研究, 71, 95-98 (2023): 平倉演習林
- 木下 涼日, 加藤 亜里紗, 渡辺 和誓, 松村 直人: クラウドベースの森林資源情報システムの応用可能性, 71: 99-100 (2023):
- 島田 博匡: 倒流木を除去した溪流区間において再発生した倒流木の特徴, 中部森林研究, 71, 35-38 (2023): 平倉演習林ほか
- Ken-ichi Kamo, Tetsuji Tonda, Masayoshi Takahashi, Naoto Matsumura: Selection Method for Height-Diameter Curves and Its Application to the Data of Sugi (*Cryptomeria japonica*) in Japan, FORMATH 22 (2023), DOI:10.15684/formath.22.002
- 市岡 利之, 岩永 青史, 小川 敬多, 河崎 泰了, 佐々木 康寿, 末定 拓時, 高井 香織, 福島 和彦, 澁上 佑樹, 柳田 智弘, 山崎 真理子, 山出 美弥: Woodcity-都市の木造木質化でつくる

- 持続可能な社会-, 海青社, 70-74, 76-79, 125-154 (2024) :
- 澁上 佑樹: 都市の木造・木質化とカーボンニュートラル, 三重の林業, 439, 11-12 (2024).
- 牧野 奏佳香, 徳地 直子, 赤石 大輔, 小山 里奈, 駒井 幸雄, 板谷 佳美, Nay Lin Maung, 福澤 加里部, 柴田 嶺, 沼本 晋也, 仁科 一哉, 木庭 啓介, 林 健太郎: 日本全国における渓流水NO₃-濃度規定要因の20年間での変化, 生物地球化学研究会, 新潟大学佐渡演習林 (2023) : 全国各地.
- Takafumi Mizuno, Daichi Kondo, Hiroto Kasai, Imam Purwadi, Antony Van Der Ent, Yoshinori Murai, Atsushi Hashimoto and Toshihiro Watanabe : X-ray Fluorescence herbarium ionomics on plants from ultramafic, calcareous, and volcanic soils in Japan, 第10回国際蛇紋岩植生学会, Nancy, France (2023) : 平倉演習林ほか.
- 水野 隆文, 桑原 康輔, 近藤 大地, 伊東 拓朗, 村井 良徳, 山下 純, 橋本 篤, 渡部 敏裕: 植物標本と蛍光X線分析を用いた野生植物の元素集積傾向の解析 (5) 土壌の違いが野生植物の各種元素の集積量と相関性に与える影響, 日本土壌肥料学会2023年度愛媛大会, (2023) : 平倉演習林ほか.
- 高井 香織, 澁上 佑樹, 井上 郁人, 山崎 真理子: 建築物・建設活動のSDGs貢献度の定量評価ーその6 主観調査における回答者の専門性の影響ー, 2023年度日本建築学会大会学術講演会 (2023) :
- 澁上 佑樹, 井上 郁人, 高井 香織, 山崎 真理子: 建築物・建設活動のSDGs貢献度の定量評価ーその5 集団AHP法を用いた関係性の定量解析ー, 2023年度日本建築学会大会学術講演会 (2023) :
- 井上 郁人, 高井 香織, 澁上 佑樹, 山崎 真理子: 建築物・建設活動のSDGs貢献度の定量評価ーその4 持続性指標と評価項目ー, 2023年度日本建築学会大会学術講演会 (2023) :
- 末永 和, 板谷 明美, 中田 知沙: 暑熱環境の許容基準にもとづいた森林作業の分類, 第13回中部森林学会講演要旨集, 106, 19 (2023) : 平倉演習林.
- 伊神 飛鳥, 吉井 達樹, 沼本 晋也, 松村 直人: 航空レーザデータとUAV空中写真を用いたスギ人工林における風倒木抽出と特徴量解析, 第13回中部森林学会講演要旨集, 212, 25 (2023) : 平倉演習林.
- 外園 哲太, 鳥丸 猛, 板谷 明美, 松村 直人: 三重県野登山におけるブナ天然林の現状について, 第13回中部森林学会講演要旨集, 410, 34 (2023) : 野登山, 平倉演習林ほか.
- 村山 浩久, 松尾 健司, 神代 圭輔, 長島 啓子, 古田 裕三, 澁上 佑樹: ICTを活用した新たな木材流通(京都モデル)の構築を目指した基礎的研究-府内木材加工実態を踏まえた流通効率化の検討-, 日本木材加工技術協会第41回年次大会 (2023) :
- 小野田 いおり, 澁上 佑樹, 中井 毅尚: 広葉樹家具のGHG排出量の定量評価と国産広葉樹への転換による効果の検証, 第33回日本MRS年次大会 (2023) :
- 牧野 奏佳香, 徳地 直子, 赤石 大輔, 小山 里奈, 駒井 幸雄, 板谷 佳美, Nay Lin Maung, 福澤 加里部, 柴田 嶺, 沼本 晋也, 仁科 一哉, 木庭 啓介, 林 健太郎: 日本全国における山地渓流水水質の分布とその経年変化~シチズンサイエンスによる広域再調査, 京都大学フィールド科学教育研究センター創設20周年シンポジウム (2023) : 全国各地.
- Takafumi Mizuno and Jun Yamashita : Construction of ionome database of Japanese wild plants by XRF-herbarium analysis -Discovery of new manganese hyperaccumulators, Ilex trees, and their element accumulation pattern-, 第39回資源植物科学シンポジウム及び第15回植物ストレス科学研究シンポジウム (2024) : 平倉演習林ほか.
- 吉井 達樹, 松村 直人, 沼本 晋也, 山本 一清: 2周波GNSS測位における植生と地形の影響評価, 第135回日本森林学会学術講演集, D21, 136 (2024) : 平倉演習林.
- 齊藤 勇人, 中井 毅尚, 鳥羽 景介: ヤマザクラコルク組織および木部の水分吸脱着で誘起されるヒステリシスに対する主要構成成分の役割, 第74回日本木材学会大会, B-14-P-25 (2024) : 平倉演習林.
- 加用 千裕, 古俣 寛隆, 澁上 佑樹, 前川 洋平: 木材とカーボンニュートラル, 第74回日本木材学会大会 (2024) : .
- 中島 拓之, 田中 宏明, 井上 郁人, 高井 香織, 山崎 真理子, 澁上 佑樹: 建築物・建設活動の持続性指標とSDGsの関係に関する主観調査 その2 持続性指標と評価項目, 第74回日本木

- 材学会大会 (2024) : .
- 澁上 佑樹, 高井 香織, 山崎 真理子, 中島 拓之, 田中 宏明, 井上 郁人 : 建築物・建設活動の持続性指標と SDGs の関係に関する主観調査 その 3. 集団 AHP 法を用いた関係度の決定, 第 74 回日本木材学会大会 (2024) : .
- 高井 香織, 山崎 真理子, 澁上 佑樹, 中島 拓之, 田中 宏明, 井上 郁人 : 建築物・建設活動の持続性指標と SDGs の関係に関する主観調査 その 4 主観調査における回答者の専門性の影響, 第 74 回日本木材学会大会 (2024) : .
- 山崎 真理子, 高井 香織, 澁上 佑樹, 中島 拓之, 田中 宏明, 井上 郁人 : 建築物・建設活動の持続性指標と SDGs の関係に関する主観調査 その 5 建設材料選択の影響, 第 74 回日本木材学会大会 (2024) : .
- 村山 浩久, 松尾 健司, 神代 圭輔, 長島 啓子, 古田 裕三, 澁上 佑樹 : ICT を活用した新たな木材流通 (京都モデル) の構築を目指した基礎的研究—府内木材加工流通調査を踏まえた現状分析と課題抽出—, 第 74 回日本木材学会大会 (2024) : .
- 齊藤 勇人 : ヤマザクラ樹皮の構成成分と物理特性について, 令和 5 年度フェローシップ・育成支援学生合同業績報告会 (2024) : 平倉演習林.
- 伊神 飛鳥 : 航空レーザデータと UAV 空中写真を用いたスギ人工林における風倒木抽出と特徴量解析, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 平倉演習林
- 大野 泰佳 : 航空レーザデータから得られるテクスチャ特徴量と点群の垂直分布の特徴量を用いた林分密度の推定, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 平倉演習林ほか
- 外園 哲太 : 三重県野登山におけるブナ天然林の現状について, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 野登山, 平倉演習林ほか
- 森本 大丈 : 三重大学演習林における山地溪谷林の森林動態 : 森林構造の 20 年間の変化とその要因, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 平倉演習林
- 内藤 綾音 : 三重大学演習林の中間温帯天然林における森林構造の変化, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 平倉演習林
- 安原 輝 : XRF 分析による草本植物の科別元素集積特性の解明, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 平倉演習林
- 末永 和 : 暑熱環境の許容基準にもとづいた森林作業の分類, 三重大学生物資源学部卒業論文 (2024) : 平倉演習林

京都大学

フィールド科学教育研究センター

- Sawada Masayasu, Yoshizawa Kazunori, Ohshima Issei: Two new species of *Cameraria* Chapman (Lepidoptera: Gracillariidae) associated with *Salix* or *Cornus* in Japan, *Zootaxa*, 5410(2): 177-198(2024): 芦生研究林
- Kusakabe Gen, Mori Hideki, Hiura Tsutomu: Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types, *Basic and Applied Ecology*, 72(-): 1-9(2023): 芦生研究林
- Katayama Naoki, Fujita Taku, Ueta Mutsuyuki, Morelli Federico, Amano Tatsuya: Effect of depopulation and warming climates explain bird population trends in Japan, *Conservation Biology*, 38(2): -(2023): 芦生研究林
- Mochidome Takumi, Daniel Epron: Drivers of intra-individual spatial variability in methane emissions from tree trunks in upland forest, *Trees In press*, -(-): -(2024): 芦生研究林
- 赤石 大輔: 芦生研究林のきのこ相: 過去の文献調査と 2019-2021 の現地調査から, *森林研究*, 82(-): 1-15(2023): 芦生研究林
- 渡辺 弘之: 芦生研究林の大型土壌動物相, *森林研究*, 82(-): 17-28(2023): 芦生研究林
- Kadowaki Kohmei, Honjo Mie N., Nakamura Naoto, Kitagawa Yoichiro, Ishihara Masae I., Matsuoka Shunsuke, Tachiki Yuuya, Fukushima Keitaro, Sakaguchi Shota, Mizuki Inoue, Fujiki Daisuke, Sakai Masaru, Takayanagi Atsushi, Yamasaki Michimasa, Tokuchi Naoko, Takahashi Daiki, Nagasawa Koki, Masuda Kazutoshi: eDNA metabarcoding analysis reveals the consequence of creating ecosystem-scale refugia from deer grazing for the soil microbial communities, *Environmental DNA*., 5(6): 1732-1742(2023): 芦生研究林

- Sakaguchi Shota, Fukumoto Shigeru, Masuda Kazutoshi, Setoguchi Hiroaki, K. Hirota Shun, Suyama Yoshihisa, Fujiki Daisuke, Miura Reiichi, Yamamoto Kazuki, Ota Misyo, I. Ishihara Masae: Evaluating the potential of interpopulation outbreeding to rescue plant populations facing reproductive failures, *Ecological Research*, (-): 1-11(2024): 芦生研究林
- 日下部 玄, 半 智史, 船田 良, 日浦 勉: 温帯性つる植物種の木部道管形質の地理変異は凍結対処戦略によって異なるか, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林
- 日下部 玄, 半 智史, 船田 良, 日浦 勉: 温帯の木本性つる植物における木部道管形質とその地理変異の登攀様式間差, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 小西 桃花, 草竹 恵実, 三村 真紀子: 四国で多様化するイカリソウ属のニッチ分化, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 惣田 彩可: ミソサザイの雄は繁殖なわばり争いに備えて越冬なわばりをもつ, *日本鳥学会 2023 年度大会*, (-): -(2023): 芦生研究林
- Soda Ayaka: Is song sharing used for territorial competition in Eurasian Wren?, *The XXVIII International Bioacoustics Congress*, (-): -(2023): 芦生研究林
- 片山 直樹, 藤田 卓, 植田 睦之, 天野 達也: 土地放棄と温暖化が日本の鳥類個体数トレンドを説明する, *日本鳥学会大会 2023 年度大会*, (-): -(2023): 芦生研究林
- 大上 迪士, 横部 智浩, 松岡 俊将, 舘野 隆之輔: 冷温帯の河川源流域における河川水中の粒子付着性微生物と浮遊性微生物の多様性, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 稲岡 諄, 小杉 賢一朗, 堀本 大輝, 正岡 直也: 堆積岩山地における湧水点分布と地形・地質の関係, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林
- 杉本 廉, 東 若菜: 大型葉状地衣類カブトゴケ属のリター分解に本属の二次代謝産物と分解者群集が与える影響, *2023 年度生態学会近畿地区会*, (-): -(2023): 芦生研究林
- 杉本 廉, 石原 正恵, 東 若菜: 森林生態系内において樹幹着生性地衣類のリターフォール量に影響を与える要因, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- Yuasa Keisuke, Sumonta Paul, Daniel Epron: 土壌二酸化炭素フラックスに周辺樹木が与える影響, *International Symposium on Agricultural Meteorology*, (-): -(2024): 芦生研究林
- Sumonta Kumar Paul, Daniel Epron, Dannoura Masako: Effect of vegetation and topography on soil methane (CH₄) flux in a cool temperate forest, *International Symposium on Agricultural Meteorology*, (-): -(2024): 芦生研究林
- Sumonta Kumar Paul, Dannoura Masako, Daniel Epron: Spatial patterns of soil CH₄ flux in a mountain forested watershed: topographic and biogeochemical controls, *Japan Geoscience Union Annual Meeting*, (-): -(2023): 芦生研究林
- 持留 匠, 檀浦 正子, エプロン ダニエル: 樹幹内部におけるメタンの生成と樹高方向への移動が つくる, 幹メタン放出の空間的な不均一性, *農業気象学会 2024 年大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 長沢 誠, 持留 匠, Daniel Epron, 檀浦 正子: 冷温帯林における幹メタン放出の放射方向変動性, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林
- 加藤 拓磨, 名波 哲, 荒堀 由希奈, 田中 大樹, 大矢 樹, 永野 惇, 伊東 明: 雌雄異株植物と両性植物の間に生態特性の差はあるか? : カエデ属樹種による種間比較, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 鈴木 和馬, 根本 和明, 上村 真由子, 酒井 佳美, 橋本 徹, 野口 亨太郎, 徳地 直子, 鶴川 信: 広葉樹木質リターの初期分解過程における各種要因の影響, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 藤田 徹: 落下した球果から採種したコウヨウザン種子の発芽率, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林
- 山崎 理正, 石原 正恵, 高柳 敦: 冷温帯落葉広葉樹林の長期動態とナラ枯れ, *日本生態学会誌第 71 回大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 小川 芳樹, 栗野 達也, 吉永 新, 杉山 淳司: ムクロジ科木口面光顕画像のセグメンテーションによる細胞形態情報の取得と樹種特性の解析, 第 74 回日本木材学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林
- 植田 睦之: 日本の森の鳥の変化: ホトトギス, *バードリサーチニュース*, (-): -(2023): 芦生研究林
- 植田 睦之: 日本の森の鳥の変化: ヒガラ, *バードリサーチニュース*, (-): -(2023): 芦生研究林

- 植田 睦之: 日本の森の鳥の変化: コルリ, バードリサーチニュース, (-): -(2023): 芦生研究林
- 植田 睦之: 日本の森の鳥の変化: アオジ, バードリサーチニュース, (-): -(2023): 芦生研究林
- 環境省自然環境局生物多様性センター, モニタリングサイト 1000 森林・草原調査 2004-2022 年度とりまとめ報告書(速報版), -, (-): -(2024): 芦生研究林
- 環境省自然環境局生物多様性センター, モニタリングサイト 1000 森林・草原調査 コア・準コアサイト 調査速報 No.16 2023 年度, -, (-): -(2024): 芦生研究林
- 阪口 翔太: 気になるあの植物 16 ウスギゼンテイカ, 趣味の山野草, 44(513): 24-25(2023): 芦生研究林
- KBS 京都テレビ: 南丹市 森の巨木を描く, -, (-): -(2023): 芦生研究林
- 日下部 玄: Distribution patterns of lianas with different climbing types from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the underlying mechanisms, 東京大学農学生命科学研究科博士論文, (-): -(2024): 芦生研究林
- 杉本 廉: 森林内における樹幹着生性地衣類のリターフォールとリター分解特性の調査, 神戸大学農学研究科修士論文, (-): -(2024): 芦生研究林
- 持留 匠: Processes behind intra-individual spatial variability of CH₄ emission from tree trunk, 京都大学農学研究科修士論文, (-): -(2024): 芦生研究林
- 長沢 誠: Radial Differences in CH₄ Emissions from Tree Trunks in an Upland Forest, 京都大学農学部卒業論文, (-): -(2024): 芦生研究林
- 中濱 彰久: エコツアー対象地域での保全、維持管理活動に関する現状と課題～芦生研究林を事例に～, 和歌山大学令和 5 年度卒業論文, (-): -(2024): 芦生研究林
- 高原 昌平: 芦生研究林におけるエコツアーリズムの現状と課題 —芦生研究林と芦生もりびと協会の関係性に着目して—, 和歌山大学令和 5 年度卒業論文, (-): -(2024): 芦生研究林
- Kenta Iwasaki, Keitaro Fukushima, Yu Nagasaka, Nobuo Ishiyama, Masaru Sakai, Akiko Nagasaka: Real-Time Monitoring and Postprocessing of Thermal Infrared Video Images for Sampling and Mapping Groundwater Discharge, *Water Resources Research*, 59(4): —(2023): 北海道研究林
- 名嘉真 咲菜: 北海道標茶町における白色のハシボソガラスの観察事例, *ANIMATE*, 18(-): 31-32(2024): 北海道研究林
- Yuki Nomura, Tomonari Matsuo, Tomoaki Ichie, Kanehiro Kitayama, Yusuke Onoda: Quantifying functional trait assembly along a temperate successional gradient with consideration of intraspecific variations and functional groups, *Plant Ecology*, 224(7): 669-682(2023): 和歌山研究林
- Gen Kusakabe, Hideki Mori, Tsutomu Hiura: Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types, *Basic and Applied Ecology*, 72(-): 1-9(2023): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- HTOO Kyaw Kyaw, TAKESHIGE Ryuichi, ONISHI Masanori, RAHMAN MD Farhadur, ONODA Yusuke: Application of UAV-LiDAR data in analyzing the allometric relationships of over a hundred tree species across Japan, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 和歌山研究林・芦生研究林
- 小野田 雄介, Htoo Kyaw Kyaw, 竹重 龍一, Rahman MD Farhadur, 大西 信徳: UAV-LiDAR を使った全国各地の長期観察林の樹冠調査, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 和歌山研究林・芦生研究林
- 小野田 雄介, HTOO Kyaw Kyaw, 竹重 龍一, RAHMAN MD Farhadur, 大西 信徳: LiDAR ドローンを用いた樹冠計測によって広がる森林生態学, 日本生態学会・第 71 回全国大会, (-): -(2024): 和歌山研究林・芦生研究林
- 竹重 龍一, Kyaw Kyaw HTOO, 大西 信徳, Farhadur RAHMAN, 小野田 雄介: 長期観測データと LiDAR 観測を組み合わせると何が出来るか?, 日本生態学会・第 71 回全国大会, (-): -(2024): 和歌山研究林・芦生研究林
- 上田 るい, 金岩 稔, 照井 慧, 瀧本 岳, 佐藤 拓哉: 生態系のつながりが創出・維持するサケ科魚類の生活史多様性, 日本生態学会・第 71 回全国大会, (-): -(2024): 和歌山研究林
- 野田 祥平, 武島 弘彦, 上田 るい, 佐藤 拓哉: 野生アマゴ個体群における成熟開始年齢の遺伝基盤の探索, 日本生態学会・第 71 回全国大会, (-): -(2024): 和歌山研究林
- 日下部 玄, 半 智史, 船田 良, 日浦 勉: 温帯性つる植物種の木部道管形質の地理変異は凍結対処戦略によって異なるか, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林・和歌山研究林・

- 上賀茂試験地
- 日下部 玄, 半 智史, 船田 良, 日浦 勉: 温帯の木本性つる植物における木部道管形質とその地理変異の登攀様式間差, 日本生態学会・第 71 回全国大会, (-): -(2024): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- 日下部 玄: Distribution patterns of lianas with different climbing types from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the underlying mechanisms, 東京大学農学生命科学研究科博士論文, (-): -(2024): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- Gen kusakabe, Hideki Mori, Tsutom Hiura: Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types, Basic and Applied Ecology, 72(-): 1-9(2023): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- 日下部 玄, 半 智史, 船田 良, 日浦 勉: 温帯性つる植物種の木部道管形質の地理変異は凍結対処戦略によって異なるか, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- 日下部 玄, 半 智史, 船田 良, 日浦 勉: 温帯の木本性つる植物における木部道管形質とその地理変異の登攀様式間差, 日本生態学会第 7 1 回大会, (-): -(2024): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- Dingkang Xu, Naoya Masaoka, Ken'ichiro Kosugi, Yoshiko Kosugi: Hydraulic properties distribution of forest soil considering structural developmen, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, (-): -(2023): 上賀茂試験地
- Zixiao Wang, Makoto Shibata, Jinsen Zheng, Keitaro Fukushima, Jiajie Du, Shinya Funakawa: Effects of spatial variations on soil nitrogen transformations in *Chamaecyparis obtusa* forest through in situ 15N tracing method, EGU General Assembly 2023, (-): -(2023): 上賀茂試験地
- 近藤 陽香, 小野 肇, 大島 一正: 潜葉性昆虫クルミホソガの卵の背腹軸の重要性, 日本昆虫学会第 84 回大会・第 68 回日本応用動物昆虫学会大会 合同大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- 小林 慧人, 小笠 真由美, 山下 直子: 実生由来のモウソウチクにおける一斉開花後衰退過程, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- 小林 慧人, 小笠 真由美, 山下 直子: 異なる光条件下におけるモウソウチク実生の成長と光合成特性, 竹林景観ネットワーク第 32 回研究集会, (-): -(2023): 上賀茂試験地
- 兵藤 不二夫, 織田 峻綺, 菱 拓雄, 岸本 圭子, 黒川 紘子: 日本列島の森林の土壤微生物群集を規定する非生物的・生物的要因, 日本生態学会第 7 1 回大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- 澤田 大和, 檀浦 正子, Shitephen WANG: シダ植物の生活型によるバイオマス分配と NSC 濃度の違い, 日本生態学会第 7 1 回大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- 平山 貴美子, 大島 一正: 開花・結実年に年変動があるカナメモチとスペシャリスト昆虫の関係から見てくるもの, 日本生態学会第 7 1 回大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- 山本 紘輝: 哺乳類による都市緑地と近郊林の利用に関する研究, 日本生態学会第 7 1 回大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- 高屋 浩介, 伊勢 武史, "情報科学と生態学の融合: A I とドローンを用いたデータ収集とその活用方法, デジタルバイオスフェア:地球環境を守るための統合生物圏科学 2023 年度全体会合(第 2 回), (-): -(2023): 上賀茂試験地
- 日下部 玄: Distribution patterns of lianas with different climbing types from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the underlying mechanisms, 東京大学農学生命科学研究科博士論文, (-): -(2024): 芦生研究林・和歌山研究林・上賀茂試験地
- 浜中 啓樹: 小林式誘引捕獲法を用いたくくり罠 誘引捕獲地点における ニホンジカ(*Cervus nippon*)の利用頻度を決定する要因の推測, 京都大学農学研究科修士論文, (-): -(2024): 上賀茂試験地など
- 山本 紘輝: 京都市における都市緑地と近郊林の哺乳類による利用の比較, 京都大学農学研究科卒業論文, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- Toshiyuki Fukui, Yoshiyuki Yanase, Yoshihisa Fujii: Evaluation of increase in loss tangent from longitudinal vibration of wood log by considering apparent density difference between sapwood and heartwood caused by moisture content, Journal of Wood Science, 69(-): 38-49(2023): 北白川試験地
- 佐藤 亮太, 坂部 綾香, 小杉 緑子: 京都市市街地における CO2 フラックスの通年変化, 日本農業気象学会, (-): -(2024): 北白川試験地

- 萩原 幹花, 塩尻 かおり, 鹿島 誠, 竹林 裕美子, 小嶋 美紀子, 榊原 均, 石原 正恵: 乾燥ストレス下で VOCs を介した植物間コミュニケーションは駆動するのか?, 日本生態学会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 萩原 幹花, 石原 正恵: 樹木における匂い受容を介した環境ストレスと病虫害への応答トリプルトークの解明, "学術変革 A「デジタルバイオスフィア」公募研究 成果報告会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 中川 拓海, 吉永 新, 杉山 淳司: モノクローナル抗体を用いた木化にともなうリグニン化学構造変化の解析, 第 74 回日本木材学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 平松 宏基, 吉永新, 栗野 達也, 杉山 淳司: スギ傾斜幹におけるオポジット材の特異な細胞壁成分分布, 第 74 回日本木材学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 上原 遼翼, 中川 拓海, 吉永 新, 山口 愛由, 岸本 崇生, 阿二 凜太郎, 重富 顕吾, 杉山 淳司: リグニンの H 核からなる 5-5'型構造に対するモノクローナル抗体の作製と特異性の検討, 第 74 回日本木材学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 紺頼 楓, 小野田 雄介: 4 樹種における葉の厚さと膨圧の日内変化と経日変化 Diurnal and daily changes in leaf thickness and turgor pressure in four tree species, 日本生態学会第 71 回全国大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 砂山 星也, 北島 薫: 土壌水分制御下の鉢植え稚樹を用いた気孔コンダクタンスの日変化, 第 71 回日本生態学会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 田邊 智子, 高橋 けんし: 炭素安定同位体を用いた樹木炭素蓄積量に影響する要因の解明, 第 515 回生存圏ミッションシンポジウム, (-): -(2024): 北白川試験地
- 神代 花穂: モミ (*Abies firma*) 苗木における幹枝の形態とフェノロジー, 日本森林学会・第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 山本 紘輝: 哺乳類による都市緑地と近郊林の利用に関する研究, 第 71 回日本生態学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 島田 正理, 小椋 大輔, 藤井 義久, 北原 博幸, 近藤 修平: 伝統木造建築の殺虫を目的とした湿度制御温風処理における温湿度制御条件に関する研究, 2023 年度日本建築学会大会, (-): -(2023): 北白川試験地
- 栗野 達也, 西田 典由, 細川 宗孝, 錦織 正智, 鈴木 三男, 早川 典子, 吉永 新, 杉山 淳司: 北海道産ノリウツギの内樹皮およびネリの特徴, 第 74 回日本木材学会大会: (-): -(2024): 北白川試験地
- Mahiro Tsuchimoto, Tatsuya Awano, Arata Yoshinaga, Junji Sugiyama: Immunohistochemical profiling of poplar wood fiber using monoclonal antibodies directed to non-cellulosic polysaccharides, The 5th International Cellulose Conference, (-): -(2023): 北白川試験地
- 土本 茉央, 栗野 達也, 吉永 新, 杉山 淳司: ポプラ分化中木部繊維に堆積するキシランの分子構造の多様性とその空間分布, 第 74 回日本木材学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 大村 麗奈, 栗野 達也, 吉永 新, 杉山 淳司: 免疫標識を用いたスギ仮道管におけるキシランの構造と配向, 第 74 回日本木材学会大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 山本 紘輝: 京都市における都市緑地と近郊林の哺乳類の利用の比較, 令和 5 年度京都大学農学部森林科学科課題研究論文発表会, (-): -(2024): 北白川試験地
- Toshiyuki Fukui: Development of a method for estimating moisture content in green wood using vibrational properties, 京都大学学位論文: (-): 1-104(2024): 北白川試験地・上賀茂試験地
- 佐々木 慶吾: 京都市の市街地における顕熱・潜熱フラックスの測定, 令和 5 年度京都大学農学部森林科学科課題研究論文発表会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 中川 拓海: モノクローナル抗体を用いた木化にともなうリグニン化学構造変化の解析, 令和 5 年度京都大学大学院農学研究科森林科学専攻修士論文発表会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 上原 遼翼: リグニンの H 核からなる 5-5'型構造に対するモノクローナル抗体の特異性の検討, 令和 5 年度京都大学農学部森林科学科課題研究論文発表会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 大村 麗奈: 免疫標識を用いたスギ仮道管におけるキシランの構造と配向, 令和 5 年度京都大学農学部森林科学科課題研究論文発表会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 土本 茉央: ポプラ分化中木部におけるキシランの構造の多様性とその空間分布, 令和 5 年度京都大学大学院農学研究科森林科学専攻修士論文発表会, (-): -(2024): 北白川試験地

- Kadowaki Kohmei, Honjo Mie N., Nakamura Naoto, Kitagawa Yoichiro, Ishihara Masae I., Matsuoka Shunsuke, Tachiki Yuuya, Fukushima Keitaro, Sakaguchi Shota, Mizuki Inoue, Fujiki Daisuke, Sakai Masaru, Takayanagi Atsushi, Yamasaki Michimasa, Tokuchi Naoko, Takahashi Daiki, Nagasawa Koki, Masuda Kazutoshi: eDNA metabarcoding analysis reveals the consequence of creating ecosystem-scale refugia from deer grazing for the soil microbial communities, *Environmental DNA*, 5(6): 1732-1742(2023): 芦生研究林
- Makino Soyoka, Tokuchi Naoko, Komai Yukio: Causal Relationships between Stream NO₃-Concentrations at Baseflow Conditions and Key Regulating Factors in the Kinki Region of Japan, Including the Japan-sea Side Area and Encompassing a Climatic Gradient, *Journal of Water and Environment Technology*, 21(3): 151-165(2023):
- 徳地 直子, 岩崎 綾, 山口 高志, 久恒 邦裕, 中川 光, 家合 浩明, 牧野 奏佳香, 村野 健太郎: 日本の窒素沈着量の長期変動 (1977~2018年), *日本森林学会誌*, 105(6): 199-208(2023):
- 赤石 大輔, 時任 美乃理, 法理 樹里, 徳地 直子: 生態系と人間のつながりを探る高大連携ワークショップの紹介, *環境技術*, 52(5): 265-270(2023):
- 牧野 奏佳香, 赤石 大輔, 徳地 直子: シチズンサイエンスの勧め, *水環境学会誌*, 46(9): 308-312(2023):
- 徳地 直子: 森林の成立に伴う物質循環機構の変化, 第135回日本森林学会大会, (-): -(2024):
- Katata Genki, Yamaguchi Takashi, Watanabe Makoto, Fukushima Keitaro, Nakayama Masataka, Nagano Hirohiko, Koarashi Jun, Tateno Ryunosuke, Kubota Tomohiro: Atmospheric ammonia deposition and its role in a cool-temperate fragmented deciduous broad-leaved forest, *Atmospheric Environment*, 298(-): 119640(2023):
- Nakayama Masataka, Tateno Ryunosuke: Shift in the rhizosphere microbial communities between growing- and low-temperature dormant seasons in a northern hardwood forest, *Plant and Soil*, (-): -(2023):
- Tatsumi Chikae, Taniguchi Takeshi, Hyodo Fujio, Du Sheng, Yamanaka Norikazu, Tateno Ryunosuke: Mycorrhizal type affects forest nitrogen availability, independent of organic matter quality, *Biogeochemistry*, 165(-): 327-340(2023):
- Wang Haocai, He Xinhua, Zhang Yuejin, Xiao Junlan, Wang Hang, Ma Mingguo, Tateno Ryunosuke, Shi Weiyu: Variations in litter-soil properties between planted and naturally restored forests drive microbial community structure and function, *Applied Soil Ecology*, 189(-): -(2023):
- Yang Ru, Fukuzawa Karibu, Nakayama Masataka, Tateno Ryunosuke, Hishi Takuo, Shibata Hideaki, Chiwa Masaaki: Nitrate leaching and its susceptibility in response to elevated nitrogen deposition in Japanese forests, *Journal of Forest Research*, (-): -(2023):
- Hatano Yuki, Matsuoka Shunsuke, Doi Hideyuki, Tateno Ryunosuke, Hasegawa Motohiro, Osono Takashi: Evaluation of the persistence of *Epichloë* endophyte and its possible effect on fungal assemblages in dead leaf sheaths, 71st Annual Meeting of Ecological Society of Japan, (-): -(2024):
- 大上 迪士, 松岡 俊将, 館野 隆之輔: 北海道東部の河川における土地利用の違いが河川水中の粒子付着性微生物と浮遊性微生物群集へ与える影響について, *日本微生物生態学会第36回浜松大会*, (-): -(2023): 北海道研究林他
- 大上 迪士, 横部 智浩, 松岡 俊将, 館野 隆之輔: 冷温帯の河川源流域における河川水中の粒子付着性微生物と浮遊性微生物の多様性, *日本生態学会第71回全国大会*, (-): -(2024): 芦生研究林
- 堅田 元喜, 山口 高志, 渡辺 誠, 福島 慶太郎, 中山 理智, 永野 博彦, 小嵐 淳, 館野 隆之輔, 久保田 智大: 北海道の分断化した落葉広葉樹林における大気アンモニアの樹冠吸収の重要性, *大気環境学会年会*, (-): -(2023):
- 福澤 加里部, 智和 正明, 館野 隆之輔, 松山 周平, 菱 拓雄, 杉山 賢子, 谷口 武士, 野村 睦: ササ除去が森林土壌の窒素動態に及ぼす影響: 複数サイトにおける観測から, 第135回日本森林学会大会, (-): -(2024): 北海道研究林
- 鈴木 保志, 吉村 哲彦, 長谷川 尚史, 有賀 一広, 斎藤 仁志, 守口 海, 白澤 紘明: 山岳地域の公道を中心とする道路網における大型車両の通行性 (速報), *森林利用学会誌*, 38(2): 115-122(2023):
- 長谷川 尚史: 森林資源を持続的に利用できる社会へ: 精密森林情報の収集と活用, *環境技術*, 52(3): 51-55(2023):
- 兼元 大誠, 長谷川 尚史, 西川 祐矢, 土井 康裕: 森林でのGNSS利用におけるマルチパス発生状況と衛星フィルタリングの試み, *森林利用学会学術研究発表会*, (-): -(2023):

- 坪田 和也, 長谷川 尚史: 広葉樹資源管理及び施業のための3次元点群データを利用した広葉樹形状計測手法に関する考察, 森林利用学会学術研究発表会, (-): -(2023):
- 峰尾 恵人, 長谷川 尚史, 徳地 直子, 中村 正治: ゼロカーボン林産業の指針としての森林の炭素固定量の将来推計, ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点 令和5年度シンポジウム, (-): -(2023):
- 渡部 俊太郎, 大西 信徳, 伊勢 武史: 画像情報に基づく植物・植生の判別とその発展, 植物の超階層生物学: ゲノミクス×フェノミクス×生態学でひもとく多様性, (-): 309-318(2023):
- Takaya Kosuke, Ise Takeshi, Taguchi Yuki: Identification of hybrids between the Japanese giant salamander (*Andrias japonicus*) and Chinese giant salamander (*Andrias davidianus*) using deep learning and smartphone images, Ecology and Evolution, (-): -(2023):
- Takaya Kosuke, Taguchi Yuki, Ise Takeshi: Individual identification of endangered amphibians using deep learning and smartphone images: case study of the Japanese giant salamander (*Andrias japonicus*), Scientific Reports, 13(-): Article number: 16212: (2023):
- Takaya, Kosuke, Ise, Takeshi, Taguchi, Yuki: Identification of hybrids between the Japanese giant salamander (*Andrias japonicus*) and Chinese giant salamander (*Andrias davidianus*) using deep learning and smartphone images, Authorea, (-): -(2023):
- Uchida Atsuhiko, Kameoka Taishin, Ise Takeshi, Matsui Hidetoshi, Uchida Yukiko: Social Factors of Urban Greening: Demographics, Zoning, and Social Capital, SSRN, (-): -(2024):
- 伊勢 武史, 高屋 浩介: 人工知能による植生分類: 既存データの活用が拡張する生態系観測, 日本生態学会第71回全国大会, (-): -(2024):
- 阿部 隆博, 高屋 浩介, 蔵田 典子, 伊勢 武史, 飯島 慈裕: 永久凍土の荒廃を人工衛星データ解析と深層学習から見る, 超異分野学会大阪大会 2023, (-): -(2023):
- 蔵田 典子, 高屋 浩介, 伊勢 武史, 飯島 滋裕: 東シベリアにおけるサーモカルストによる沈降地形出現に影響を与える環境要因, 日本地球惑星科学連合大会 2023, (-): -(2023):
- 高屋 浩介, 蔵田 典子, 伊勢 武史, 飯島 滋裕: 深層学習を用いた東シベリアにおけるサーモカルストによる沈降地形の自動検出, 日本地球惑星科学連合大会 2023, (-): -(2023):
- 石原 正恵, 赤石 大輔, 徳地 直子: 「大学の森」が見た森と里の再生学: 京都芦生・美山での挑戦, (-): 420(2024): 芦生研究林
- Kadowaki Kohmei, Honjo Mie N., Nakamura Naoto, Kitagawa Yoichiro, Ishihara Masae I., Matsuoka Shunsuke, Tachiki Yuuya, Fukushima Keitaro, Sakaguchi Shota, Mizuki Inoue, Fujiki Daisuke, Sakai Masaru, Takayanagi Atsushi, Yamasaki Michimasa, Tokuchi Naoko, Takahashi Daiki, Nagasawa Koki, Masuda Kazutoshi: eDNA metabarcoding analysis reveals the consequence of creating ecosystem-scale refugia from deer grazing for the soil microbial communities, Environmental DNA, 5(6): 1732-1742(2023): 芦生研究林
- Kazutoshi Masuda Hiroaki Setoguchi Koki Nagasawa Shun K. Hirota Yoshihisa Suyama Kazuhiro Sawa Shigeru Fukumoto Masae I. Ishihara Harue Abe Hayato Tsuboi Tsuguoki Tango Sayoko Mori Shota Sakaguchi: Genetic consequences of Last Glacial–Holocene changes in snowfall regime in *Arnica mallotopus* populations: A plant confined to heavy-snow areas of Japan, American Journal of Botany, 111: e16275(2024): 芦生研究林
- Yoshikawa Tetsuro, Kumiko Totsu, Yayoi Takeuchi, Taku Kadoya, Tsutomu Enoki, Sakae Fujii, Atsuko S. Fukamachi, Mitsuru Hirota, Kazuhiko Hoshizaki, Naoki Iiyama, Yukio Ishikawa, Hiroki Itô, Hajime Kobayashi, Takashi S. Kohyama, Yasuo Konno, Akifumi Makita, Akira S. Mori, Dai Nagamatsu, Tohru Nakashizuka, Kanji Namikawa, Mahoko Noguchi, Michinori Sakimoto, Yoshinobu Ozaki, Tatsuyuki Seino, Hisashi Sugita, Jun-Ichirou Suzuki, Ryo O. Suzuki, Satoshi N. Suzuki, Koichi Takahashi, Ryunosuke Tateno, Ryuichi Watanabe, Tamon Yamashita, Tomohiro Yoshida, Masae I. Ishihara, Tanaka Kenta, Masahiro Nakamura, Tsutomu Hiura: Forest monitoring data of 45 plots across the Japanese archipelago during 1980–2021, Ecological Research, (-): -(2024): 北海道研究林・徳山試験地
- 石原 正恵: 芦生研究林長の美山日記: 外と内の視点から, 北桑時報, -(292): 30-37(2024): 芦生研究林
- Izumi Shota, Shiojiri Kaori, Matsuoka Shunsuke, Ishihara Masae I., Inoue Mizuki, Sakaguchi Shota, Sakai Masaru, Takahashi Daiki, Takayanagi Atsushi, Nagasawa Koki, Fukushima Keitaro, Fujiki Daisuke, Masuda Kazutoshi, Yamasaki Michimasa: Comparison of seasonal variation and species of butterflies and dragonflies inside and outside deer fences, BITEX to CITEX: What we have learned and what we

- can transfer?, (-): -(2023): 芦生研究林
- 石原 正恵, 赤石 大輔, 徳地 直子: 「大学の森」が見た森と里の再生学: 京都芦生・美山での挑戦, 京都大学学術出版会, (-): 420(2024): 芦生研究林
- 杉本 廉, 石原 正恵, 東 若菜: 森林生態系内において樹幹着生性地衣類のリター量に影響を与える要因, 日本生態学会第 71 回全国大会, (-): -(2024): 芦生研究林
- 萩原 幹花, 塩尻 かおり, 鹿島 誠, 石原 正恵: 乾燥ストレス下で VOCs を介した植物間コミュニケーションは駆動するのか?, 日本生態学会第 71 回全国大会, (-): -(2024): 北白川試験地
- 小林 和也: 宇宙空間に生態系を創造する, 有人宇宙学: 宇宙移住のための 3 つのコアコンセプト, (-): 148-168(2023):
- Murakami, Takahiro, Miyaguni, Yasushi, Agarie, Ayaka, Kobayashi, Kazuya: Exploration of sex chromosome, and karyotype analysis in the Japanese dry-wood termite, *Neotermes sugioi*, 日本生態学会第 71 回全国大会: (-): -(2024):
- 小林 和也, 内藤 アンネグレート素, 貞國 利夫, 森井 悠太: 環境省データの活用で明らかにする絶滅危惧鳥類の交通事故件数の増加パターン, 第 39 回個体群生態学会大会: (-): -(2023):
- 小林 和也: ニホンジカのモニタリング最前線, 第 39 回個体群生態学会大会, (-): -(2023):
- 小林 和也, 森井 悠太: 埋もれゆくデータの利活用, 日本生態学会第 71 回全国大会, (-): -(2024):
- 浜中 啓樹, 小林 和也: 誘引捕獲地点におけるニホンジカ出現頭数を決定する要因の推測, 第 39 回個体群生態学会大会, (-): -(2023):
- 赤石 大輔: 芦生研究林のきのこ相: 過去の文献調査と 2019-2021 の現地調査から, 森林研究, 82(-): 1-15(2023):
- 坂野上 なお, 石原 正恵: トチノキの利用と保全の両立を目指して (第 3 章), 「大学の森」が見た森と里の再生学: 京都芦生・美山での挑戦, (-): 135-195(2024): 芦生研究林
- 坂野上 なお: 連合占領下の京都市におけるゴルフ場建設と京都大学上賀茂試験地の移転, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 上賀茂試験地
- Masumoto Shota, Mori Akira S, Nishizawa Keita, Naka Minagi, Matsuoka Shunsuke, Wong Shu-Kuan, Uchida Masaki: Synergistic effects of succession and microtopography of moraine on the fungal spatial diversity in a glacier forefield FEMS, Microbiology Ecology, 99(-): fiad090(2023):
- Doi Hideyuki, Matsuoka Shunsuke, Matsuzaki Shin-ichiro S., Nagano Mariko, Sato Hiroto, Yamanaka Hiroki, Matsushita Saeko, Yamamoto Satoshi, Minamoto Toshifumi, Araki Hitoshi, Ikeda Kousuke, Kato Atsuko, Kumei Kouichi, Maki Nobutaka, Mitsuzuka Takashi, Takahara Teruhiko, Toki Kimihito, Ueda Natsuki, Watanabe Takeshi, Yamazoe Kanji, Miya Masaki: Species traits and ecosystem characteristics affect species detection by eDNA metabarcoding in lake fish communities, Freshwater Biology, (-): -(2023):
- Kadowaki Kohmei, Honjo Mie N., Nakamura Naoto, Kitagawa Yoichiro, Ishihara Masae I., Matsuoka Shunsuke, Tachiki Yuuya, Fukushima Keitaro, Sakaguchi Shota, Mizuki Inoue, Fujiki Daisuke, Sakai Masaru, Takayanagi Atsushi, Yamasaki Michimasa, Tokuchi Naoko, Takahashi Daiki, Nagasawa Koki, Masuda Kazutoshi: eDNA metabarcoding analysis reveals the consequence of creating ecosystem-scale refugia from deer grazing for the soil microbial communities, Environmental DNA, 5(6): 1732-1742(2023): 芦生研究林
- Sugiyama Yoriko, Matsuoka Shunsuke, Shimono Yoshino, Ushio Masayuki, Doi Hideyuki: Do aquatic fungal environmental DNA assemblages reflect the surrounding terrestrial sporocarp communities?, Fungal Ecology, 67(-): 101311(2024):
- Osono Takashi, Ito Koichi, Matsuoka Shunsuke: Geographic distribution of needle litter microfungi in British Columbia, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024):
- 大園 享司, 松岡 俊将, 広瀬 大: シイ落葉のリグニン分解に関わる菌類の本邦における多様性と地理的分布, 日本生態学会第 71 回大会, (-): -(2024):
- 竹内 理絵, 西澤 啓太, 小林 勇太, 増本 翔太, 鈴木 紅葉, 河上 智也, 小林 真, 片山 昇, 岡田 慶一, 辰巳 晋一, 松岡 俊将, 内田 雅己, 高木 健太郎, 森 章: ササ掻き起こし施業による有機物分解特性の 50 年間の変化: 天然更新と単一種植栽の比較, 日本生態学会第 71 回大会, (-): -(2024):
- 白水 貴, 鈴木 誉保, 松岡 俊将, 高松 進: 植物絶対寄生菌ウドンコカビにおける宿主タイプと裂子嚢殻付属糸形態の進化的依存関係, 日本生態学会第 71 回大会: (-): -(2024):
- 本藤 聡仁, 鈴木 啓太, 中西 麻美, 山下 洋: 2006-2021 年夏季の京都府舞鶴湾・丹後海の底生動

- 物群集と流入河川の水質, 野生生物と社会, (-): 31-42(2023):
- 中西 麻美, 小宅 由似, 大澤 直哉, 柴田 昌三: 京都市北郊のヒノキが優占する二次林における群状間伐後の植生, 第 74 回応用森林学会大会, (-): -(2023): 上賀茂試験地
- 稲垣 善之, 倉本 恵生, 中西 麻美, 深田 英久, 渡辺 直史: 標高の異なるヒノキ人工林における間伐が雄花および球果生産量に及ぼす影響, 第 71 回日本生態学会, (-): -(2024):
- Sugiyama Yoriko, Matsuoka Shunsuke, Shimono Yoshino, Ushio Masayuki, Doi Hideyuki: Do aquatic fungal environmental DNA assemblages reflect the surrounding terrestrial sporocarp communities?, *Fungal Ecology*, 67(-): 101311(2024):
- 杉山 賢子, 松岡 俊将: 北海道東部カラマツ人工林における外生菌根菌群集の時空間動態, 第 71 回日本生態学会, (-): -(2024): 北海道研究林
- 福澤 加里部, 智和 正明, 館野 隆之輔, 松山 周平, 菱 拓雄, 杉山 賢子, 谷口 武士, 野村 睦: ササ除去が森林土壌の窒素動態に及ぼす影響: 複数サイトにおける観測から, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024): 北海道研究林
- 張 曼青, 三好 恵真子: 社会転換の荒波を生きる中国農民の「農」をめぐる葛藤と主体的な選択: 施肥に関するライフストーリーから読み解くもう一つの農民像, *生活学論叢*, 42(-): 15-28(2023):
- 張 曼青, 胡 毓瑜, 三好 恵真子: 中国農民の施肥行為における主体性からの再考: 新中国建国後の肥料農法の転換過程及び「土化肥」の使用を基軸に, *村落社会研究ジャーナル*, 29(2): 13-24(2023):
- 張 曼青: 日本における里山研究のレビュー—2012年以降の論文を中心に, 龍谷大学東アジア環境研究会第 19 回, (-): -(2023):
- 張 曼青, 周 玉琴: 南アルプス農山村地域の生業変容を生きる人々の生活史, 2023 年度日本農村生活学会大会, (-): -(2023):
- 張 曼青, 法理 樹里, 井上 彩, 中田 公明, 和田 享, 徳地 直子: 参加型地域体験後における地域外大学生のイメージ形成についての探索的検討—岐阜県飛騨市古川町を事例として, 日本村落研究学会 第 71 回大会, (-): -(2023):
- Kajino Hirofumi, Fukui Misaki, Fujimoto Yutaro, Fujii Rei, Yokobe Tomohiro, Tatsumi Chikae, Sugai Tetsuto, Okada Naoki, Nakamura Ryosuke: Variations in soil nutrient availabilities and foliar nutrient concentrations of trees between temperate monsoon karst and non-karst forest ecosystems on Mount Ibuki in Japan, *Ecological Research*, 38(6): 842-851(2023): 芦生研究林
- 田中 拓弥, 横部 智浩, 張 曼青, Bao Sarina, 伊藤 岳, 徳地 直子, 館野 隆之輔: 上賀茂試験地における「里山おーぷんらぼ」の取組, 京都大学フィールド科学教育研究センター創設 20 周年記念ポスターセッション, (-): -(2023):
- 三宅 志穂, 前田 菜穂, 坪谷 理紗, 中城 満, 田中 拓弥: 生物多様性保全教育のための動画教材制作: 視聴コメントによる教育効果の探究, 日本科学教育学会第 47 回年会, (-): -(2023):
- 張 曼青, Bao Sarina, 伊藤 岳, 田中 拓弥, 横部 智浩: 人々の里海認識と里海経験の構造化に関する学際的研究の試み: 京都府舞鶴市における調査を中心に—, 京都大学 人と社会の未来研究院 令和 5 年度連携研究プロジェクト成果報告会「人文社会科学から新たな総合知の創生に向けて」, (-): -(2024):
- Makino Soyoka, Tokuchi Naoko, Komai Yukio: Causal Relationships between Stream NO₃-Concentrations at Baseflow Conditions and Key Regulating Factors in the Kinki Region of Japan, Including the Japan-sea Side Area and Encompassing a Climatic Gradient, *Journal of Water and Environment Technology*, 21(3): 151-165(2023):
- 徳地 直子, 岩崎 綾, 山口 高志, 久恒 邦裕, 中川 光, 家合 浩明, 牧野 奏佳香, 村野 健太郎: 日本の窒素沈着量の長期変動 (1977~2018 年), *日本森林学会誌*, 105(6): 199-208(2023):
- 牧野 奏佳香, 赤石 大輔, 徳地 直子: シチズンサイエンスの勧め, *水環境学会誌*, 46(9): 308-312(2023):
- 牧野 奏佳香, 徳地 直子, 赤石 大輔, 小山里奈, 駒井 幸雄, 板谷 佳美, Nay Lin Maung: 日本全国における森林渓流水水質の空間分布, 第 135 回日本森林学会大会, (-): -(2024):
- Kadowaki Kohmei, Honjo Mie N., Nakamura Naoto, Kitagawa Yoichiro, Ishihara Masae I., Matsuoka Shunsuke, Tachiki Yuuya, Fukushima Keitaro, Sakaguchi Shota, Mizuki Inoue, Fujiki Daisuke, Sakai Masaru, Takayanagi Atsushi, Yamasaki Michimasa, Tokuchi Naoko, Takahashi Daiki, Nagasawa Koki, Masuda Kazutoshi: eDNA metabarcoding analysis reveals the consequence of creating

- ecosystem-scale refugia from deer grazing for the soil microbial communities, *Environmental DNA*, 5(6): 1732-1742(2023): 芦生研究林
- 柴田 泰征: VR 動画等オンライン教材制作に関する技術検討会, 研究林・試験地情報, 2022 年度(-): 25-26(2024): 芦生研究林
- 永井 貴大: VR 同時視聴システムを用いた広報・社会教育, 研究林・試験地情報, 2022 年度(-): 27-29(2024): 芦生研究林

京都府立大学

環境科学部附属演習林

- 糟谷 信彦, 宮藤 久士, 村田 功二, 山田 範彦: 植栽された有用広葉樹の初期成長 ~センダンとの比較~, 第 74 回日本木材学会大会研究発表要旨集, Q14-P-05(2024): 大野演習林, 大枝演習林, 鷹峯演習林, 梅ヶ畑演習林, 演習林苗畑
- 上岡 洸太, 長島 啓子: 立地環境に基づく地位指数推定手法の比較検証, 第 135 回日本森林学会大会, PD-9 (2024): 大野演習林
- 上岡洸太: 樹高成長と立地環境の関係および最適メッシュサイズの検討, 森林施業研究会宮崎飴肥現地討論会(2023): 大野演習林
- 北野 陽大・中田 康隆・長島 啓子: 航空レーザ測量データによる森林構造指標を考慮した林相分類手法の検討, 森林 GIS フォーラム 学生コンテスト 2024. 卒業論文部門(2024): 大野演習林
- 北野 陽大・中田 康隆・長島 啓子: 航空レーザ測量データによる森林構造指標を考慮した林相分類手法の検討, 第 135 回日本森林学会大会. PD-28 (2024): 大野演習林
- 北野 陽大: 航空レーザ測量データによる森林構造指標を考慮した林相分類手法の検討. 2023 年度卒業論文: 大野演習林
- Hiroaki Horiyama, Keisuke Kojiro, Yuzo Furuta: Transition in viscoelastic properties within successive annual rings of radiata pine (*Pinus radiata*), *Journal of Wood Science*, 69(37):(2023):大野演習林
- Hiroaki Horiyama, Yuka Miyoshi, Keisuke Kojiro, Yuzo Furuta: Thermal softening properties of various wood species within an annual ring, *Journal of Wood Science*, 69(1):(2023):大野演習林
- Hiroaki Horiyama, Waka Fujimoto, Keisuke Kojiro, Takafumi Itoh, Hiromu Kajita, Yuzo Furuta : Proposal for a new method for sustainable and advanced utilization of oil palm trunk waste, *Bioresources and Bioprocessing*, 10(69):(2023):大野演習林
- Yuka Miyoshi, Hisashi Abe, Hiroaki Horiyama, Keisuke Kojiro, Yuzo Furuta: Influence of habitat, density, lignin structure, and extraction treatment on thermal-softening properties of water-swollen wood: a study of 87 wood specimens, *Holzforschung*, 78(2):(2024):大野演習林
- 堀山彰亮, 神代圭輔, 岡久陽子, 今井友也, 古田裕三: 放射光を用いた木材の微細構造解析~木材の物性発現機構の解明に向けて~, マテリアルライフ学会誌, 35(3): 72-76(2023): 大野演習林
- 神代圭輔: 木材・プラスチック再生複合材(WPRC)の現状と展望, ぷらすとす, 7(73): 30-34(2024): 大野演習林
- 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三, 師岡敏朗, 三好由華: 水分変化過程における木材の動的粘弾性~周波数分散に関する考察~, 第 9 回材料 WEEK 若手学生研究発表会プログラム, 1D-45(2023): 大野演習林
- 安本琴音, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三: 木材の溶媒置換過程における力学的性質の変化, 第 9 回材料 WEEK 若手学生研究発表会プログラム, 2A-54(2023):大野演習林
- 塩見綾里, 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三: 有機液体による膨潤木材の横圧縮変形, 第 9 回材料 WEEK 若手学生研究発表会プログラム, 2D-86(2023):大野演習林
- 塩見綾里, 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三: 水・エタノール混合液体により膨潤した木材の横圧縮変形, 公益社団法人日本木材加工技術協会第 41 回年次大会, P106:大野演習林
- 村山浩久, 松尾健司, 神代圭輔, 長島啓子, 古田裕三, 淵上佑樹: ICT を活用した新たな木材流通(京都モデル)の構築を目指した基礎的研究-府内木材加工実態を踏まえた流通効率化の検討-, 公益社団法人日本木材加工技術協会第 41 回年次大会, P405:大野演習林
- 上原一輝:水分変化過程における木材の動的粘弾性~不安定性の方向性に関する考察~, 第 18 回若手シンポジウム講演概要集, 2-B(2023):大野演習林
- 塩見綾里:水・エタノール混合液体によって膨潤した木材が横圧縮変形に及ぼす影響, 第 18 回若

- 手シンプोजウム講演概要集, 3-B(2023):大野演習林
- 堀山彰亮, 楠本紅音, 神代圭輔, 古田裕三, 岡久陽子, 今井友也:非平衡状態における木材の微細構造変化—小角 X 線散乱からの考察—, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, C13-04-1045(2024): 大野演習林
- 楠本紅音, 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三:木化過程にあるモウソウチク (*Phyllostachys pubescens*) の個体内における力学的性質の変化—周波数依存性からの考察—, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, C13-04-1130(2024):鷹峯演習林
- 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三, 三好由華:調湿履歴が水分変化過程における木材の動的粘弾性に及ぼす影響, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, C13-04-1315(2024): 大野演習林
- 松原斎樹, 池田維, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三, 石田正浩, 森下正修, 玉井嘉:木質内装の利用意向, 利用したい理由と属性・価値観の関係, 第 74 回日本木材学会大会研究発表要旨, G15-05-0945(2024): 大野演習林
- 池田維, 松原斎樹, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三, 森下正修, 石田正浩, 玉井嘉:消費者が木材・木製品に対してもつイメージと個人属性・価値観の関係, 第 74 回日本木材学会大会, G15-05-1000(2024): 大野演習林
- 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三, 三好由華, 山下香菜:カラマツの力学特性に及ぼすアラビノガラクトランの影響, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, B14-P-22(2024): 大野演習林
- 塩見綾里, 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三:木材の膨潤異方性が横圧縮変形に及ぼす影響, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, C14-P-12(2024): 大野演習林
- 安本琴音, 楠本紅音, 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三:溶媒置換過程における木材の膨潤率と動的粘弾性の変化, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, C14-P-13(2024): 大野演習林
- 楠本紅音, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三, 関雅子, 三木恒久, パントンパチャ, 八尾滋:未利用リサイクル原料を用いた混練型 WPRC の性能評価, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, I14-P-18(2024): 大野演習林
- 井原真夢, 塩見綾里, 堀山彰亮, 神代圭輔, 岡久陽子:イオン液体を用いた竹接着方法の検討と接着強度評価, 第 74 回日本木材学会大会研究発表要旨, I14-P-21(2024):鷹峯演習林
- 堀山彰亮, 楠本紅音, 神代圭輔, 古田裕三, 吉田元彰, 山名田敬太, 林田元宏:ウリン (*Eusideroxylon zwageri*) 心材の抽出成分が物性に及ぼす影響, 第 74 回日本木材学会大研究発表要旨, M14-P-12(2024): 大野演習林
- 村山浩久, 松尾健司, 神代圭輔, 長島啓子, 古田裕三, 瀧上佑樹:ICT を活用した新たな木材流通(京都モデル)の構築を目指した基礎的研究-府内木材加工実態を踏まえた現状分析と課題抽出-, 第 74 回日本木材学会大会研究発表要旨, Q14-P-01(2024): 大野演習林
- 楠本紅音, 上原一輝, 堀山彰亮, 神代圭輔, 古田裕三:発筈後 1 カ月のモウソウチク (*Phyllostachys pubescens*) の個体内における木化と力学的性質との関係, 第 68 回リグニン討論会講演集, P05 (2023):鷹峯演習林
- 片岡洋哉:リンゴ酸処理木材における寸法安定性および吸湿性の発現機構の解明, 2023 年度卒業論文: 大野演習林
- 安本琴音:水およびエタノールを用いた溶媒置換過程における木材の膨潤率および動的粘弾性の変化, 2023 年度卒業論文: 大野演習林
- Hiroaki Horiyama: Structure-Property Relationships at Microstructural and Mesostructural Scales in Wood, 2024 年度博士論文: 大野演習林
- Akihiro Sumida, Yoshiyuki Inagaki, Takuya Kajimoto, Masumi Katsuno Miyaura, Akira Komiyama, Nahoko Kurachi, Tomiyasu Miyaura, Shigeaki F. Hasegawa, Toshihiko Hara, Kiyomi Ono, Masahito Yamada:
- Allometry of the quasi pipe (qPipe) model for estimating tree leaf area and tree leaf mass applied to plant functional types, Scientific Reports 13:9954 (2023)
<https://doi.org/10.1038/s41598-023-37112-1>: 北海道大学雨龍研究林, 岐阜大学位山演習林, 名古屋大学稲武演習林
- 岸大地: 群落内に生育するサカキ (*Cleyera japonica*) のシュート構造に影響を及ぼす要因の解析,

2023 年度修士論文：大枝演習林

岸大地・隅田明洋：サカキのシュート構造と光環境との関係，第 135 回日本森林学会大会．PH-12 (2024)：大枝演習林

鳥取大学

農学部附属フィールドサイエンスセンター

Takaki Aihara, Kyoko Araki, Ragini Sarmah, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Haruhiko Taneda, Nobuhiro Tomaru, Kosuke Homma, Masahiro Takagi, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota & Yoshihiko Tsumura: Climate-related variation in leaf size and phenology of *Betula ermanii* in multiple common gardens, *Journal of Forest Research*, 29(1):62-71(2023):蒜山の森

Takaki Aihara, Kyoko Araki, Yunosuke Onuma, Yihan Cai, Aye Myat Myat Paing, Susumu Goto, Yoko Hisamoto, Nobuhiro Tomaru, Kosuke Homma, Masahiro Takagi, Toshiya Yoshida, Atsuhiko Iio, Dai Nagamatsu, Hajime Kobayashi, Mitsuru Hirota, Kentaro Uchiyama & Yoshihiko Tsumur: Divergent mechanisms of reduced growth performance in *Betula ermanii* saplings from high-altitude and low-latitude range edges, *Heredity*, 131:387–397(2023) :蒜山の森

久保岳大：河川生態系における陸域から供給されるアマゴ餌資源涵養機構に関する研究，鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科農学専攻修士論文：(2024)：蒜山の森

佐古 龍哉：ヒバサンショウウオ幼生の生態 一幼生期の生息場と食性の変化，鳥取大学農学部生命環境農学科卒業論文：(2024)：蒜山の森

飯塚 達也：降雨，地下水位，流量に基づく，小流域の洪水特性の解析：鳥取大学農学部生命環境農学科卒業論文：(2024)：蒜山の森

川西 夏紀：多雪地域の森林流域における年間流出土砂と積雪融雪期の影響，鳥取大学農学部生命環境農学科卒業論文：(2024)：蒜山の森

志水 陶子：豪雪地帯南限域の森林流域における炭素と窒素の流入・流出負荷量の評価，鳥取大学農学部生命環境農学科卒業論文：(2024)：蒜山の森

清水 瑛太：樹木の加齢ともなうセルロース構造変化に対する微分幾何学的考察，鳥取大学農学部生命環境農学科卒業論文：(2024)：蒜山の森

小亀 桃子：立木音響スペクトルに基づく森林遷移の物理学的評価，鳥取大学農学部生命環境農学科卒業論文：(2024)：蒜山の森，三朝の森

島根大学

生物資源科学部附属生物資源教育研究センター

李 婉, 保永 展利, 高橋 絵里奈, 井上 憲一：日本と中国の大学生における森林に関する知識・態度・行動の特徴と関係—島根大学によるケーススタディー，*環境教育*, 33(1)：14-26 (2024)

愛媛大学

農学部附属演習林

Ogasahara M., Cobb A.R., Sukri R.S., Metali F., and Kamiya K.: Genetic structure and population history of a peat swamp forest tree species, *Shorea albida* (Dipterocarpaceae) in Brunei Darussalam. *Genes & Genetic Systems*, 98: 35–44(2023):ブルネイ

上谷浩一：日本の森林樹木の地理的遺伝構造(40)ハナガガシ(ブナ科コナラ属)，*森林遺伝育種*, 12: 68-72(2023):日本.

Kenzo T., Ichie T., Norichika Y., Kamiya K., Inoue Y., Ngo K.M., and Lum S.K.Y.: Drought tolerance in dipterocarp species improved through interspecific hybridization in a tropical rainforest, *Forest Ecology and Management*, 548: 121388(2023):シンガポール

Rachmat HH., Hidayat A., Kamiya K., and Harada K. Revealing the genetic structure of Indonesia Moluccan dipterocarps species, *Rubroshorea selanica*. *International Journal of Agriculture and Biology*. 31: 183–191(2024):インドネシア

Kume T., Shimamura T., and Haruta S. Changes in growth parameters of *Moringa oleifera* and soil physical properties in different salinity treatments. *International Journal of Agriculture & Biology*. 29: 345-350(2023):

杉元宏行. 内部構造変化がもたらす木材の光透過性の向上. 日本接着学会誌. 58 : 306-312(2022):
愛媛大学演習林

Nishida M., Abe M., Seki M., Miki T., and Sugimoto H. Variable-temperature solid-state NMR analysis of woody materials in the presence of small hydroxyl molecules. *Journal of Wood Chemistry and Technology*. 43: 221(2023):

Thang NV, Ozaki T., Wakai A., Kimura T., Sato G., and Kitamura N. Simulation of shallow landslides induced by typhoon in July 2018 in Gogoshima, Ehime Prefecture, Japan based on a simple model. *IOP Conference Series: Materials Science and Engineering*. 1289: 012106(2023):愛媛県

Kimura T., Sato G, Ozaki T, Thang NV, Wakai A. Land cover trajectories and their impacts on rainfall-triggered landslide occurrence in a cultivated mountainous region of western Japan. *Water*. 15: 4211. 2023.

Kimura T. Effects of land cover changes and rainfall variation on the landslide size–frequency distribution in a mountainous region of western Japan. *Geosciences*. 14: 59(2024):

伊藤和貴. 5 抽出成分, 5.2.6 イソプレノイド, 5.2.7 その他の成分. 福島和彦・船田良・杉山淳司・高部圭司・梅澤俊明・山本浩之. 木質の形成 第3版. 512-518(2024年3月):

Dalya N., Tsuzuki H., and Oue H. Biomass by an organ in understory vegetation: Study comparison among upper story tree species, *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*, 1277 (2023) 012028. doi:10.1088/1755-1315/1277/1/012028 : インドネシア・ハサヌディン大学演習林

高知大学

農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター嶺北フィールド

橋本 直之, 株式会社スカイマティクス: ドローン等による林内観測データ収集と処理方法の検討 (共同研究)(2023-2024): 嶺北フィールド

三宅 陽子: 帯幅の異なる帯状伐採地に植林したヒノキの約30年後の成長比較: 嶺北フィールド

砂場 祐希: 樹種や環境による薪の乾燥速度, 高知大学農林海洋科学部卒業論文(2023): 嶺北フィールド

隅井 勇我: 炭竈を利用した炭作成作業費用, 高知大学農林海洋科学部卒業論文(2023): 嶺北フィールド

中村 翔太: 薪ストーブを利用した樹種別燃焼評価, 高知大学農林海洋科学部卒業論文(2023): 嶺北フィールド

九州大学

農学部附属演習林

T. Yoshikawa, K. Totsu, Y. Takeuchi, T. Kadoya, T. Enoki, S. Fujii, A. S. Fukamachi, M. Hirota, K. Hoshizaki, N. Iiyama, Y. Ishikawa, H. Itô, H. Kobayashi, T. S. Kohyama, Y. Konno, A. Makita, A. S. Mori, D. Nagamatsu, T. Nakashizuka, K. Namikawa, M. Noguchi, M. Sakimoto, Y. Ozaki, T. Seino, H. Sugita, J. Suzuki, R. O. Suzuki, S. N. Suzuki, K. Takahashi, R. Tateno, R. Watanabe, T. Yamashita, T. Yoshida, M. I. Ishihara, T. Kenta, M. Nakamura, T. Hiura: Forest monitoring data of 45 plots across the Japanese archipelago during 1980–2021, *Ecological Research*, 39(3): 391-406(2024年3月): 宮崎演習林ほか

扇 大輔, 村田 秀介, 村松 優子, 中村 琢磨, 今村 明雄, 菱 拓雄: 九州大学福岡演習林におけるブナ科樹木萎凋病の発生とコナラ・マテバシイ枯死木の伐倒駆除, *九州森林研究*, 77: 215-218(2024年3月): 福岡演習林

Y. Liu, M. Chiwa: Influence of surface soil chemistry on nutrient leaching from Japanese cedar plantations and natural forests, *LANDSCAPE AND ECOLOGICAL ENGINEERING*, 20(2): 187-194(2024年1月): 福岡演習林

T. Hishi, K. Uemori, N. Tashiro, T. Nakamura: Asymmetric environmental selection on intraspecific body size in Collembola communities along an elevational gradient in northern Japan., *European Journal of Soil Biology*, 120: 103596(2024年1月): 北海道演習林ほか

A. M. Potapov, T.-W. Chen, A. V. Striuchkova, J. M. Alatalo, D. Alexandre, J. Arbea, T. Ashton, F. Ashwood, A. B. Babenko, I. Bandyopadhyaya, C. R. D. M. Baretta, D. Baretta, A. D. Barnes, B. C. Bellini, M. Bendjaballah, M. P. Berg, V. Bernava, S. Bokhorst, A. I. Bokova, T. Bolger, M. Bouchard,

- R. A. Brito, D. Buchori, G. Castaño-Meneses, M. Chauvat, M. Chomel, Y. Chow, S. L. Chown, A. T. Classen, J. Cortet, P. Čuchta, A. M. de la Pedrosa, E. C. A. De Lima, L. E. Deharveng, E. Doblás Miranda, J. Drescher, N. Eisenhauer, J. Eilers, O. Ferlian, S. S. D. Ferreira, A. S. Ferreira, C. Fiera, J. Filser, O. Franken, S. Fujii, E. Gagnon Koudji, M. Gao, B. Gendreau-Berthiaume, C. Gers, M. Greve, S. Hamra-Kroua, I. T. Handa, M. Hasegawa, C. Heiniger, T. Hishi, M. Holmstrup, P. Homet, T. T. Høye, M. Ivask, B. Jacques, C. Janion-Scheepers, M. Jochum, S. Joimel, B. C. S. Jorge, E. Juceviča, E. M. Kapinga, L. Kováč, E. J. Krab, P. H. Krogh, A. Kuu, N. Kuznetsova, W. N. Lam, D. Lin, Z. Lindo, A. W. P. Liu, J.-Z. Lu, M. J. Luciáñez, M. T. Marx, A. Mawan, M. A. McCary, M. A. Minor, G. I. Mitchell, D. Moreno, T. Nakamori, I. Negri, U. N. Nielsen, R. Ochoa-Hueso, L. C. I. Oliveira Filho, J. G. Palacios-Vargas, M. M. Pollierer, J.-F. Ponge, M. B. Potapov, P. Querner, B. Rai, N. Raschmanová, M. I. Rashid, L. J. Raymond-Léonard, A. S. Reis, G. M. Ross, L. Rousseau, D. J. Russell, R. A. Saifutdinov, S. Salmon, M. Santonja, A. K. Saraeva, E. J. Sayer, N. Scheunemann, C. Scholz, J. Seeber, P. Shaw, Y. B. Shveenikova, E. M. Slade, S. Stebaeva, M. Sterzynska, X. Sun, W. I. Susanti, A. A. Taskaeva, L. S. Tay, M. P. Thakur, A. M. Treasure, M. Tsiafouli, M. N. Twala, A. V. Uvarov, L. A. Venier, L. A. Widenfalk, R. Widyastuti, B. Winck, D. Winkler, D. Wu, Z. Xie, R. Yin, R. A. Zampaulo, D. Zeppelini, B. Zhang, A. Zoughailech, O. Ashford, O. Klauberg-Filho, S. Scheu: Global fine-resolution data on springtail abundance and community structure, *Scientific data*, 11(1): 22(2024年1月): 全球
- Y. Tokumoto, A. Katayama: Effects of *Pieris japonica* (Ericaceae) dominance on cool temperate forest altered-understory environments and soil microbiomes in Southern Japan, *PLOS ONE*, 19(1): e0296692(2024年1月): 宮崎演習林
- D. A. Yoshikay-Benitez, K. Ohira, K. Banerjee, K. Fujita, J. Shigeto, Y. Tsutsumi: The *Populus alba* cationic cell-wall-bound peroxidase (CWPO-C) regulates plant growth, lignin content and composition in poplar, *Journal of Wood Science*, 69(12): 1-13(2023年): 福岡演習林
- A. Katayama, K. Nanko, S. Jeong, T. Kume, Y. Shinohara, S. Seitz: Short communication: Concentrated impacts by tree canopy drips – hotspots of soil erosion in forests, *Earth Surface Dynamics*, 11(6): 1275-1282(2023年12月): 宮崎演習林
- C. Chaiwong, T. Koottatep, Y. Chirasuwannaphot, C. Thanasrilungkul, P. Panchai, W. Chanamarn, P. Noophan, T. Kasahara, S. Wongkiew, C. Polprasert: Novel Multifunctional Sewage Sludge-based Adsorbents For Treatment Of Municipal Wastewater, *Journal of Applied Science and Engineering*, 27(9): 3127-3146(2023年12月)
- G. Kusakabe, H. Mori, T. Hiura : Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types, *Basic and Applied Ecology*, 72: 1-9(2023年11月): 北海道演習林
- F.-C. Chen, A. Katayama, M. Oyamada, T. Tsuyama, Y. Kijidani, Y. Tokumoto: Effects of soil environmental changes accompanying soil erosion on the soil prokaryotes and fungi of cool temperate forests in Southern Japan, *JOURNAL OF FOREST RESEARCH*, 29(2): 89-102(2023年10月): 宮崎演習林
- H. Abe, T. Kume, F. Hyodo, M. Oyamada, A. Katayama: Soil erosion under forest hampers beech growth: Impacts of understory vegetation degradation by sika deer, *Catena*, 234: 107559(2023年10月): 宮崎演習林
- N. Takamura, Y. Hata, K. Matsumoto, T. Kume, M. Ueyama, T. Kumagai: El Niño-Southern Oscillation forcing on carbon and water cycling in a Bornean tropical rainforest, *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 120(42): e2301596120(2023年10月): マレーシア
- B. Kusumoto, A. Chao, W. L. Eiserhardt, J.-C. Svenning, T. Shiono, Y. Kubota: Occurrence-based diversity estimation reveals macroecological and conservation knowledge gaps for global woody plants, *Science advances*, 9(40): eadh9719(2023年10月): 全球
- A. Hashimoto, C. W. Chiu, Y. Onda, M. Tateishi, K. Tsuruta, T. Gom: Satellite remote sensing model for estimating canopy transpiration in cypress plantation using in situ sap flow observations and forest inventory, *ISPRS Journal of Photogrammetry and Remote Sensing*, 206: 258-272(2023年9月): 福岡演習林
- R. Yang, K. Fukuzawa, M. Nakayama, R. Tateno, T. Hishi, H. Shibata, M. Chiwa: Nitrate leaching and its susceptibility in response to elevated nitrogen deposition in Japanese forests, *Journal of Forest Research*, 29(2): 81-88(2023年8月): 福岡演習林, 宮崎演習林, 北海道演習林ほか
- G. M. Moulatlet, B. Kusumoto, J. Pinto-Ledezma, T. Shiono, Y. Kubota, F. Villalobos: Global patterns of phylogenetic beta-diversity components in angiosperms, *Journal of Vegetation Science*, 34(4):

- e13203(2023年8月): 全球
- D. Fu, M. Chiwa: Contrasting nitrate leaching from an abandoned Moso bamboo forest and a Japanese cedar plantation: role of vegetation in mitigating nitrate leaching, *Plant and Soil*, 492(1-2): 229-240(2023年7月): 福岡演習林
- A. Katayama, M. Oyamada, H. Abe, K. Uemori, T. Hishi: Soil erosion decreases soil microbial respiration in Japanese beech forests with understory vegetation lost by deer, *Journal of Forest Research*, 28(6): 428-435(2023年7月): 宮崎演習林ほか
- K. Tsuruta, H. Kwon, B. E. Law, T. Kume: Relationship between stem diameter and whole-tree transpiration across young, mature and old-growth ponderosa pine forests under wet and dry soil conditions, *Ecohydrology*, 16(7): e2572(2023年6月): U.S.A.
- T. Nakaji, N. Makita, A. Katayama, H. Oguma: Belowground spectroscopy — Novel spectral approach for estimation of vertical and species-specific distributions of forest soil characteristics and heterotrophic respiration, *Agricultural and Forest Meteorology*, 339: 109563(2023年6月): 北海道
- 森 裕樹, 山北 絵理, 木村 優佑, 小林 孝行, 前島 勇治, 平舘 俊太郎: 「第28回ペドロジストトレーニングコース in 福岡」 土壌断面の特徴と分類, *ペドロジスト*, 67(1): 11-24(2023年6月): 福岡演習林
- M. Orrego, A. Katayama, M. Hasegawa, T. Enoki: Dead bamboo culms promote litter mass, carbon and nitrogen loss, but do not modulate the effect of soil fauna on litter decomposition, *European Journal of Soil Biology*, 117: 103493(2023年5月): 福岡演習林
- M. G. Iwaizumi, A. A. Mukasyaf, I. Tamaki, J. Nasu, N. Miyamoto, M. Tamura, A. Watanabe: Genetic diversity and structure of seed pools in an old planted *Pinus thunbergii* population and seed collection strategy for gene preservation, *Tree Genetics and Genome*, 19: 9(2023年4月): 福岡演習林
- B. Kusumoto, T. Shiono, Y. Kubota: Sample coverage-based standardization of species diversity improves description and prediction of biogeographic patterns, 11th Biennial Conference of International Biogeography Society, 2024年1月7-11日, Czechia: 全球
- Y. Kubota, T. Shiono, K. Watanabe, S. Ikari, B. Kusumoto: Macroecological analysis of sustainability of cashmere production at the continental- and regional level: impact of climate change and land use on biodiversity of grassland ecosystem, 11th Biennial Conference of International Biogeography Society, 2024年1月7-11日, Czechia: ユーラシア
- B. Kusumoto, T. Shiono, Y. Kubota: Geographical patterns of global woody plant diversity: their contemporary and historical environmental drivers, The 3rd AsiaEvo Conference, 2023年12月16-18日, Singapore: 全球
- B. Kusumoto: Pleistocene legacy effects of past shallow sea positions on current stony coral diversity, Biogeography of Tropical Asia Symposium-Workshop, 2023年12月13-15日, Singapore: 全球
- T. Kasahara, A. Tanaka: In-Stream Nitrate Retention in a Forest Mountain Stream with Elevated Nitrate Concentration in Western Japan, American Geophysical Union Fall Meeting, 2023年12月11-15日, USA: 福岡演習林
- S. Koga: A case of carbon offset through energy use of forest residues in Ashoro Town, Hokkaido, Japan, NTU Centennial International Workshop on Forest Carbon Sink and Circular Economy Methodology, 2023年9月7-8日, Taiwan: 北海道
- M. Takada, K. Goto: auditory impression of amplitude-modulated vehicle horn sounds and their detectability in noisy environment, Inter-Noise 2023, 2023年8月20-23日, Japan: 福岡演習林
- S. Jeong, K. Nanko, A. Katayama, T. Kume, S. Koga, K. Otsuki: Characteristics of throughfall kinetic energy and sampling strategy in an unmanaged Japanese cypress plantation laden with dead branches, 2023 Summer Meeting of Korean Society of Forest Science, 2023年8月18日, Korea: 福岡演習林
- H. Abe, H. Helbert, Y. Tatsuta, K. Nara: Characterizing ectomycorrhizal fungal communities associated with all indigenous pine species in Japan, The 10th EAFES International Congress, 2023年7月17-20日, Korea: 宮崎演習林
- K. Uemori, T. Hishi: Changes in trophic level and detritus dependency response to temperature among Aculeata communities in Japanese forests, The 10th EAFES international Congress, 2023年7月17-20日, Korea: 福岡演習林, 宮崎演習林, 北海道演習林
- A. Katayama, K. Nanko, S. Jeong, T. Kume, Y. Shinohara, S. Seitz: Concentrative drop impacts by a bunch of canopy drips: hotspots of soil erosion in forest, European Geophysical Union (EGU) General assembly 2023, 2023年4月24-28日, Austria, Online: 宮崎演習林

- H. Abe, T. Kume, A. Katayama: Carbon stocks in cool temperate forests with different stand structure due to deer overgrazing, European Geophysical Union (EGU) General assembly 2023, 2023年4月24-28日, Austria, Online: 宮崎演習林
- 岩元 真明: 九州大学 オープンイノベーション プラットホーム, 商店建築, 69(3): 153-159(2024年3月): 福岡演習林
- 内海 泰弘, 古賀 信也: 北海道足寄町における伝統的な樹木の名前と利用法およびその知識の消失, 九州大学農学部演習林報告, (105): 1-4(2024年3月): 北海道演習林
- 山内 康平, 榎木 勉: 九州大学北海道演習林における風穴の気温と風穴地の植生, 九州大学農学部演習林報告, (105): 5-11(2024年3月): 北海道演習林
- 南木 大祐, 村田 秀介, 久保田 勝義, 中村 琢磨, 壁村 勇二, 鍛冶 清弘, 山内 康平, 井上 幸子, 榎木 勉, 内海 泰弘: 北海道東部のミズナラ造林地における稚樹育成段階での施業法が樹高成長に及ぼす影響, 九州大学農学部演習林報告, (105): 13-15(2024年3月): 北海道演習林
- 上森 教慈, 小山田 美森, 市橋 隆自, 菱 拓雄, 片山 歩美: 九州のブナ林と下層植生の現状, 九州大学農学部演習林報告, (105): 17-36(2024年3月): 宮崎演習林ほか
- 井上 幸子, 藤山 美薫, 緒方 健人, 山内 康平, 村田 秀介, 中村 琢磨, 南木 大祐, 壁村 勇二, 鍛冶 清弘, 久保田 勝義, 佐々木 寛和, 田代 直明: 九州大学北海道演習林における学術参考保護林および見本林の森林調査データ, 九州大学農学部演習林報告, (105): 37-39(2024年3月): 北海道演習林
- 中祖 ゆきな, 照内 歩, 佐藤 野杏, 本馬 維子, 佐々木 乃梨, 村上 堇, 林 芙果, 福田 捷人, 菊池 隼人, 内海 泰弘, 押田 龍夫: 自動動画撮影カメラを用いた地表性ネズミ類の個体追跡サンプリング法の有用性, 帯広畜産大学学術研究報告, 44: 117-125(2023年11月): 北海道演習林
- 榎木 勉, 菱 拓雄: 下層植生の除去が林冠木の地上部純一次生産に及ぼす影響, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 北海道演習林
- 上森 教慈: 気候条件や植生が森林の有剣ハチ群集に与える影響の評価, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 福岡演習林, 宮崎演習林, 北海道演習林ほか
- 阿部 寛史, 小泉 敬彦, Helbert LIM, 奈良 一秀: 日本産マツ属樹木全種の外生菌根菌埋土孢子群集, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 宮崎演習林
- 市橋 隆自: 冷温帯の樹木・つる植物における春季開葉前の根圧観測, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 宮崎演習林
- 上森 教慈, 菱 拓雄: 九州の落葉広葉樹林における有剣ハチ群集の季節変動, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 宮崎演習林
- 山下 裕太郎, 黒川 紘子, 兵藤 不二夫, 小川 裕也, 吉田 俊也, 柴田 銃江, 田代 直明, 平尾 聡秀, 齊藤 哲, 高木 正博, 日浦 勉: 日本列島の主要森林タイプにおける落葉養分濃度の長期変化, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 日本
- 平田 萌根, 阿部 隼人, 小山田 美森, 片山 歩美: 全国の森林におけるイングロースコア法による細根生産量推定, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 宮崎演習林, 北海道演習林ほか
- 兵藤 不二夫, 織田 峻綺, 菱 拓雄, 岸本 圭子, 黒川 紘子: 日本列島の森林の土壌微生物群集を規定する非生物的・生物的要因, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 日本
- S. Hanatani, I. Endo, A. Katayama, K. Fukuzawa, T. Nakaji, N. Makita, M. Ohashi: 熱帯雨林地上部の三次元構造はリター分解プロセスにどう影響するのか?, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): マレーシア
- 付 方正, 菱 拓雄, 兵藤 不二夫: 冷温帯林の異なる斜面方位における土壌微生物群集とその呼吸特性, 第71回日本生態学会大会, 2024年3月16-21日, 横浜国立大学(横浜市): 北海道演習林
- 永井 智, 内海 泰弘: EDXRFを用いたスギ樹幹内における既存元素および導入元素の定量分析, 第74回日本木材学会大会, 2024年3月13-15日, 京都大学(京都市): 兵庫県
- X. Zhu, M. Yang, L. Guan, H. Sakagami, S. Koga: Wood utilization of invasive tree species, Chinese tallow (Tradica Sebifera): assessing intrinsic wood properties of planted trees, 第74回日本木材学会大会, 2024年3月13-15日, 京都大学(京都市): 福岡演習林
- 栗野 達也, 西田 典由, 細川 宗孝, 錦織 正智, 鈴木 三男, 早川 典子, 吉永 新, 杉山 淳司: 北海

- 道産ノリウツギの内樹皮およびネリの特徴, 第 74 回日本木材学会大会, 2024 年 3 月 13-15 日, 京都大学(京都市): 宮崎演習林
- 相 衍, 永井 智, 工藤 佳世, 安田 悠子, 内海 泰弘: シラカンバにおける冬から春までの根圧の季節変化と水再充填の解明, 第 74 回日本木材学会大会, 2024 年 3 月 13-15 日, 京都大学(京都市): 北海道演習林
- 楊 茂皎, 古賀 信也: クスノキにおける繊維傾斜の樹幹内変動について, 第 74 回日本木材学会大会, 2024 年 3 月 13-15 日, 京都大学(京都市): 福岡演習林
- 松永 美月, 竹内 万結, 佐藤 忠道, 執印 康裕, 久米 朋宣, 篠原 慶規: 様々な表層崩壊跡地における土層厚の回復, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 宮崎演習林
- 上森 教慈, 菱 拓雄: 落葉樹天然林の針葉樹人工林化による有剣ハチ群集のデトリタス依存度の増加, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 宮崎演習林
- 菱 拓雄, 兵藤 不二夫, 榎木 勉, 福澤 加里部: 10 年間の森林下層植生除去が土壌生物群集機能に与える影響, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 北海道演習林
- K. K. Htoo, Md. F. Rahman, M. Onishi, R. Takeshige, Y. Onoda: Application of UAV-LiDAR data in analyzing the allometric relationships of over a hundred tree species across Japan, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 宮崎演習林, 北海道演習林ほか
- T. Kume, L. Villaverde, H. Abe, M. O. Marly, A. Katayama: Soil carbon dynamics in two Phyllostachys stands: abandoned bamboo stands still can be carbon sinks?, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 福岡演習林
- 戸口 侑紀, 上田 実希, 黒河内 寛之, 中村 琢磨, 平尾 聡秀, 芝野 萌菜実, 斎藤 陽子: カエデ属 *Palmata* 節 6 種の秩父山地における葉緑体 DNA の種間及び種内変異, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 宮崎演習林
- 古賀 みこと, 片山 歩美, 菱 拓雄, 小山田 美森: ササの消失及び代替下層植生の回復が土壌生態系機能に与える影響について, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 熊本県
- 福澤 加里部, 智和 正明, 館野 隆之輔, 松山 周平, 菱 拓雄, 杉山 賢子, 谷口 武士, 野村 睦: ササ除去が森林土壌の窒素動態に及ぼす影響: 複数サイトにおける観測から, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 北海道演習林ほか
- 智和 正明, 内海 泰弘: シカはナトリウムをどこから得ているのか? ~堆肥と凍結防止剤中の計測~, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 北海道演習林
- 阿部 隼人, 付 東川, 佐藤 忠道, 徳本 雄史, 櫻井 優樹, 兵藤 不二夫, 片山 歩美: シカ排除柵の内外におけるブナ成木の肥大成長量の比較, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 熊本県
- 東 若菜, 小切 壮仁, 杉本 廉, 櫻井 優樹, 徳本 雄史, 阿部 隼人, 久米 朋宣, 片山 歩美: 九州山地のブナ林における土壌侵食による葉の生理学的特性への影響, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 宮崎演習林
- 榎木 勉, 鶴川 信, 石井 弘明: 九州産スギ 6 品種の地上部純一次生産量と窒素利用, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 福岡演習林, 宮崎演習林ほか
- 遠藤 いず貴, 松本 達也, 井手 淳一郎, 阿部 隼人, 片山 歩美, 久米 朋宣: モウソウチク林の根系動態にスキャナー法での撮影地点数が与える影響評価., 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 福岡演習林
- 李 周強, 付 東川, 笠原 玉青, 智和 正明: 九州北部の森林流域における大気窒素沈着量の減少下での高い河川硝酸塩濃度, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 福岡演習林
- 阿部 寛史, 奈良 一秀: 日本産マツ属樹木と共生する外生菌根菌胞子の耐熱性, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月 8-11 日, 東京農業大学(世田谷区): 宮崎演習林ほか
- 付 東川, 李 周強, 阿部 隼人, 菱 拓雄, 福澤 加里部, 智和 正明: 冷温帯林におけるミヤコザサ除去が細根のバイオマスと形態形質に及ぼす影響, 第 135 回日本森林学会大会, 2024 年 3 月

8-11日, 東京農業大学(世田谷区): 北海道演習林
 楊 茹: 大気窒素沈着量の増加に対する上層木と下層植生の異なる応答性, 第135回日本森林学会大会, 2024年3月8-11日, 東京農業大学(世田谷区): 北海道演習林ほか

阿部 寛史, 立田 悠士, ヘルベルト, 奈良 一秀: 地域スケールでのマツ属樹木の外生菌根菌群集の主な決定要因は宿主である: 日本固有マツ属全7種での菌根菌群集構造解析から, 菌根研究会2023年度大会, 2023年11月11日, 山形大学(鶴岡市): 宮崎演習林

遠藤 いず貴, 松本 達也, 井手 淳一郎, 阿部 隼人, 片山 歩美, 久米 朋宣: モウソウチク林の根系動態パターンにおけるスキャナー画像の撮影地点数の影響評価, 第58回根研究集会, 2023年11月3-5日, 兵庫県立大学(姫路市): 福岡演習林

工藤 葵, 杉原 優, 阿部 陽, 及川 香梨, 夏目 俊, 清水 元樹, 伊藤 和江, 辻村 真衣, 寺地 徹, 太田 敦士, 寺内 良平: 雌雄異株植物オニドコロにおける性決定候補遺伝子の同定, 学術変革領域「挑戦的両性花原理」若手の会, 2023年10月30日, レクトーレ湯河原(足柄下郡): 福岡演習林

楊 茂皎, 古賀 信也: クスノキ材の交錯木理に関する研究—樹幹内の繊維走向について—, 第79回九州森林学会大会, 2023年10月20-21日, 佐賀大学(佐賀市): 福岡演習林

扇 大輔, 村田 秀介, 村松 優子, 中村 琢磨, 今村 明雄, 菱 拓雄: 九州大学福岡演習林におけるコナラ・マテバシイ萎凋病の被害と伐倒駆除, 第79回九州森林学会大会, 2023年10月20-21日, 佐賀大学(佐賀市): 福岡演習林

清野 浩人, 榎木 勉, 石井 弘明, 鶴川 信: 生育環境に対応したスギの細根形質の変化の品種による違い—地域および斜面位置の違いに着目して—, 第79回九州森林学会大会, 2023年10月20-21日, 佐賀大学(佐賀市): 宮崎県, 鹿児島県

上森 教慈, 小山田 美森, 片山 歩美, 菱 拓雄: 九州のシカ食害による下層植生の消失が動物群集に与える影響, 植生学会第28回大会, 2023年10月13-15日, 甲南女子大学(神戸市): 宮崎演習林ほか

小山田 美森, 上森 教慈, 菱 拓雄, 片山 歩美: ササの消失が土壌の特性や微生物活性に与える影響—九州の山岳ブナ林における事例—, 植生学会第28回大会, 2023年10月13-15日, 甲南女子大学(神戸市): 宮崎演習林ほか

笠原 玉青, 田中 亜季: 竹林の拡大が溪流におけるリター分解に与える影響の評価, 応用生態工学会第26回京都大会, 2023年9月20-23日, 京都大学(宇治市): 福岡演習林

工藤 葵, 杉原 優, 阿部 陽, 及川 香梨, 夏目 俊, 清水 元樹, 伊藤 和江, 辻村 真衣, 寺地 徹, 太田 敦士, 寺内 良平: 雌雄異株植物オニドコロにおける性決定候補遺伝子の同定, 日本育種学会第144回講演会, 2023年9月16-18日, 神戸大学(神戸市): 福岡演習林

岸本 圭子, 菱 拓雄, 黒川 紘子, 兵藤 不二夫: 日本広域にわたる森林性糞虫群集の特性, 日本昆虫学会第83回大会, 2023年9月16-18日, 佐賀大学(佐賀市): 日本

照内 歩, 本馬 維子, 内海 泰弘, 押田 龍夫: 北海道に生息するヒメネズミ *Apodemus argenteus* の巣材運搬行動—コストと利益を考える— (予報), 日本哺乳類学会2023年大会, 2023年9月7-10日, 琉球大学(中頭郡): 北海道演習林

本馬 維子, 照内 歩, 内海 泰弘, 押田 龍夫: 北海道の天然生広葉樹林におけるタイリクモモンガ *Pteromys volans orii* の貯食行動について, 日本哺乳類学会2023年大会, 2023年9月7-10日, 琉球大学(中頭郡): 北海道演習林

篠原 慶規, 久米 朋宣: 降雨による土砂災害の死者数の長期変動は何によって決まっているのか?, 水文・水資源学会/日本水文科学会2023年度研究発表会, 2023年9月3-6日, 出島メッセ長崎(長崎市): 日本

開澤 菜月, 中村 剛之, 山内 健生: 北海道の積雪下で活動するムカデ類とヤスデ類, 第45回日本土壌動物学会大会, 2023年6月10-11日, プチ・ホテル ゾンタック(上田市): 北海道演習林

松永 美月, 竹内 万結, 佐藤 忠道, 執印 康弘, 久米 朋宣, 篠原 慶規: 宮崎演習林内における表層崩壊発生後の土層厚の変化, 第26回演習林研究発表会, 2024年1月25日, 九州大学農学部附属演習林(篠栗町), オンライン: 宮崎演習林

竹内 万結, 松永 美月, 佐藤 忠道, 執印 康弘, 久米 朋宣, 篠原 慶規: 宮崎演習林およびその周辺における斜面崩壊発生後の斜面の植生回復の条件について, 第26回演習林研究発表会,

2024年1月25日,九州大学農学部附属演習林(篠栗町),オンライン:宮崎演習林ほか
 壁村 勇二,久保田 勝義,山内 耕司朗,南木 大祐,鍛冶 清弘,山内 康平,扇 大輔,緒方 健人,
 井上 幸子,中村 琢磨,村田 秀介,内海 泰弘,片山 歩美:宮崎演習林における糞粒法による
 ニホンジカ生息密度の推定—調査地の削減について検討してみました—,第26回演習林研究
 発表会,2024年1月25日,九州大学農学部附属演習林(篠栗町),オンライン:宮崎演習林
 X. Zhu, M. Yang, L. Guan, H. Sakagami, S. Koga: Wood utilization of invasive tree species, Chinese
 tallow(*Triadica sebifera*): assessing intrinsic wood properties of planted trees, 第26回演習林研究
 発表会,2024年1月25日,九州大学農学部附属演習林(篠栗町),オンライン:福岡演習林
 M. Orrego: 福岡演習林における音環境の予備調査,第26回演習林研究発表会,2024年1月25日,
 九州大学農学部附属演習林(篠栗町),オンライン:福岡演習林
 藤山 美薫,田代 直明,智和 正明,山内 康平,中村 琢磨,村田 秀介:北海道演習林の天然林床
 における気象観測,第26回演習林研究発表会,2024年1月25日,九州大学農学部附属演習
 林(篠栗町),オンライン:北海道演習林
 山内 康平,榎木 勉:九州大学北海道演習林における風穴の気温と風穴地の植生,第26回演習林
 研究発表会,2024年1月25日,九州大学農学部附属演習林(篠栗町),オンライン:北海道演習
 林
 榎木 勉, Marly Orrego: 120年ぶりに開花したハチクが森林の炭素・窒素循環に及ぼす影響,第26
 回演習林研究発表会,2024年1月25日,九州大学農学部附属演習林(篠栗町),オンライン:福
 岡演習林
 徳本 雄史: 落葉広葉樹林での地表面環境と土壤微生物群集との関係,森林・木材関係研究機関に
 よる合同研究成果報告会,2023年12月18日,宮崎県県電ホール(宮崎市):宮崎演習林
 上森 教慈:九州の森と色々なハチ,グリーンシティ福岡 生物多様性特別講座,2023年11月18
 日,まもる一む福岡(福岡市):宮崎演習林
 上森 教慈:気候条件や植生が有剣ハチ群集の栄養段階とデトリタス依存度に与える影響の評価,
 JaLTER-OSM,2023年9月23日,ふるさと体験館北上(北上市):福岡演習林,宮崎演習林,北
 海道演習林
 阿部 隼人,久米 朋宣,兵藤 不二夫,片山 歩美:長期的なシカの植生採食が樹木成長と森林の炭
 素蓄積量に与える影響,2023年度 学術変革デジタルバイオスフェア全体会合,2023年9月
 19-21日,東京大学山中寮(南都留郡):宮崎演習林
 上森 教慈:気温傾度に沿った有剣ハチ群集のデトリタス依存度と栄養段階の変化,2023年度 学
 術変革デジタルバイオスフェア全体会合,2023年9月19-21日,東京大学山中寮(南都留郡):福
 岡演習林,宮崎演習林,北海道演習林
 付 東川:放棄竹林と隣接するスギ林の土壤溶液科学の違い,2023年度 学術変革デジタルバイオ
 スフェア全体会合,2023年9月19-21日,東京大学山中寮(南都留郡):福岡演習林
 Marly Orrego: Chemical and morphological controls on the decomposition of root branching orders in
 three woody bamboo species,2023年度 学術変革デジタルバイオスフェア全体会合,2023年9
 月19-21日,東京大学山中寮(南都留郡):福岡演習林
 単著:智和 正明:生物地球化学事典,1-488,朝倉書店(2023年11月)
 共著:内海 泰弘ほか:1.9 広葉樹材の組織構造,6.1.1 樹木と水,64-80,575,木質の形成 第3版 バ
 イオマス科学への招待(福島 和彦,船田 良,杉山 淳司,高部 圭司,梅澤 俊明,山本 浩之
 編),海青社(2024年3月)
 共著:菱 拓雄ほか:3 根っこに集まる生き物がいるの?,22-23,,根っこのふしぎな世界 根っこ
 ってなんだろう?(中野 明正 監修,小泉 光久 制作,文),文研出版(2023年8月)
 古賀 信也:韓国・慶尚国立大学を訪問して,大学演習林年報,(38):8(2024年3月):(査読なし)
 古賀 信也:(公社)日本木材加工技術協会第41回年次大会(福岡)の概要,木材工業,79(3):
 55-59(2024年3月)
 藤山 美薫,市橋 隆自:あしよろ自然誌 Vol.50 オツネントンボ,広報あしよろ3月号,851:
 17(2024年3月):北海道演習林
 緒方 健人,榎木 勉:あしよろ自然誌 Vol.49 ゴジウカラ,広報あしよろ1月号,849:12(2024年
 1月):北海道演習林
 井上 幸子,田代 直明:あしよろ自然誌 Vol.48 ラワンプキ,広報あしよろ11月号,847:17(2023年

- 11月): 北海道演習林
- 古賀 信也: 国内木質資源の持続的な供給に向けて, 木材工業, 78(10): 373(2023年10月)
- 山内 康平, 市橋 隆自: あしよろ自然誌 Vol.47 サラシナショウマ (晒菜升麻), 広報あしよろ 9月号, 845: 21(2023年9月): 北海道演習林
- 藤山 美薫, 榎木 勉: あしよろ自然誌 Vol.46 イワブクロ, 広報あしよろ 7月号, 843: 25(2023年7月): 北海道演習林
- 緒方 健人, 田代 直明: あしよろ自然誌 Vol.45 エゾエンゴサク, 広報あしよろ 5月号, 841: 19(2023年5月): 北海道演習林
- Orrego Morales Marly: Regulation of litter decomposition in bamboo stands(竹林におけるリター分解の制御機構), 博士論文, 九州大学大学院森林環境科学教育コース森林生産制御学分野, (2023年9月): 福岡演習林
- 上森 教慈: Environmental responses of Aculeata assemblages in forest ecosystems(森林生態系における有刺ハチ群集の環境応答), 博士論文, 九州大学大学院生物資源環境科学府環境農学専攻, 1-119(2024年2月): 福岡演習林, 宮崎演習林, 北海道演習林
- 楊 茹: Response of nitrogen cycling to atmospheric nitrogen deposition in Japanese forests(日本の森林域における大気窒素沈着に対する窒素循環の応答性に関する研究), 博士論文, 九州大学大学院森林環境科学教育コース流域環境制御学分野, (2024年2月): 福岡演習林, 宮崎演習林, 北海道演習林ほか
- Zin Naing Win: Dynamics of Carbon and Nitrogen Accumulation during Stand Development in Japanese Oak (*Quercus crispula*) Chronosequence Stands in Ashoro Research Forest, Eastern Hokkaido, 修士論文, 九州大学大学院森林環境科学教育コース森林生産制御学分野, (2023年9月): 北海道演習林
- 小山田 美森: 九州山岳ブナ林におけるササの消失が土壌特性および微生物呼吸に与える影響, 修士論文, 九州大学大学院森林環境科学教育コース流域環境制御学分野, (2024年2月): 宮崎演習林ほか
- 澤江 悠: モウソウチクの暖温帯広葉樹二次林への侵入が有機物分解過程に及ぼす影響: 落葉と土壌特性の変化が与える効果の比較, 修士論文, 九州大学大学院森林環境科学教育コース森林生産制御学分野, (2024年2月): 福岡演習林
- 楊 茂皎: クスノキにおける交錯木理の樹幹内変動について, 修士論文, 九州大学大学院森林環境科学教育コース森林生産制御学分野, (2024年2月): 福岡演習林
- 櫻井 優樹: ブナの樹冠下環境の違いおよび健全性の違いが土壌の菌相に及ぼす影響, 修士論文, 宮崎大学大学院農学研究科農学専攻森林緑地環境科学コース, 1-175(2024年3月): 宮崎演習林
- 本馬 維子: 北海道の天然生広葉樹林に生息するエゾモモンガ *Pteromys volans orii* の採食資源に関する基礎生態学的研究, 修士論文, 帯広畜産大学畜産学研究科畜産科学専攻環境生態学コース, 1-62(2024年2月): 北海道演習林
- 清野 浩人: スギの順応性における品種間差 —生育環境に対する細根形質の変化に注目して—, 修士論文, 鹿児島大学大学院農林水産学研究科農林資源科学専攻森林科学コース, 1-34(2024年1月): 宮崎演習林
- 野田 瑞貴: 白色腐朽菌と細菌の共培養によるリグニン分解促進効果における、低分子リグニン分解物添加の影響, 卒業論文, 九州大学農学部地球森林化学コース, (2024年2月): 福岡演習林ほか
- 米戸 心之輔: 九州のブナ (*Fagus crenata*) 集団における遺伝的多様性と遺伝構造, 卒業論文, 九州大学農学部地球森林化学コース, (2024年2月): 宮崎演習林ほか
- 古賀 みこと: シカによる下層植生の変化が土壌生態系機能に与える影響-九州山岳ブナ林の事例-, 卒業論文, 九州大学農学部地球森林化学コース, (2024年2月): 熊本県
- 平田 萌根: 全国の森林における細根生産量の推定と変動要因の解明, 卒業論文, 九州大学農学部地球森林化学コース, (2024年2月): 宮崎演習林, 北海道演習林ほか
- 森田 悠己: カシノナガキクイムシによるコナラ個体の枯死が土壌無脊椎動物群集の構造に及ぼす影響, 卒業論文, 九州大学農学部地球森林化学コース, (2024年2月): 福岡演習林
- 松永 美月: 九州大学宮崎演習林内の表層崩壊跡地における崩壊後の土層厚の変化, 卒業論文, 宮崎大学農学部森林緑地環境科学科, 1-36(2024年2月): 宮崎演習林

竹内 万結: 一ツ瀬川源流部における斜面崩壊発生後の植生回復の条件, 卒業論文, 宮崎大学農学部森林緑地環境科学科, 1-17(2024年2月): 宮崎演習林

宮崎大学

農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド

- 原谷 日菜, 伊藤 哲, 中山 葉月, 山岸 極, 山川 博美, 溝口 拓朗, 平田 令子: スギ植栽木に対するススキ型および落葉広葉樹型競合植生の被圧効果の違い, 日本森林学会誌, 105: 147-153 (2023): 田野フィールド (演習林)
- 溝口 拓朗, 伊藤 哲, 光田 靖, 平田 令子, 山岸 極: スギ人工林主伐直後の土砂移動の空間不均一性とその要因, 森林立地, 65: 81-89 (2023): 田野フィールド (演習林)
- 相原 直生, 光田 靖: UAV-LiDAR 計測による高密度点群を用いた深層学習によるスギ樹冠抽出手法の開発, 九州森林研究, 77: 83-86 (2024): 田野フィールド (演習林)
- 青木 悠人: ドローンと深層学習を用いた森林の樹種検出方法, 宮崎大学農学部卒業論文, (2024): 田野フィールド (演習林)
- 阿部 悠南: 田野フィールドの常緑広葉樹林における樹冠遮断の特徴, 宮崎大学農学部卒業論文, (2024): 田野フィールド (演習林)
- 岩崎 達哉: 針広混交林における外生菌根菌分布, 宮崎大学農学部卒業論文, (2024): 田野フィールド (演習林)
- 岩本 光流: 絹皮病の成長に与える樹幹流 pH の影響, 宮崎大学農学部卒業論文, (2024): 田野フィールド (演習林)
- 長峰 虎輝: 田野フィールド (演習林) における常緑広葉樹二次林の蓄積の推移, 宮崎大学農学部卒業論文, (2024): 田野フィールド (演習林)

鹿児島大学

農学部附属演習林

- 二神 慶多, 加治佐 剛, 寺岡 行雄: 異なる再造林地における UAV 画像を用いた深層学習によるスギ植栽苗木検出, 九州森林研究, 77, 77-84, 2024.3: 高隈演習林
- 榮村 奈緒子, 繁 昌慶, 大石 圭太, 畑 邦彦: 鹿児島県本土におけるイエネコの食性の環境間および季節間の比較, 九州森林研究, 77, 91-96, 2024.3: 高隈演習林
- 石塚 敬人, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子, 枚田 邦弘: 製材工場の大径材に対する意識と対応, 九州森林研究, 77, 9-12, 2024.3
- 前野 一純, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: 素材生産現場における安全装備の変遷, 九州森林研究, 77, 13-17, 2024.3
- 鳥山 俊輔, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: 緑の雇用研修生に対するアンケートから見る労働環境の現状, 九州森林研究, 77, 17-20, 2024.3
- 小野原 啓介, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: 林福連の現状とその傾向について, 九州森林研究, 77, 21-24, 2024.3
- 清水 浩貴, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: 鹿児島県枕崎市および指宿市山川町における焙乾用薪の生産状況, 九州森林研究, 77, 29-32, 2024.3
- 村上 比奈, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: スギ人工林における「優良林業地」-1960年と2021年の比較, 九州森林研究, 77, 39-44, 2024.3
- 寺下文貴, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: なぜ“ジビエ”を使いたがるのか? -利用拡大に関わる背景と要因の分析-, 九州森林研究, 77, 141-144, 2024.3
- 新村 日奈子, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子: 木製猫砂販売の現状-鹿児島市内の小売店を対象とした事例調査から-, 九州森林研究, 77, 145-148, 2024.3
- 蜂須賀 莉子, 西村 明香理, 基 明日香, 清野 浩人, 比江島 尚真, 安田 悠子, 鶴川 信: 暖温帯常緑広葉樹林における樹木の空間分布と地形依存性, 第135回日本森林学会大会, 2024.3: 高隈演習林
- 有元 かれん, 加治佐 剛, 寺岡 行雄: 地上レーザ計測による出材量予測の精度評価, 第135回日本森林学会大会, 2024.3: 高隈演習林
- 加治佐 剛, 吉原 遥斗, 寺岡 行雄: 森林域における RTK-GNSS 搭載 UAV 測定の位置精度, 第

135 回日本森林学会大会, 2024.3 : 高隈演習林
榎木 勉, 鶴川 信, 石井 弘明 : 九州産スギ 6 品種の地上部一次生産量と窒素利用, 第 135 回日本森林学会大会, 2024.3 : 高隈演習林
奥山 洋一郎, 和智 愛加里, 滝沢 裕子, 石塚 敬人, 寺下 文, 大西 布綺 : 林業現場で語り継がれる口伝, 第 135 回日本森林学会大会, 2024.3
榮村 奈緒子, 鈴 一之将, 横山 雅大, 木村 仁美, 芦原 誠一, 畑 邦彦, 一二三 達郎, 田仲 哲也 : 鹿児島県大隅地域の異なる環境におけるマダニ類の季節消長とリケッチア保有状況, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10 : 高隈演習林
基 明日香, 鶴川 信 : コウヨウザン苗のノウサギ食害に対する効果的かつ持続的な忌避手法の検討, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10 : 高隈演習林
清野 浩人, 榎木 勉, 石井 弘明, 鶴川 信 : 生育環境に対応したスギの細根形質の変化の品種による違い—地域および斜面位置の違いに着目して—, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10 : 高隈演習林
二神 慶多, 加治佐 剛, 寺岡 行雄 : 異なる造林地の UAV 画像を用いた深層学習によるスギ植栽苗木検出, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10 : 高隈演習林
有元 かれん, 加治佐 剛, 寺岡 行雄 : 地上レーザの計測コースが測定精度に与える影響, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10 : 高隈演習林
石塚 敬人, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子, 枚田邦宏 : 南九州の製材工場における大径材対応の現状と課題, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
村上 比奈, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子 : スギ人工林における「優良林業地」の比較—1960 年から現在—, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
清水 浩貴, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子 : 鹿児島県枕崎市および指宿市山川町における焙乾用薪の生産状況, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
新村 日奈子, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子 : 木製猫砂販売の現状—鹿児島市の小売店を対象とした事例調査から—, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
小野原 啓介, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子 : 林福連携の現状とその傾向について, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
滝沢 裕子, 伊藤 幸男, 山本 信次, 林 雅秀, 奥山 洋一郎, 牧野 耕輔, 芦原 誠一 : ドイツの林業事業者における雇用状況と外国人労働者, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
烏山 俊輔, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子 : 緑の雇用研修生を対象としたアンケートから見る労働環境の現状, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
前野 一純, 奥山 洋一郎, 滝沢 裕子 : 素材生産現場における安全装備の変遷とこれから, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
寺下 文貴, 奥山 洋一郎, 枚田 邦宏, 滝沢 裕子 : なぜジビエを“使いたがる”のか?—利用拡大に関わる背景と要因の分析—, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
満 仁志, 井倉 洋二 : 徳之島伊仙町における環境教育の実施と今後の提案, 第 79 回九州森林学会大会, 2023.10
清野 浩人 : スギの順応性における品種間差—生育環境に対する細根形質の変化に注目して—, 鹿児島大学農学部修士論文, 2024.2 : 高隈演習林
比江島 尚真 : スギとクヌギのシュートにおける冬季の生理的特徴, 鹿児島大学農学部修士論文, 2024.2 : 高隈演習林
二神 慶多 : 複数の再造林地を対象にした UAV 画像を用いた深層学習によるスギ植栽苗木検出, 鹿児島大学農学部修士論文, 2024.2 : 高隈演習林
河村 実花 : 鹿児島県内のシイ・カシ類の葉における小房子囊菌類の発生状況, 鹿児島大学農学部卒業論文, 2024.2 : 高隈演習林
木村 仁美 : 垂水市の異なる景観におけるマダニの季節消長と宿主の関係, 鹿児島大学農学部卒業論文, 2024.2 : 高隈演習林
佐田 光月 : 広葉樹林におけるバックパック型レーザースキャナの立木の検出精度の検証, 鹿児島大学農学部卒業論文, 2024.2 : 高隈演習林
下門 京嗣 : つる植物の繁茂状況把握における UAV 画像の有効性, 鹿児島大学農学部卒業論文, 2024.2 : 高隈演習林

- 竹本 響：高隈演習林スギ高齡林における間伐効果，鹿児島大学農学部卒業論文，2024.2：高隈演習林
- 西村 明香理：常緑広葉樹天然林の構成樹種における細根の形質と生育環境の関係，鹿児島大学農学部卒業論文，2024.2：高隈演習林
- 基 明日香：コウヨウザンのノウサギ食害に対する効果的かつ持続的な忌避手法の探索，鹿児島大学農学部卒業論文，2024.2：高隈演習林
- 山内 春人：常緑広葉樹天然林を構成する樹種における葉の形質と生育環境の関係，鹿児島大学農学部卒業論文，2024.2：高隈演習林
- 向江 倭岐：18年生スギにおける植栽密度が幹形に及ぼす影響，鹿児島大学農学部卒業論文，2024.2：高隈演習林
- 中村 侑暉：スギ主伐により生じる枝条からの葉の脱落時期について，鹿児島大学農学部卒業論文，2024.2：高隈演習林

琉球大学

農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター

- 高嶋敦史，菅原暢泰：沖縄島やんばる地域の天然林における台風攪乱後の樹冠モニタリング，九州森林研究，77: 165-168 (2024): 与那フィールド
- 岸本咲紀，高嶋敦史：UAVによる空撮画像を用いたリュウキュウマツの識別手法の検討，九州森林研究，77: 161-164 (2024): 与那フィールド
- Matsumoto K, Terasawa K, Taniguchi S, Ohashi M, Katayama A, Kume T, Takashima A: Spatial and seasonal variations in soil respiration in a subtropical forest in Okinawa, Japan, Ecological Research, 38: 479-490 (2023): 与那フィールド
- Toyama H, Tagane S, Aiba S, Ugawa S, Suzuki E, Yamazaki K, Fuse K, Takashima A, Kadoya T, Takeuchi Y: High plant diversity and characteristic plant community structure in broad-leaved evergreen forests on Amami-Oshima and Tokunoshima Islands, Japan's newest natural World Heritage Site, Ecological Research, 38: 403-419 (2023): 与那フィールドを含む中琉球および南九州
- Chen B, Namihira T, Yamamoto B: Transformation of land use, plantation to crop diversification and tourism development on Kauai Island, Hawaii, 琉球大学農学部学術報告, 70: 35-43 (2023): ハワイ
- Chen B: Visitors' perceptions of traditional homestead windbreaks from user-generated comments, Urban Forestry & Urban Greening, 85 (2023): 琉球弧
- Jarzebski MP, Su J, Abrahamyan A, Lee J, Kawasaki J, Chen B, Andriatsitohaina RNN, Ocen I, Sioen GB, Lambino R, Saito O, Elmqvist T, Gasparatos A: Developing biodiversity-based solutions for sustainable food systems through transdisciplinary sustainable development Goals Labs (SDG-Labs), Frontiers in Sustainable Food Systems, 7 (2023): 全世界
- 草島勇斗，陳碧霞，泉水仁，安里昌弘：フクギの葉の沖縄そば利用における灰汁汁の適性，琉球大学農学部学術報告, 70: 7-12 (2023): 沖縄県
- 岸本咲紀：UAVによる空撮画像を用いたリュウキュウマツの識別手法の検討，琉球大学大学院農学研究科修士論文 (2024): 与那フィールド
- 中村健人：沖縄島北部の山地小流域における降雨流出特性の解明，琉球大学大学院農学研究科修士論文 (2024): 与那フィールド
- 中川千麗乃：やんばる地域の与那川上流域における溪畔林の林分構造，琉球大学農学部卒業論文 (2024): 与那フィールド
- 金城尚輝：やんばる地域の非皆伐成熟林における樹洞の形成と経年変化，琉球大学農学部卒業論文 (2024): 与那フィールド
- 浅井梨乃：沖縄島北部天然生林での斜面位置における林内光環境の空間的な違いが樹木の成長・繁殖・生存に及ぼす影響，琉球大学農学部卒業論文 (2024): 与那フィールド
- 宮崎翼：沖縄島北部の亜熱帯天然生林における地上部バイオマス成長に基づいた樹種間の成長特性の評価，琉球大学農学部卒業論文 (2024): 与那フィールド
- 神谷公太：亜熱帯広葉樹林の斜面上部での樹種間における葉の形態、形質の違い，琉球大学農学部卒業論文 (2024): 与那フィールド
- 桃原脩斗：沖縄島北部の亜熱帯天然生林に設置したリタートラップの空間代表性を有する捕捉範

困の解明, 琉球大学農学部卒業論文 (2024): 与那フィールド

＜演習林所属教員専門分野・キーワード一覧 令和6年11月現在＞

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	7 5
岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	7 5
東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	7 6
山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター	7 6
宇都宮大学農学部附属演習林	7 7
新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	7 7
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	7 7
東京農工大学農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター	7 9
筑波大学山岳科学センター	7 9
信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター	7 9
静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	7 9
日本大学生物資源科学部演習林	8 0
東京農業大学地域環境科学部奥多摩演習林	8 0
玉川大学農学部農産研究センター	8 0
名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター	8 1
岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター	8 1
三重大学大学院生物資源学研究科附属 紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター	8 1
京都大学フィールド科学教育研究センター	8 1
京都府立大学環境科学部附属演習林	8 2
鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター	8 2
島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター	8 3
愛媛大学農学部附属演習林	8 3
高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター	8 3
九州大学農学部附属演習林	8 4
宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター	8 4
鹿児島大学農学部附属演習林	8 5
琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター	8 5

演習林所屬教員専門分野・キーワード一覧 令和6年11月現在

「所屬」欄：演習林に所屬、他：演習林以外に所屬

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード							所屬	備考
1. 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター												
揚妻 直樹	あげつま なおき	教授	動物生態学	哺乳類	採食生態	環境利用	保護管理		演	森林圏ステーション長		
吉田 俊也	よしだ としや	教授	造林学	林業	天然林	広葉樹	非皆伐施業	地域資源管理	演	北管理部長		
中村 誠宏	なかむら まさひろ	教授	群集生態学	昆虫と植物の相互作用	地球温暖化	野外操作実験	生物多様性	間接効果	演	南管理部長、苫小牧研究林長 (兼)		
車 柱榮	ちや じゅよん	准教授	造林学	森林再生	菌類				演			
高木 健太郎	たかぎ けんたろう	教授	農林気象	フラックス	二酸化炭素	カラマツ	乱流拡散	蒸発散	演	天塩研究林長		
中路 達郎	なかじ たつろう	教授	生理生態学	分光観測	生理機能	環境応答	リモートセンシング		演	札幌研究林長		
岸田 治	きしだ おさむ	教授	動物生態学	両生類	魚類	適応	外来種	捕食-被食	演	和歌山研究林長		
福澤 加里部	ふくざわ かりぶ	准教授	森林生態学	物質循環	細根動態	冷温帯林	攪乱影響	河川水質	演			
小林 真	こばやし まこと	准教授	樹木生態	北方林	攪乱	冬の気候変動	ミミズ	生理生態	演	雨龍研究林長		
植竹 淳	うえたけ じゅん	准教授	微生物生態学	バイオエアロゾル	環境DNA	好冷性微生物	氷河		演	檜山研究林長		
鈴木 智之	すずき さとし	准教授	植物生態学	森林動態	気候変動	環境変化	北方林	森林管理	演			
野村 睦	のむら むつみ	助教	水文学	河川流出	融雪	水収支			演	中川研究林長		
大平 充	おおひら みつる	助教	河川生態学	底生無脊椎動物	魚類	攪乱	土砂動態	流域管理	演			
倉田 正観	くらた せいかん	助教	系統地理学	種子植物	分布変遷	半自然草地	植物分類	保全遺伝	演			
笠田 実	かさだ みのる	助教	生態学	個体群動態	生物多様性	生物間相互作用	進化	群集	演			
2. 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター												
山本 信次	やまもと しんじ	教授	林政学	森林管理	市民参加	森林教育	都市近郊林	合意形成	演	分野長		
白旗 学	しらはた まなぶ	助教	造林学	CO2収支	水分生理特性	樹木生態	スギ人工林		演			

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード					所属	備考	
				山村振興	住生活	森林政策	福祉				
高田 乃倫予	たかだ のりよ	助教	林政学				森林政策	福祉		演	
小藤田 久義	こふじた ひさよし	教授	森林資源化学	樹木	木材		抽出成分	生理活性	天然物化学	他	
真坂 一彦	まさか かずひこ	教授	造林学	森林生態学	海岸林		生態系サービス			他	
伊藤 幸男	いとう さちお	准教授	森林政策学	林業構造	木材流通		地域社会	木質バイオマス		他	
富山 啓介	とうやま けいすけ	准教授	森林経理学	森林計画	林業収益性		森林計測	森林利用		他	
國崎 貴嗣	くにさき たかし	教授	森林計測学	森林作業	群落生態		サイズ構造	樹林間競争		他	
齋藤 仁志	さいとう まさし	准教授	林業生産工学	森林工学	森林路網		作業システム	林業機械		他	
山内 貴義	やまうち きよし	准教授	野生動物管理 学	野生動物	哺乳類		生態学	保護管理		他	
松本 一穂	まつもと かずほ	准教授	森林防災工学	水循環	治山・砂防		生態系機能	物質循環		他	
阪上 宏樹	さかがみ ひろき	准教授	木質マテリアル	木質材料	材質		乾燥	改質	保存	他	
松木 佐和子	まつき さわこ	講師	森林保全生態学	樹木の被食防衛機能	昆虫被害		生物多様性			他	
東 淳樹	あずま あつき	講師	保全生物学	生物多様性	絶滅危惧種		持続的社會	里山管理		他	
山崎 遥	やまざき はるか	助教	森林施業学	天然更新	広葉樹施業		台自然的森林施業			他	

3. 東北大学大学院農学研究所附属複合生態フィールド教育研究センター

陶山 佳久	すやま よしひさ	教授	森林分子生態学	遺伝的多様性	DNA分析	種子散布	花粉散布	花分散布	古代DNA	他	
深澤 遊	ふかさわ ゆう	准教授	森林生態学	菌類	分解	生物間相互作用	菌根	倒木		他	
石川 直子	いしかわ なおこ	特任准教授	森林分子生態学	DNA塩基多型	ゲノム	遺伝的多様性	形態発生			他	
赫 英紅	かく えいこう	特任助教	森林生態学	DNA解析	種多様性	MIG-seq分析	集団遺伝	系統解析		他	

4. 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター

菊池 俊一	きくち しゅんいち	准教授	流域保全管理 学	流域	攪乱	環境保全	森林・緑地再生	市民協働		他	流域保全部門長
-------	-----------	-----	-------------	----	----	------	---------	------	--	---	---------

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
----	----	----	------	-------	--	--	--	----	----

5. 宇都宮大学農学部附属演習林

大島 潤一	おおしま じゅんいち	准教授	森林資源管理学	材質育種	材質劣化	森林資源活用		演	演習林次長、教育部主任
有賀 一広	あるが かずひろ	教授	森林工学	森林作業学	森林土木学	林業機械	木質バイオマス	他	
石栗 太	いしぐり ふとし	准教授	木材材料学	材質	組織構造			他	演習林研究部主任
逢沢 峰昭	あいざわ みねあき	教授	森林植物学	針葉樹	分布	分類	系統地理	他	演習林研究部併任
横田 信三	よこた しんそう	教授	森林化学	樹病	木質バイオマス	プロテオミクス	メタボロミクス	他	演習林研究部併任
山本 美穂	やまもと みほ	教授	森林政策学	歴史地理学	経済史	分権的管理	スギ材流通	他	演習林長(兼務)、社会連携部主任(兼務)
松英 恵吾	まつえ けいご	准教授	森林計測学	森林計画	森林空間情報工学	リモートセンシング	森林資源管理	他	演習林研究部併任
林 宇一	はやし うちいち	准教授	森林政策学	林業経済学	林業労働	木材価格		他	演習林研究部併任
酒井 佑一	さかい ゆういち	助教	砂防工学	土石流	斜面崩壊	土砂災害	火山災害	他	演習林研究部併任

6. 新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林

梶本 卓也	かじもと たくや	教授	森林生態学	更新機構	物質生産	森林管理		演	演習林長
本間 航介	ほんま こうすけ	准教授	森林生態学	群集動態	攪乱	ストレス	クロウン生長	演	
阿部 晴恵	あべ はるえ	助教	森林生態学	植物生態	島嶼	攪乱	保全遺伝	演	
古郡 憲洋	ふるこおり のりひろ	特任助教	群集生態学	里山	人為攪乱	土壌動物	水生昆虫	演	

7. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

古井戸 宏通	ふるいど ひろみち	教授	林政学	森林法律	林業経済	林業史	森林社会	他	演習林長
福田 健二	ふくだ けんじ	教授	森林植物学	森林保護	樹木生理学	樹木病害	菌根	他	フォレストGX/DX協創センター長
鎌田 直人	かまた なおと	教授	森林昆虫学	森林保護	個体群生態学	生物間相互作用		演	千葉演習林長
山田 利博	やまだ としひろ	教授	樹病学	樹木医学	抵抗性	防御反応	材変色	演	秩父演習林長
蔵治 光一郎	くらじ こういちろう	教授	森林流域管理学	森林水文	保水力	流域森林管理	流域治水	演	企画部長

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード							所属	備考
				IoT	インタラクティブ	インタラクション	インタフェース	野生動物	所屬	備考		
小林 博樹	こばやし ひろき	教授	情報デザイン	サウンドスケープ	IoT	インタラクティブ	インタラクション	インタフェース	野生動物	他	情報基盤センター	
尾張 敏章	おわり としあき	准教授	林業経営学	林業経営	森林資源管理	森林施業	森林技術	森林ビジネス	森林ビジネス	演	北海道演習林長	
安村 直樹	やすむら なおき	准教授	林業経済学	林政学	木材需給	木造住宅	木材流通	山村振興	山村振興	演	生態水文学研究所長	
鴨田 重裕	かもだ しげひろ	准教授	森林化学	二次代謝	更新機構	防御物質	早生樹	森林再生	森林再生	演	秩父演習林長	
後藤 晋	ごとう すずむ	准教授	森林遺伝育種学	林木育種	局所適応	分子マーカー	繁殖様式	更新動態	更新動態	演	田無演習林長	
徳永 友花	とくなが ゆか	特任准教授	バイオインフォマティクス	炭素隔離	環境政策	建築環境	カーボンニュートラル	省エネルギー	省エネルギー	演	フォレストGX/DX協創センター副センター長	
楠本 大	くすもと だい	講師	樹病学	抵抗性獲得	シグナル物質	二次代謝	生物間相互作用	樹木医学	樹木医学	演	千葉演習林長補佐・教育研究主任	
田中 延亮	たなか のぶあき	講師	森林水文学	水文気象	生態水文	流域試験	山地保全	環境教育	環境教育	演	北海道演習林長補佐	
福井 大	ふくい だい	講師	哺乳類生態学	生物多様性	空間分布	コウモリ	野生動物管理	機能形態	機能形態	演	富士癒しの森研究所長	
平尾 聡秀	ひらお としひで	講師	群集生態学	生物間相互作用	生物多様性	食物網	生態系機能	地理的分布	地理的分布	演	フォレストGX/DX協創センター副センター長	
浅野 友子	あさの ゆうこ	講師	森林水文学	山地源流域	降雨流出	物質循環	砂防学	コモンズ	コモンズ	演	生態水文学研究所長補佐	
齋藤 暖生	さいとう なるお	講師	森林人間関係学	採集活動	環境認識	森林と文化	レクリエーション	樹芸研究所	樹芸研究所	演	樹芸研究所長	
久本 洋子	ひさもと ようこ	助教	森林分子生態学	タケ・ササ類	植物分類学	遺伝子発現解析	花成遺伝子	一斉開花	一斉開花	演	秩父演習林教育研究主任	
坂上 大翼	さかうえ だいすけ	助教	樹病学	病態生理	微生物生態	樹木医学	萎凋機構	腐朽診断	腐朽診断	演	秩父演習林長補佐	
水内 佑輔	みずうち ゆうすけ	助教	森林風景計画	造園学	ランドスケープGIS	森林イメージ	レクリエーション			演	生態水文学研究所教育研究主任	
三浦 直子	みうら なおこ	助教	森林空間情報科学	リモートセンシング	GIS	LiDAR	森林計測			演	富士癒しの森研究所長補佐、教育研究主任	
井上 広喜	いのうえ ひろき	助教	森林化学	二次代謝	細胞分化・細胞死	組織培養	更新機構			演	樹芸研究所長補佐、教育研究主任	
前原 忠	まえはら ただし	助教	森林動物学	森林動物	土壌動物	個体群生態	群集生態			演	田無演習林長補佐・教育研究主任	
藤原 章雄	ふじわら あきお	助教	森林情報学	森林情報	情報基盤	映像情報	情報公開	フットパス	フットパス	演	フォレストGX/DX協創センター教育研究主任	
饗庭 正寛	あいば まさひろ	特任助教	群集生態学	生物多様性	機能形態	生態系サービス	GIS			演	フォレストGX/DX協創センター教育研究主任	
Moein Farahmak	もいん ふあらんく	特任助教	森林水文学	森林土壌	土壌水文学	土壌物理学	表面流出防止			演	生態水文学研究所	

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
----	----	----	------	-------	--	--	--	----	----

8. 東京農工大学農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

本林 隆	もとばやし たかし	教授	応用昆虫学	作物栽培学	アグロエコロジ	化学農薬	生態影響評価	景観管理	他	センター長
吉田 智弘	よしだ ともひろ	准教授	森林保護学	森林生態	土壌動物	森林昆虫	群集生態	垂直構造	演	自然環境教育研究分野長
小林 勇太	こばやし ゆうた	助教	森林生態系生態学	生物多様性	生態系サービス	森林景観モジュール	森林動態	生態系修復	演	

9. 筑波大学山岳科学センター

津村 義彦	つむら よしひこ	教授	森林遺伝学	集団遺伝学	分子生態	系統地理	遺伝子攪乱		演	センター長
清野 達之	せい の たつゆき	准教授	森林生態学	更新動態	樹形	生理生態	物質生産	多様性解明	演	演習林総括、八ヶ岳演習林長
津田 吉晃	つだ よしあき	准教授	集団遺伝学	分子生態学	進化生物学	生態系管理	気候変動	山岳遭難	演	八ヶ岳演習林(兼)
門脇 正史	かどわき せいし	助教	森林保護管理学	動物生態	保全生態	爬虫・両生類	樹上性小型哺乳類		演	筑波実験林長
山川 陽祐	やまかわ ようすけ	助教	森林水文学、砂防学	斜面水文	地下水	斜面崩壊	物理探査		演	井川演習林長

10. 信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

荒瀬 輝夫	あらせ てるお	准教授	野生資源植物学	植物生態	緑化	生物分類	環境アセスメント		演	
小林 元	こばやし はじめ	准教授	樹木生理生態学	物質生産	炭素循環	山岳環境	森林動態	人工林	演	演習林主事
宮本 裕美子	みやもと ゆみこ	助手	森林生態学	分子生態学	土壌微生物	菌根菌	生物群集		演	

11. 静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター

花岡 創	はなおか そう	准教授	森林遺伝学	林木育種	遺伝資源管理	機械学習			演	専任
水永 博己	みずなが ひろみ	特任教授	造林学	林冠構造	更新	人工林生態系			演	
檀本 正明	ならもと まさあき	准教授	造林学	森林生態・生理学	乾燥地緑化				他	併任
今泉 文寿	いまいずみ ふみとし	教授	砂防工学	土砂移動					他	森林生態系部門長
飯尾 淳弘	いひお あつひろ	准教授	森林生理生態学	キヤノピープロセス	アプスケーリング	モデル			他	併任

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
				動物生態	動物行動	哺乳類			
栗原 洋介	くりはら ようすけ	特任助教	動物生態学					演	
王 権	わん くれん	教授	広域生態学	生態系モデル	ガスフラックス			他	併任
菌部 礼	そのべ れい	助教	広域生態学	リモートセンシング				他	併任
江草 智弘	えぐさ ともひろ	助教	森林水文学	森林水文				他	併任
高山 翔輝	たかやま しょうき	助教	砂防工学	土石流	水理実験			他	併任

12. 日本大学生物資源科学部演習林

安部 哲人	あべ てつと	教授	森林生態学	生物多様性	保全生物	外来種	遷移	繁殖生態	他	演習林長
太田 祐子	おおた ゆうこ	教授	微生物学	きのこ	樹病	病害虫	腐朽菌		他	
瀧澤 英紀	たきざわ ひでき	教授	森林水文学	水流出	土石流	水質	土壌水分		他	
小坂 泉	こさか いずみ	准教授	森林気象学	蒸散	微気象	熱フラックス	温暖化		他	
松倉 君予	まつくら きみよ	助教	微生物学	菌根菌	冬虫夏草	相互作用			他	

13. 東京農業大学地域環境科学部奥多摩演習林

山崎 晃司	やまざき こうじ	教授	動物生態学	大型哺乳類	保護管理	繁殖生理	生息地保全	ツキノフグマ	他	演習林長
矢部 和弘	やべ かずひろ	教授	森林科学	森林土木学	林業工学				他	副演習林長
根本 唯	ねもと ゆい	助教	動物生態学	行動生態	大型哺乳類	放射生態	ツキノフグマ	保護管理	演	演習林教務職員

14. 玉川大学農学部農産物研究センター

山崎 旬	やまざき じゅん	教授	生物資源保全学、園芸科学	絶滅危惧種	ラン科植物	植物増殖技術	農業教育		他	農産物研究センター副センター長
飛田 有支	ひだ ゆうし	准教授	栽培学	栽培管理技術					他	農産物研究センター箱根自然観察林担当
横倉 啓	よこくら けい	技術職員	技術指導・施設管理	生態系調査	環境教育	地域連携	トンボ		他	農産物研究センター北海道弟子屈農場（屈斜路演習林）現地職員

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考	
15. 名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター										
山本 一清	やまもと かずきよ	教授	森林資源管理学	森林資源管理	森林GIS	森林計画	リモートセンシング	森林計測学	他	センター長
梶村 恒	かじむら ひさし	教授	森林保護学	昆虫	微生物	種子	生物間相互作用	病害虫	演	副センター長(稲武・設楽担当)
16. 岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター										
大西 健夫	おおにし たけお	教授	水文学	物質循環	水文流出過程	水文モデリング	森里海連関		他	森林部門長
玉木 一郎	たまき いちろう	准教授	森林遺伝学	集団遺伝	萌芽更新	系統地理	育苗	グリーンウツドネットワーク	演	副センター長
17. 三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター										
木佐貫 博光	きさぬき ひろみつ	教授	森林保全生態学	植生	林分構造	森林動態	絶滅危惧種	自然再生	他	演習林長
板谷 明美	いたや あけみ	教授	森林利用学	GIS	リモートセンシング	森林情報	森林作業学	森林土木学	他	研究部長
沼本 晋也	ぬまもと しんや	准教授	森林環境砂防学	治山砂防	山地災害	森林水文	森林環境保全		演	演習林次長
湖上 佑樹	うみがみ ゆうき	准教授	森林環境学	産業連関分析	環境影響評価	木材流通	トレーサビリティ		他	演習林次長
18. 京都大学フィールド科学教育研究センター										
徳地 直子	とくち なおこ	教授	森林生態系生態学	物質循環	生態系	集水域	窒素利用	森里海連環学	演	和歌山研究林長 徳山試験地長
錦野 隆之輔	たての りゅうのすけ	教授	森林生態学	物質循環	物質生産	窒素利用	伐採影響評価	土壌微生物	演	北白川試験地長
長谷川 尚史	はせがわ ひさし	准教授	森林利用学	精密林業	森林資源管理	森林育成	森林利用	GNSS	演	
伊勢 武史	いせ たけし	准教授	陸域生態学	物質循環	シミュレーション	気候変動	森林動態	生態系サービス	演	
石原 正恵	いしはら まさえ	准教授	森林生態学	物質生産	生物多様性	土地利用	生活史	森林動態	演	芦生研究林長
小林 和也	こばやし かずや	准教授	進化生態学	生物多様性	生物群集	分子生態学	数理モデル	社会性昆虫	演	北海道研究林長
坂野上 なお	さかのうえ なお	講師	林業経済学	木材流通	木材消費	木造住宅	市場調査	民俗学	演	上賀茂試験地長
松岡 俊将	まつおか しゅんすけ	講師	生物多様性科学	生物多様性	環境DNA	環境傾度	菌類	生態系機能	演	

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
				窒素循環	窒素利用	ヒノキ	ヒノキ雄花		
中西 麻美	なかにし あさみ	助教	森林生態学	窒素循環	窒素利用	ヒノキ	ヒノキ雄花	演	
杉山 賢子	すぎやま よりこ	助教	菌類生態学	菌類	生物間相互作用	外生菌根菌	群集動態	演	きのこ
鈴木 華実	すずき はなみ	助教	森林生態学	生物間相互作用	植生更新	タケ・ササ類	野ネズミ	演	植食動物

19. 京都府立大学環境科学部附属演習林

古田 裕三	ふるた ゆうぞう	教授	生物材料物性学	木材物性	木質材料	レオロジー	木材組織	他	演習林長
隅田 明洋	すみだ あきひろ	教授	森林生態学	森林構造	森林動態	階層構造	個体間競争	他	
平山 貴美子	ひらやま きみこ	准教授	森林生態学	保全生態学	森林動態	種多様性		他	
三好 岩生	みよし いわお	准教授	砂防学	土砂災害	土石流	斜面崩壊	溪流環境	他	地域防災
神代 圭輔	こうじろ けいすけ	准教授	生物材料物性学	木材物性	木質材料	レオロジー	木材組織	他	標準化
中田 康隆	なかた やすたか	准教授	森林計画学	森林再生	ゾーニング	流域管理	大規模攪乱	他	ドローン
佐々木 尚子	ささき なおこ	講師	森林生態学	植生変遷	森林動態	気候変動	攪乱	他	花粉分析

20. 鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター

岩崎 亘典	いわさき のぶすけ	教授	地理情報科学	地理情報システム	ドローン	景観構造・変遷	データ・サイエンス	他	兼任教員
霜村 典宏	しもむら のりひろ	教授	菌類育種栽培学	菌類	きのこ	交雑育種	栽培	他	兼任教員
永松 大	ながまつ だい	教授	植物生態学	森林動態	生物多様性	植生科学	生態系保全	他	兼任教員
山中 啓介	やまなか けいすけ	准教授	育林学	造林	林業技術	海岸緑化	林業種苗の育苗	他	FSC森林管理部門長
芳賀 弘和	はが ひろかず	准教授	緑地防災学	水・物質流出	源流域水文	森林水環境	山地河川	他	兼任教員
藤本 高明	ふじもと たかあき	准教授	環境木材利用学	木材物理学	木材組織学	量的遺伝学	応用分光学	他	兼任教員
岩永 史子	いわなが ふみこ	講師	樹木生理生態学	緑化	水分生理	水辺林	乾燥地	他	兼任教員
芳賀 大地	はが だいち	助教	農業政策学	森林政策	林業経済	林家		他	兼任教員

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
----	----	----	------	-------	--	--	--	----	----

21. 島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター

松本 真悟	まつもと しんご	教授	植物栄養学	耕地土壌	重金属	堆肥	バイオマス	温暖化	他	センター長
山下 多聞	やました たもん	准教授	森林土壌学	有機物分解	窒素循環	熱帯林	細根動態	フェノロジー	演	部門長
橋本 哲	はしもと てつ	准教授	森林水文学	流出平準化機能	水文モデル	積雪・融雪	蒸発散	熱収支	他	兼任教員
高橋 絵里奈	たかはし えりな	准教授	林学	間伐	陽樹冠	選木基準	密度管理	森林計画	他	兼任教員

22. 愛媛大学農学部附属演習林

杉森 正敏	すぎもり まさとし	教授	森林資源利用システム	木材工学	材質評価	有節材	スギ	ヒノキ	他	兼任教員
伊藤 和貴	いとう かずたか	教授	森林化学	木材化学	リグニン	抽出成分	ファイブトレメ ディスプレイ	環境浄化	他	兼任教員
杉元 宏行	すぎもと ひろゆき	准教授	森林資源利用システム	木質物性	木質材料	熱分析	レオロジー		他	兼任教員
都築 勇人	つづき はやと	准教授	森林資源計画	森林計測	測樹	航空レーザー 測量	バイオマス		他	演習林長
寺下 太郎	てらした たろう	准教授	森林教育	森林教育	環境ESD	林業経済	林業労働	林業教育	他	兼任教員
川崎 章恵	かわさき あきえ	准教授	森林環境管理	林業経済	森林政策	林業労働者	林業事業体		他	兼任教員
嶋村 鉄也	しまむら てつや	准教授	森林資源生物	熱帯林	種多様性	森林動態	物質循環	地域研究	他	兼任教員
上谷 浩一	かみや こういち	教授	森林遺伝学	集団遺伝	分子進化	系統地理			他	兼任教員
鍋嶋 絵里	なべしま えり	准教授	森林資源生物	林冠光合成	環境応答	幹肥大成長	長期変動		他	兼任教員
木村 誇	きむら たかし	准教授	森林環境制御	砂防	地すべり	土砂動態	航空レーザー 測量	地理情報システム	他	兼任教員

23. 高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター

曳地 康史	ひさち やすふみ	教授	植物生理学、 植物生理学、 分子植物微生物相互作用	植物	細菌	病害防除	植物科学	分子遺伝学	他	暖地フィールドサイエンス 教育研究センター長
鈴木 保志	すずき やすし	教授	林業工学	林業用架線	林道・作業道	森林バイオマス	作業システム	集材被害木	他	森林生産環境部門長
市栄 智明	いちえ ともあき	教授	樹木生理生態学	繁殖生態	林冠生態	一斉開花	被食防衛	生物間相互作用	他	森林生産環境部門副担当教員

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
				農業気象	局地気象	農業施設気象	地域水文		
森 牧人	もり まきと	教授	農業気象学	農業気象	局地気象	農業施設気象	地域水文	地球温暖化	他 森林生産環境部門副担当教員
松本 美香	まつもと みか	講師	地域林業	森林管理	山村振興	森林経営	森林政策		他 森林生産環境部門副担当教員
橋本 直之	はしもと なおゆき	講師	地理空間情報学	リモートセンシング	地理情報システム	環境情報計測	衛星画像処理		他 森林生産環境部門副担当教員
富田 幹次	とみた かんじ	助教	動物生態学、哺乳類学	野生動物	森林管理	生態系改変作用	生物間相互作用	ヒグマ	他 森林生産環境部門副担当教員

24. 九州大学農学部附属演習林

古賀 信也	こが しんや	教授	木質資源利用	材質制御	木材組織	非破壊計測	木質エネルギー	木質文化財	演習林長
榎木 勉	えのき つとむ	准教授	森林生態学	森林動態	生態系	物質動態	不均一性	島嶼	演 北海道演習林長
内海 泰弘	うちみ やすひろ	准教授	樹木生理学	木材組織学	水分通道	キャビテーション	エンボリズム	植物民俗	演 宮崎演習林長
智和 正明	ちわ まさあき	准教授	生物地球化学	大気沈着	窒素循環	窒素飽和	活性酸素	森林衰退	演 福岡演習林副演習林長 調査室長
菱 拓雄	ひし たくお	准教授	森林生態学	土壌生態学	細根形態	土壌動物	土壌資源利用	群集生態学	演 福岡演習林長 かすや樹木園長
久米 朋宣	くめ ともりのり	教授	森林水文学	炭素循環	東アジア	森林管理	長期モニタリング	気候変動	演 研究部長
市橋 隆自	いちかはし りゅうじ	准教授	森林生態学	植物生態	つる植物	蒸散	水動態	物質分配	演 北海道演習林副演習林長
田代 直明	たしろ なおあき	助教	森林生態	生産生態	樹形	光環境	可塑性	生活史	演
片山 歩美	かたやま あゆみ	准教授	生態系生態学	炭素循環	土壌呼吸	幹呼吸	熱帯雨林	炭素配分	演 宮崎演習林副演習林長
楠本 聞太郎	くすもと ぶんたろう	助教	保全生態学	生物多様性	群集集合	システム化保全計画	マクロ生態学	人為攪乱	演

25. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター

高木 正博	たかぎ まさひろ	教授	森林立地学	物質循環	二酸化炭素	光合成			演 附帯施設長
西脇 亜也	にしわき あや	教授	応用生態学	野生動物	バイオマスエネルギー				演
光田 靖	みつだ やすし	教授	森林計画学	景観生態学					他 森林部門長

氏名	よみ	職名	専門分野	キーワード				所属	備考
----	----	----	------	-------	--	--	--	----	----

26. 鹿児島大学農学部附属演習林

井倉 洋二	いのくら ようじ	准教授	森林環境教育	森林環境教育	農山村	ソーシャルイノベーション	自然体験	演	演習林長
牧野 耕輔	まきの こうすけ	助教	森林政策学	林地集約化	素材生産	森林経営	農家林家	演	演習林主任
加治佐 剛	かじさ つよし	准教授	森林計画学	森林計画	森林リモートセンシング			他	兼務教員
奥山 洋一郎	おくやま よういちろう	助教	森林政策学	生涯学習	林業技術	森林教育	学校林	他	兼務教員

27. 琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター

赤嶺 光	あかみね ひかる	教授	環境農学	芝草	園芸福祉	コーヒー栽培		他	センター長
陳 碧霞	ちえん びしゃ	准教授	森林政策、林業経済	集落景観	森林観光	森林レクリエーション	森林文化	演	
高嶋 敦史	たかしま あつし	准教授	森林計画学	森林計画	長期モニタリング	森林施業	琉球弧	演	

<令和6年度 理事会・総会>

令和6年度春季理事会

- (1) 理事会日程、議題等 89
- (2) 令和5年度決算及び令和6年度予算 90
- (3) 議事要旨 91

令和6年度秋季総会

- (1) 秋季各種委員会、技術職員連絡会議、理事会日程 94
- (2) 総会日程、議題等 95
- (3) 議事要旨 96

理 事 会 次 第

日 時 令和6年5月17日（金）13：30～15：30
会 場 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター会議室・
講義室及び Zoom によるハイブリッド開催

- ・ 開会の言葉
- ・ 理事等紹介
- ・ 文部科学省挨拶・講演
- ・ 議 題
 1. 令和5年度決算及び令和6年度予算案について
 2. 森林管理技術賞選考結果について
 3. 教育関係共同利用拠点の申請等について
 4. 公開森林実習について
 5. 全国農学系学部長会議への報告事項について
 6. 共同研究について
 7. その他
 - 1) 市民向け講演会の共催について
- ・ 報告事項
 1. 令和6年度技術職員研修について
 2. 令和6年度秋季総会について
 3. 令和6年度技術職員連絡会議について
 4. 令和5年度演習林で発生した災害被害等について
 5. その他
- ・ 来年度春季理事会の日程について

令和5年度決算及び令和6年度予算案

(単位：円)

	項 目	令和5年度予算	令和5年度決算	比較増△減	令和6年度予算	備 考
		(A)	(B)	(B-A)		
収 入	前年度繰越額	1,317,872	1,317,872	0	1,106,531	
	会費	996,200	996,200	0	996,200	30,000円×27校+冊子代 ※①
	利息	0	10	10	0	
	広報活動費	0	0	0	0	
	当期収入合計	2,314,072	2,314,082	10	2,102,731	
支 出	春季理事会経費	0	0	0	0	
	秋季総会経費	200,000	227,720	27,720	400,000	積み上げによる
	通信費	0	0	0	0	
	会場経費	650,000	504,222	△ 145,778	100,000	
	表彰経費	50,000	64,469	14,469	100,000	
	旅費	0	5,550	5,550	450,000	文科省講演者旅費を含む
	公開森林実習関係経費	180,000	180,780	780	180,000	
	広報活動費	200,000	150,120	△ 49,880	200,000	
	ウェブサイト年間維持管理費	60,000	74,690	14,690	75,000	
	共同研究助成費	0	0	0	0	
	予備費	974,072	0	△ 974,072	597,731	
	当期支出合計	2,314,072	1,207,551	△ 1,106,521	2,102,731	
	次年度繰越金		1,106,531			
	合計	2,314,072	2,314,082		2,102,731	

※① 令和5年度会費徴収の際、各大学から前年度に請求があった演習林年報1冊につき1,400円を上乗せ徴収した。
1,400円×133冊 = 186,200円となり、徴収額は立替金より30円不足するが、不足分は全演協経費で負担した。

令和6年度 秋季各種委員会・技術職員連絡会議・理事会

会場：苫小牧市文化会館

公開森林実習運営委員会

9:00～10:00：「第2会議室」（3階）

森林管理技術賞表彰委員会

9:00～10:00：「第4会議室」（3階）

技術職員連絡会議

10:00～12:00：「第4会議室」（3階）

理事会

10:00～12:00：「第1研修室」（4階）

総会

13:00～16:00：「ホール」（1階）

秋 季 総 会 次 第

日 時 令和6年9月26日（木）13:00～16:00

会 場 苫小牧市文化会館（原則対面、オンライン参加も可）
〒053-0018 苫小牧市旭町2丁目8番19号

- ・開会の言葉
- ・挨拶 会長（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・森林圏
ステーション長）
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長
- ・文部科学省講演
- ・表彰式 第26回森林管理技術賞

- 議 題
1. 第26回森林管理技術賞の選考方針について
 2. 教育関係共同利用拠点について
 3. 公開森林実習について
 4. 全国農学系学部長会議への報告事項について
 5. 共同研究について
 6. その他

- 報告事項
1. 令和6年度春季理事会について
 2. 各大学における最近の動向等（トピックス）について
 3. 各大学における災害の発生と対応について
 4. 技術職員連絡会議の報告等について
 5. 令和7年度春季及び秋季会議の日程等について
 6. その他

<各演習林における運営状況についてのアンケート結果>

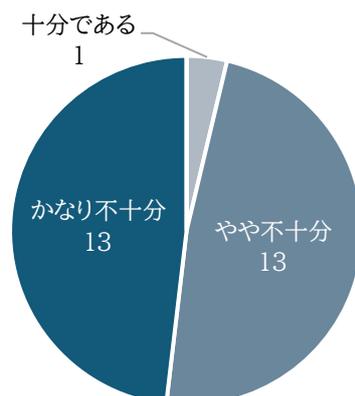
1. 演習林の運営費の状況に関して 1 0 3
2. 演習林を管理運営する人員の状況に関して 1 0 4
3. 演習林施設や重機など大型機材の更新状況に関して 1 0 6
4. 今後も演習林を取り巻く運営費や教職員数の状況が変わらなかった場合、
演習林の教育・研究機能は5年後どう変化すると予測するか 1 0 8
5. 今後の展望や対応策に関して 1 0 9
6. 全国大学演習林協議会に希望すること 1 0 9

各演習林における運営状況についてのアンケート結果

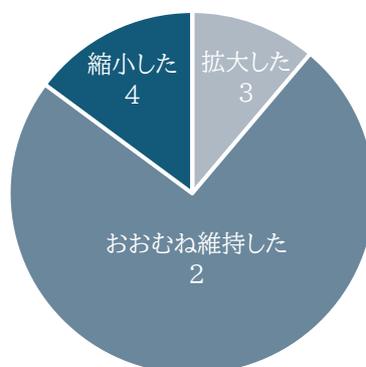
令和6年8月27日実施

1. 演習林の運営費の状況に関して (n=27)

(1) 2023年度に演習林に配分された運営費について



(2) 5年前（コロナ前）と比べた場合の2023年度の事業（教育研究・フィールド管理）規模・量について



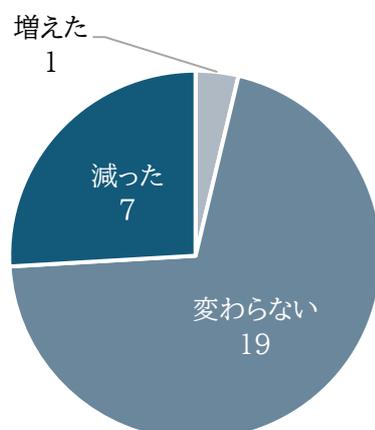
(3) 演習林の運営費の状況について

- ・ 持続的に削減されているため、毎年運営を維持する困難さが増している。
- ・ 木材販売額の8割が演習林運営費として還元されるため、自力で伐採・販売を行っている本演習林では運営経費を賄えている。
- ・ ここ数年は前年比マイナス10%の配分額となっている。令和6年度運営費は前年度から微増となった。
- ・ 所有する重機（タワーヤーダー、プロセッサ、コンボ2台、フォワーダー）の経年劣化による故障、消耗品の交換が激しくなっており、そのための経費が増大している。

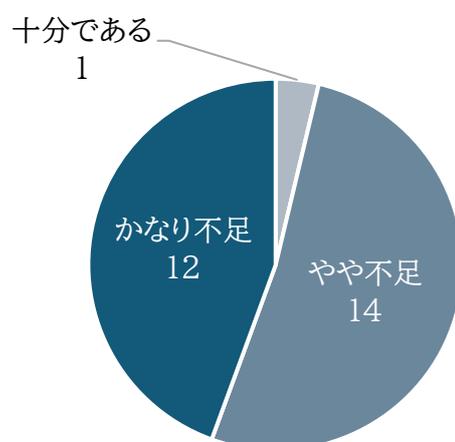
- ・例年通りの事業を実施するのであれば、現状維持が可能な額である。ただし、建物の修繕や重機の故障があった場合は赤字となっている。
- ・自治体から間伐等補助金の助成を受けている。
- ・運営費のみによる運営が難しいため、拠点化事業により配分された予算を活用している。
- ・人員増加や高額購入・修繕が難しい状況。
- ・現状はまだなんとかなっているが、学内配分は年々5%ずつ減少していることと、フィールドセンター全体では不足が生じているため心配している。
- ・運営費で雇用している賃金職員を雇用する余裕がなくなり、実習の食事提供の調理スタッフによる賄いから仕出しへの変更、技能補佐員の勤務時間短縮などを行わなければならなくなった。
- ・厳しい予算であるが、なんとかコロナ前の水準を維持している
- ・年々減額となっており、昨年度、一昨年度は大幅減となった。
- ・2021年度比で2022年度は40%減となり、現在も引き続き2022年度と同程度の予算配分となっている。
- ・老朽化した施設（橋など）を更新したいが、運営費が不十分なため、積立金または本部からの費用で賄ったりしている。
- ・現在もミッション実現加速化係数（1.6%）が適用され、毎年1.6%の予算減が続いている。
- ・何とか回せているが、余力はない状況。重機や車両の更新などが難しくなっているほか、宿泊施設の老朽化が目立ってきている。

2. 演習林を管理運営する人員の状況に関して (n=27)

(1) 近年、演習林の管理運営にあたっている教職員の人員数について



(2) 5年前（コロナ前）と比べた場合の2023年度の教職員の人員数について



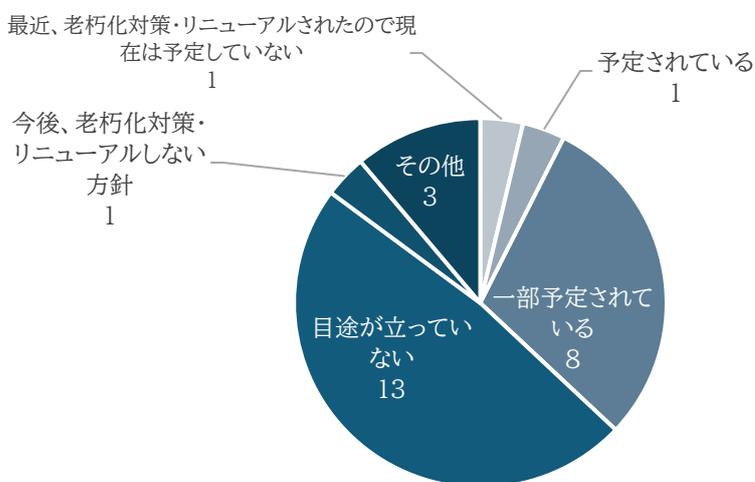
(3) 演習林を管理運営する人員の状況について

- ・最低限の人数で運営している。
- ・教員3名 技術職員9名（次年度1名減の予定）
- ・技術職員数名が従事しているが、他の分野業務にも従事しているので専任という形ではない。
- ・教員（兼務）1名、技術職員2名、技術補佐員1名
- ・技術職員については、当演習林での安全な業務遂行のための最低限人数7名を維持している。
- ・技術職員2名（正規、再任用含む）、非常勤職員3名（技術補佐員、事務職）、その他1名（シルバー人材派遣、宿舎清掃等、不定期）
- ・4つの演習林のうち、1か所は常駐無し、1か所は1名のみ、2ヶ所は3名体制で管理しており、前者2ヶ所では森林の管理は外部委託するしかない状況である。
- ・兼任教員2名、非常勤助手1名、技術職員2名、アルバイト1名
- ・専任教員1名、特任教員2名、技術職員3名、事務補佐員1名
- ・農場主体の人員配置で、演習林専任の職員は配置されていない状況です。
- ・教員1名、技術職員3名、非常勤職員2名
- ・専任教員1名、技術職員2名
- ・教職員の人員は大きく変わらないが、演習林への要望等が増加し対応が難しくなりつつある。
- ・技能補佐員1名が退職し、募集をしても応募者がなく約1年欠員しているため、職員2名で対応している。
- ・専任教員（准教授）1名、兼任教員（准教授）2名、技術専門職員2名、特定職員（技術系）2名（合計42時間/週）、業務補助員1名（18時間/週）、附属施設担当事務3名（兼務）

- ・基本的に3名で外業をおこない、新しい1名は標本整理などの今までに手を付けられなかった業務をおこなっている。
- ・教員11名、技術職員13名、事務職員（パート含む）16名
- ・専任教員2名、技術専門職員4名、技術職員1名、派遣職員1名
- ・教員1名、技術職員2名、技能補佐員（非常勤）1名、事務補佐員（非常勤）1名、用務員（非常勤）1名 → 合計6名

3. 演習林施設や重機など大型機材の更新状況に関して (n=27)

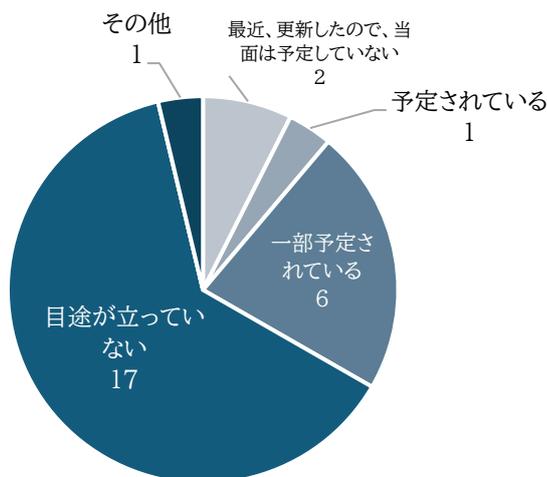
(1) 近年、演習林施設の老朽化対策が適切に行われているか



その他:

- ・一部実施されたが、全体としては目処がたっていない。
- ・2016年に工事が完了したが、施設内のすべてがリニューアルされたわけではない。
- ・特に老朽化対策が行われているわけではないが、発生したトラブル等について案件別に事務局等と相談し対処している。

(2) 今後の重機等の大型機材更新の目途について

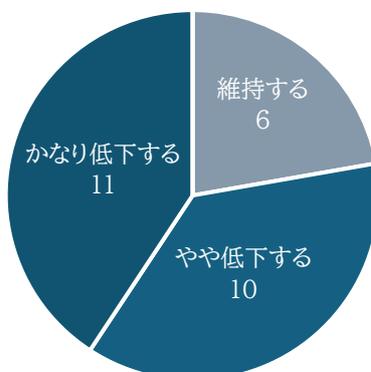


その他:

- ・今のところ必要性を感じていない。

- (3) 演習林施設や重機等のフィールド管理機材の更新状況について
- ・老朽化が進行しているが更新できていない機材がほとんどである。
 - ・大学に対して3年分割払い×2回でハーベスタを2台導入する。
 - ・大学運営費予算が毎年逓減されるなか、重機の老朽化に伴う修理・メンテナンス費用が増加し、運営に影響を生じている。
 - ・演習林に配分されている運営費は、施設や重機等の更新できるほどの金額ではないため、毎年、学内の設備整備要求を行っているが、予算措置に至っておらず更新の目途が立っていない。
 - ・演習林施設のうち給排水関連については、本年度中に更新予定である。
 - ・油圧シャベルカー（大）1台、同ミニ1台、ダンプトラック1台
 - ・宿泊施設は改修のための予算獲得（文科省の概算要求）を目指している。
 - ・令和5年度に電気工事を、令和6年度に浴室改修を行った。
 - ・ほとんど更新できていない。
 - ・トイレの改修とバックホーの更新を予定している
 - ・施設改修の要望および重機の更新の要望を大学本部に提出しているが、採用の見通しは立っていない。
 - ・パワーショベル(0.5 m³)：2014年および2017年更新
 - ・演習林の学舎が設置後40年を経過し、修繕を行うため、予算要求を行っている
 - ・令和4年のウッドショックによって得た収入で、ブルドーザー2台をフロントローダ付きトラクターに更新することができたが、バックホー2台の経年故障も頻発し、更新する必要がある。
 - ・更新の予定はない。演習林施設については、学内予算の申請を行なっているが、予算が付いたことはない。学部でできる範囲の修繕等を少しずつ行なっている状況である。大型機械や公用車は利用年数が長くなっているが、更新の目処が立たない。
 - ・2016年に演習林宿泊施設を更新、2020年にPC55MR グラップルを新規に導入した。
 - ・施設の老朽化による雨漏り・水道管整備等に対しては個別に対処がなされているが、老朽化した庁舎・宿泊施設そのものの建て替え等については目途が立っていない。演習林全体としては重機の更新頻度はそれほど高くないが、更新する場合は演習林全体の運営費（学内の借入制度利用も含む）で対応している。
 - ・施設は宿泊棟と管理棟の2棟があるが、宿泊棟は築50年を超えて老朽化が目立つ。ただ学内には他にリフォームの優先度が高い建物がいくつもあるため、こちらには当分順番が回ってこない見込み。

4. 今後も演習林を取り巻く運営費や教職員数の状況が変わらなかった場合、演習林の教育・研究機能は5年後どう変化すると予測するか。(n=27)



- ・現状であれば徐々に低下していくものと考えられる。
- ・自大学に関しては維持。共同利用に関しては次年度の延長申請が通れば維持。研究については教員個人単位での取り組みがメインなため各自科研費などを取得し、継続。
- ・運営費や教職員数について状況が改善されることを求めるのは難しいが、構成員自らの外部資金獲得などによって状況が改善される可能性はある。他力本願では何も改善しないので、自らできることをやるべきだと考えている。実際のところ5年程度であれば大きく状況が悪化するとは考えにくく、一方で大型プロジェクトに参画するなどの変化があれば、むしろ改善もありうると考えている。
- ・前述の演習林、農場、他部局との統合については、まだ検討されてはいないが、本学アクションプランに掲載されている以上今後検討となっていくと思われる。
- ・人的（職員雇用）、予算的（大学経費）に不透明な部分が多くて予測が難しい。
- ・技術職員の維持・補充がままならない状況であり、施設の維持管理や実習のサポートなどが数年後には困難になる可能性がある。
- ・今後は予算の削減と施設の老朽化が想定されるため、演習林をとりまく環境が厳しくなる可能性がある。
- ・設備・施設の老朽化と教職員の多忙化により機能不全となり、事故や労災も懸念される。
- ・学内配分が年5%ずつ減少しているのが、今後じわじわと効いてくる可能性がある
- ・職員2名では、安全管理上現場作業が進まず、森林管理が滞る。また、林業機械体験を行う学生実習では3台の重機を指導するオペレーターが足りないため、充実した教育が不可能となる。
- ・4年後に兼任教員1名が定年退職するが補充の見込みはうすい。全演協科研に端を発するモニタリング調査も縮小せざるをえない。各種計測機器の維持や更新

も困難になりつつある。演習林周辺の労働者不足により作業員の確保も難しい。公用車および大学バスの更新も予定されておらず演習林に遠征しての野外実習が困難になる。宿泊実習は減少し、残るは一つだけとなった。

- ・演習林の教育・研究機能の発揮に対する要望は増加しているが、現状の運営費および教職員数が維持されたとしても、それら要望のすべてには応えることはできず、現状維持となるであろう。
- ・世界自然遺産に登録されたこともあり、教育・研究のニーズは増加傾向にあるが、教職員数が変わらないためこれ以上の機能向上はかなり困難である。

5. 2～5の質問に関して展望や対応策を検討されていればご記入ください。

(自由記載) (n=27)

- ・今のところ統廃合の計画は無い。新たな事業収入を模索している。
- ・運営費による重機等の管理機材の更新はほとんど期待できない以上、そのほかの方策を考えるしかなく、その一つが外部研究費の利用であろう。
- ・本年度設置された学内横断組織との連携協力により教育研究機能は維持・向上させていきたい。
- ・重機等の更新については、引き続き概算要求、本学経営陣へのアピールを続けていく他に目途が立っていない。一般企業との共同研究による更新も考えられるが、高額な重機を購入できるだけの資金面で問題があるであろう。統廃合については、農学部改組の結果にもよるものが大きく、今後の検討により最低限附属農場との統合は不都合が想定される。統合となった場合の研究体制への補助、森林管理体制、各種実習補助、事務体制で不便を強いることが多大にあると感じている。
- ・大学当局に、施設の老朽化対策や職員雇用維持のために、予算要求を継続しているがなかなか認められない状況が続いている。組織の再編等については、今のところ計画はない。
- ・一部施設の閉鎖を検討中である。また、素材生産も外部委託する選択肢を考えている。
- ・本学は私学総合大学で農学部以外の学部や併設校（幼稚園～高等学校）があるため、農学部以外での利用や、職員研修での活用なども視野に入れて利用拡大を検討しています。これらにより、すこしでも施設改善などに繋がりたいと考えています。

6. 全国大学演習林協議会に希望することがあればご記入ください。(自由記述)

(n=27)

- ・自然災害の頻発・激甚化の中、脆弱な演習林施設の防災減災対策や復旧対策を

早急に進めるように要請いただきたい。

- ・ 本学演習林としても本学経営陣へ重機等の老朽化に伴う更新等をアピールしていくが、全演協としても文科省へ、今後のスマート林業教育、安全な実習環境構築のための重機等更新等について予算配備等を強力にアピールして欲しいと願います。
- ・ 施設の維持管理や野外実習における技術職員の必要性をアピールするような取組を希望いたします。
- ・ スタッフ数や大学のプログラムとの調整が困難で演習林協議会への参加が困難で申し訳ありません。
- ・ 予算の確保、技術職員の確保。技術職員を確保できない場合は大型機械やDX機器導入のための予算措置などを要請したい。
- ・ 今後、どの大学も演習林の運営費および管理運営にあたる教職員とくに技術職員の確保がますます厳しくなると思います。今後ともこのような調査を行い、情報を共有するとともに、必要に応じて文部科学省に要望していただければと思います。

<令和5年度 全国演習林協議会 公開森林実習報告書>

公開森林実習ポスター	1 1 3
公開森林実習実施状況	1 1 4
公開実習報告	
令和5年度 公開森林実習報告 高知大学	1 1 5

令和6年度公開実習ポスター



あなたが実習でいつも訪れる森はどのようなところでしょうか。日本国内には北から南まで様々なタイプの森林があります。いつもの見慣れた森だけではなく、いろんな森に入りたいと思いませんか？ この公開森林実習は、あなたの大学の授業として他の大学の実習を受けられる仕組み（単位互換制度）です。

日本の森を制覇しよう2024

- | | |
|---|---|
| <p>筑波大学 森林水文・砂防学実習 2024年7月22日～7月26日
 テーマ：流域という視点に立ち森林における水や土砂の移動を理解する
 場 所：筑波大学山岳科学センター井川演習林および筑波実験林</p> <p>京都大学 夏の北海道東部の人と自然の関わり
 2024年8月6日～8月10日
 テーマ：北海道東部の自然環境と人のつながりを学ぶ
 場 所：京都大学北海道研究林</p> <p>信州大学 自然の成り立ちと山の生業演習
 2024年8月20日～8月23日
 テーマ：中部山岳域における自然の成り立ちと山の生業
 場 所：信州大学野辺山ステーション・筑波大学ハケ岳・川上演習林ほか</p> <p>岩手大学 森林管理実践実習 2024年8月26日～8月30日
 テーマ：高性能林業機械操作体験を通じた冷温帯林の森林・林業技術の学習
 場 所：岩手大学御明神演習林・滝沢演習林ほか</p> <p>北海道大学 野生動物管理実習 2024年8月27日～8月30日
 テーマ：野生動物管理のために必要な基礎的な調査技術の習得
 場 所：北海道大学苫小牧研究林</p> <p>京都府立大学 公開森林実習 2024年9月2日～9月5日
 テーマ：人工林の毎木調査、間伐木選定と樹幹解析
 場 所：京都府立大学大野演習林</p> <p>信州大学 木材工学演習 2024年9月3日～9月6日
 テーマ：各種木材加工道具・機械を用いた演習林間伐材からのベンチ作製
 場 所：信州大学農学部構内ステーション</p> <p>東京大学 森林科学総合実習 2024年9月3日～9月6日
 テーマ：北海道の天然林生態系とその持続的管理
 場 所：東京大学附属演習林北海道演習林</p> <p>京都大学 近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴
 2024年9月4日～9月6日
 テーマ：近畿地方の奥山・里山の森林生態系の特徴と課題および森と人の関わり
 場 所：京都大学上賀茂試験地・芦生研究林・北白川試験地</p> <p>三重大学 公開森林実習 2024年9月10日～9月13日
 テーマ：源流域森林における多面的機能の保全と利用を考える
 場 所：三重大学附帯施設演習林</p> <p>宇都宮大学 日光・森林フィールド実習 2024年9月18日～9月20日
 テーマ：森林が生み出す生態系サービス「食・住・環境」を学ぶ
 場 所：宇都宮大学日光演習林・船生演習林ほか</p> <p>京都大学 森林・里山の生態系サービスを学ぶ
 2024年10月5・19日、11月16・30日、12月14日
 テーマ：森林・里山の生態系サービスを体験的に学ぶ
 場 所：京都大学上賀茂試験地</p> <p>北海道大学 森林空間機能学演習 2025年2月14日～2月17日
 テーマ：冬の北海道で森林の持つ機能を学び・発表し・議論する
 場 所：北海道大学中川研究林</p> <p>宮崎大学 日本一の照葉樹林とスギ林業
 2025年2月25日～2月28日
 テーマ：常緑広葉樹林の植生、利活用と保全およびスギ人工林林業
 場 所：宮崎大学田野フィールド（演習林）、綾ノスゴエコパークほか</p> <p>北海道大学 暖温帯林施業実習 2025年3月3日～3月7日
 テーマ：南紀熊野における森林施業と照葉樹林
 場 所：北海道大学和歌山研究林</p> | <p>静岡大学 富士・南アルプス生態学実習 2024年8月6日～8月9日
 テーマ：暖温帯から森林限界までの生態系サービス
 場 所：静岡大学フィールドセンターの3つのフィールド</p> <p>東京大学 森林と溪流と土砂の測量実習 2024年8月19日～8月23日
 テーマ：地形や山から川に流れ出る土砂を測ろう
 場 所：東京大学附属演習林生態水文学研究所</p> <p>新潟大学 フィールドワーカーのためのリスクマネジメント入門
 2024年8月26日～8月29日 / 9月2日～9月5日
 テーマ：野外調査を安全に遂行するための実践的トレーニング
 場 所：新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林</p> <p>信州大学 山岳環境保全学演習 2024年8月27日～8月30日
 テーマ：高山～亜高山帯の動植物、登山道・山小屋からみた山岳環境の保全
 場 所：信州大学農学部西駒ステーション</p> <p>高知大学 森林フィールド演習 2024年8月27日～8月30日
 テーマ：植生・毎木調査、森林遷移の観察、炭焼き、野焼き、哺乳類調査体験
 場 所：高知大学嶺北フィールド</p> <p>岩手大学 冷温帯林と持続的森林・林業 2024年9月2日～9月6日
 テーマ：森林観察や文化学習、災害復興を通じた冷温帯林の植生・利用・管理
 場 所：岩手大学御明神演習林・滝沢演習林・八幡平ほか</p> <p>琉球大学 亜熱帯林体験実習 2024年9月3日～9月6日
 テーマ：世界自然遺産の亜熱帯林を有する「やんばる地域」での人と自然の共生
 場 所：琉球大学与那フィールドおよび周辺地域</p> <p>信州大学 森林利用デザイン演習 2024年9月3日～9月6日
 テーマ：木材搬出技術および森林経営デザイン能力の習得
 場 所：信州大学農学部手長沢山ステーション</p> <p>九州大学 生態水文学実習 2024年9月3日～9月6日
 テーマ：森林生態系の水・物質循環の研究調査プロジェクトによる実践的学習
 場 所：九州大学宮崎演習林</p> <p>北海道大学 森林保全実習 2024年9月9日～9月13日
 テーマ：自然科学と社会科学の視点から北海道の自然資源管理を読み解く
 場 所：北海道大学雨龍研究林</p> <p>島根大学 山陰のもり入門 2024年9月17日～9月19日
 テーマ：中国山地の天然林と針葉樹人工林の対比の中で山陰のもりを観察する
 場 所：島根大学三瓶演習林ほか</p> <p>宮崎大学 森林・林業DX実習 2024年9月18日～9月20日
 テーマ：高性能林業機械、Lidar、GNSSを使いこなすスマート林業を理解する
 場 所：宮崎大学田野フィールド（演習林）</p> <p>信州大学 農林フィールド基礎実習
 2024年10月5・6・12・13日（計4日間）
 テーマ：森林から農地までの自然をまなび、水・人・緑のつながりを考える
 場 所：信州大学農学部構内ステーション他</p> <p>山形大学 雪山実習 2025年2月19日～2月21日
 テーマ：積雪環境と森林・樹木の相互関連の理解
 場 所：やまがたフィールド科学センター上名川演習林</p> <p>鹿児島大学 屋久島の森と人 日程未定（2025年2月～3月）
 テーマ：屋久島の自然と人の関わり（「大隅の森と人」との連続の受継を推奨）
 場 所：屋久島</p> <p>鹿児島大学 大隅の森と人 日程未定（2025年2月～3月）
 テーマ：森林や自然環境と密接に関わる地域の暮らしと文化について学ぶ
 場 所：鹿児島大学高陽演習林および大野地区</p> |
|---|---|



くわしくは「公開森林実習」で検索！

33 全国大学演習林協議会



令和5年度 全国大学演習林協議会 公開森林実習実施状況

大学名	実習名	日程	受講者数			備考
			協定内	協定外	合計	
筑波大学	森林水文・砂防学実習	令和5年7月24日～7月28日	0	0	0	
島根大学	山陰のもり入門	令和5年7月27日～7月29日	1	0	1	
京都大学	夏の北海道東部の人と自然の関わり	令和5年8月6日～8月10日	2	8	10	
静岡大学	富士・南アルプス生態学実習	令和5年8月8日～8月10日	5	20	25	
東京大学	公開森林実習(生態水文学研究所)	令和5年8月21日～8月25日	0	0	0	
岩手大学	森林インターンシップ	令和5年8月21日～8月25日	0	2	2	
琉球大学	亜熱帯林体験実習	令和5年8月21日～8月24日	5	0	5	
信州大学	森林利用デザイン実習	令和5年8月22日～8月25日	1	1	2	
岩手大学	冷温帯林と持続的森林・林業	令和5年8月28日～9月1日	2	3	5	
信州大学	木材工学演習	令和5年8月29日～9月1日	1	2	3	
北海道大学	野生動物管理実習	令和5年8月28日～9月1日	1	0	1	
高知大学	森林フィールド演習	令和5年8月29日～9月1日	7	0	7	
信州大学	山岳環境保全学演習	令和5年8月29日～9月1日	1	2	3	
北海道大学	森林保全実習	令和5年9月4日～9月8日	5	0	5	
新潟大学	フィールドワーカーのためのリスク マネジメント実習	令和5年9月4日～7日/11～14日	1	0	1	
東京大学	公開森林実習(北海道演習林)	令和5年9月5日～9月8日	1	1	2	
信州大学	自然の成り立ちと山の生業演習	令和5年9月5日～9月8日	1	1	2	
九州大学	生態水文学実習	令和5年9月5日～9月8日	1	0	1	1名コロナ感染により辞退
三重大学	公開森林実習	令和5年9月5日～9月8日	2	0	2	
京都大学	近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴	令和5年9月6日～9月8日	4	5	9	
京都府立大学	温帯針葉樹林実習	令和5年9月19日～9月22日	1	1	2	
信州大学	農林フィールド基礎実習	令和5年9月～10月の4日間	0	2	2	
京都大学	森林・里山の生態系サービスを学ぶ	令和5年10月から12月の5日間	1	5	6	
北海道大学	森林空間機能学演習	令和6年2月9日～2月12日	0	0	0	
山形大学	雪山実習	令和6年2月20日～2月22日	8	0	8	
宮崎大学	日本一の照葉樹林とスギ林業	令和6年2月27日～3月1日	3	3	6	
北海道大学	暖温帯林施業実習	令和6年3月4日～3月8日	0	0	0	
鹿児島大学	屋久島の森と人	令和6年3月14日～3月17日	16	8	24	
鹿児島大学	大隅の森と人	令和6年3月18日～3月21日	11	7	18	
合計			81	71	152	

高知大学における公開森林実習は、中四国の農学系大学が共同して開催している「中国・四国地区大学間連携フィールド演習」と併催というかたちで実施しています。新型コロナウイルスの影響で令和2～4年は不開講でしたが、令和5年には4年ぶりに開催でき、受講生もコロナ禍前と同程度の申込みがあり、胸をなでおろしたところでした。今年(令和6年)も例年のように開催するつもりで準備を進めていたのですが、8月末の迷走台風が四国に接近した時期とちょうど重なり、難しい判断でしたが中止となりました(その後の台風の経過を見ますと中止は正解でした)。そこで今回は、「高知大学における近年の公開森林実習」と題して、開催内容や参加校の状況などを、直近の令和5年度開催の状況を中心に、報告します。

高知大学の公開森林実習は、平成29年度までは塚本次郎教授が教員としては単独で担当され、学内で行っている植生・林分調査を主体とした内容で行われていました。これは、過去には塚本教授が演習林の専任教員であったことが関係しています。現在の組織では演習林に専任教員は配置されず、農林海洋科学部から兼任として主担当教員2名、副担当教員3～4名が配置されています。塚本教授の退職に伴い、平成30年度からはこれら主・副担当教員全員でそれぞれ得意分野のメニューを受け持つかたちに実習内容を変えています。具体的には、「人との関わりの中で森林の遷移を学ぶ」をテーマとして、南四国の森林を知るための植生・毎木調査に加えて、過去に多かった薪炭林としての利用に関連付けて炭焼き跡の調査や宿舎での炭焼き、植生遷移を人為的に管理するための野焼き、動物調査、などです(実習メニューは毎年微調整を行っています)。また、それまでは「公開森林実習」と「中国・四国地区大学間連携フィールド演習」(以下「中四国」)を隔年で交互に開催(なので「公開森林実習」としての開催は2年に1度)していましたが、受講生数が後者は常に10名以上に対し前者は数名程度と少ない年が多かったことから、毎年併催ということになりました。平成30年度の受講生数は14名(うち公開森林実習は1名)でした。令和元年度は、高知大学が参画している北海道大学教育関係共同利用拠点事業の関係で、「第6回森林フィールド講座・四国編」も併催しその分受講生数の上限も公式には20名としていますが30名程度までは受け入れることにしたところ、受講生数は29名(うち公開森林実習は3名、北大拠点は6名)となりました。直近の令和5年度は24名(うち公開森林実習は8名)で、中止となりましたが今年は20名(うち公開森林実習は2名)の申込がありました。中四国の区分での申込が常に多いのは、連携の各大学で毎年4月のオリエンテーション時に熱心に勧誘いただいていることに加え、中四国の実習のなかで森林が体験できる実習はほぼ高知大に限られている、ということも原因していると考えられます。なお、島根大学は中四国・公開森林実習どちらにも参画しています。そこで、実習が併催ということもあり、令和5年度からは中四国の申込でも公開森林実習の参加者としてもカウントするようにしています。



写真1 令和5年度公開森林実習におけるアカガシバイオマス量計測の実習



写真2 令和5年度公開森林実習におけるカメラによる森林性動物調査の実習

<全国大学演習林協議会規約類・会員名簿>

全国大学演習林協議会規約	1 1 9
森林管理技術賞授与規程	1 2 1
公開森林実習運営委員会内規	1 2 3
全国大学演習林協議会技術職員連絡会議会則	1 2 4
全国大学演習林協議会の役員選出に関する申し合せ	1 2 5
全国大学演習林協議会会員名簿（令和6年11月30日現在）	1 2 6

全国大学演習林協議会規約

(名称及び事務局)

第1条 本会は全国大学演習林協議会と称し、その事務局を会長の所属する大学（会長校）に置く。

(会員)

第2条 本会は全国大学の演習林長またはこれに準ずるものをもって構成する。

(目的及び事業)

第3条 本会は森林科学を中心とする教育研究の発展に資するため、演習林等に関する調査及び研究を行い、各大学相互間の連絡を図り、あわせて演習林等の整備並びに改善の促進を期することを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 演習林等の設置並びにその整備に関する協議、研究、調査
- (2) 演習林等の運営（予算、定員、試験研究項目、学生演習等）に関する調査及び研究
- (3) 演習林等に関する資料の収集及び整備
- (4) 各大学演習林等における相互の連絡調査
- (5) 関係当局への上申並びに当局の諮問に対する答申
- (6) 大学演習林等における職員の教育支援、研究支援、維持管理に関する貢献に対する表彰
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(年報の発行)

第5条 本会に大学演習林年報編集部を置き、年1回年報を発行する。
編集部には部長を置き編集及び発行に関する事務の処理にあたる。

(役員及び期間)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長1名
 - (2) 副会長1名
 - (3) 理事若干名
 - (4) 監事2名
- 2 会長は本会を代表し会務を統轄する。
 - 3 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時、会長の職務を代理する。
 - 4 理事は会長の統轄のもと会務を処理する。
 - 5 監事は会務の監査を実施し、理事会に監査報告を行う。
 - 6 役員の実選出方法については別に定める。

第7条 役員の実任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(総会)

第8条 総会は必要に応じて会長が召集する。
会員の3分の1以上の要求があったときは、会長は総会を召集しなければならない。
会長が適当と認めたときは、総会の召集に代えて書面による表決を求めることがで

きる。

第9条 総会の議長は会長がこれに当たる。

第10条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決め、可否同数のときは議長がこれを決める。

第11条 総会で議すべき事項は次の通りとする。

- (1) 演習林等の設置及び運営に関する協議、研究、調査事項の審議
- (2) 予算決算
- (3) 規約の制定及び変更
- (4) その他の重要な事項

(顧問)

第12条 本会に顧問若干名を置くことができる。

会長は総会の承認を経て顧問を委嘱する。

顧問は会長の諮問に答え、又は必要に応じ総会に出席し意見をのべるものとする。

(理事会及び委員会)

第13条 本会に会長が必要と認めた事項の検討及び審議並びに総会の審議事項の調整等を行うため、理事会を置く。

理事会は会長、副会長、理事で構成する。

理事会の議長は会長がこれに当たる。

理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

理事会は必要に応じて会長が招集する。

(会費及び会計)

第14条 本会の経費は次に掲げるものをもって支弁する。

- (1) 会費
- (2) 寄付金
- (3) その他収入

第15条 本会の会費は1カ年30,000円とする。

第16条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

附 則

この規約は、昭和26年5月28日より施行する。

<中間の改正規約の附則は省略した。>

附 則

この規約は、平成16年5月12日より施行する。

附 則

この規約は、平成20年9月18日より施行する。

附 則

この規約は、平成25年12月20日より施行する。

森林管理技術賞授与規程

第1条 全国大学演習林協議会規約第4条第6項に基づき、森林管理技術賞表彰委員会（以下「委員会」という）を以下のように定める。

第2条 委員会は、大学演習林等における教育・研究への貢献もしくは演習林等の維持管理に関する貢献に対する森林管理技術賞の選考を行う。

第3条 授賞の対象は、大学演習林等の職務にあたる職員とし、以下の各号のいずれかに該当するものについて、それぞれ若干名を対象とする。

- 1) 特別功労賞：長きにわたり演習林等の教育・研究基盤の整備を通じてその発展に多大な貢献をしたもの
- 2) 技術貢献賞：優れた森林管理技術の開発もしくは普及に多大な貢献をしたもの
- 3) 学術貢献賞：重要な教育・研究材料の収集・提供・公開を通じて学術的もしくは社会的に多大な貢献をしたもの
- 4) 若手奨励賞：応募時の年度に40歳未満あるいは採用後10年未満の職員で、演習林等の維持管理を通じて教育研究・地域連携に顕著な貢献をしたもの

第4条 委員会の委員は全国大学演習林協議会の各ブロックから選出し、会長が委嘱する。委員長は全国大学演習林協議会副会長に委嘱する。

- 2 委員長及び委員の任期は2年とする。
- 3 副委員長は次期会長選出予定ブロックの委員の互選により決定する。委員長に事故あるときは副委員長が委員長の任務を代行する。
- 4 委員長が任期途中で辞任したとき、会長は後任の全国大学演習林協議会副会長を委員長に委嘱し、後任委員長の任期は前任者の残任期間とする。
- 5 委員が任期途中で辞任したとき、全国大学演習林協議会の当該ブロックは委員を選出することができるものとし、選出された委員は会長が委嘱する。後任委員の任期は前任者の残任期間とする。

第5条 森林管理技術賞の選考手続きを以下のように定める。

委員会は毎年全国大学演習林協議会の会員大学より候補者の推薦を募る。

委員会では協議の結果多数意見をもって森林管理技術賞の選考を行い、委員長は報告書を添えてその結果を会長に報告する。

第6条 会長は選考結果を理事会に諮り、森林管理技術賞の受賞者を決定する。

附 則

この規定は、平成10年9月17日より施行する。

この規定は、平成12年9月19日より施行する。

この規定は、平成19年9月19日より施行する。

この規定は、平成20年9月18日より施行する。

この規定は、平成22年9月16日より施行する。

この規定は、平成26年9月25日より施行する。

この規定は、令和元年9月19日より施行する。

公開森林実習運営委員会内規

平成21年 5月 8日制定
平成22年 5月 7日改正
平成23年 9月15日改正
平成24年 9月20日改正
平成26年 9月25日改正

1. 設置目的

全国の大学演習林が共通履修科目として開講する「公開森林実習」について、情報の一元化、別々の大学によって実施される実習科目の統一性の確保、開講にむけての側面支援等をスムーズに行うために、全国大学演習林協議会（以下「全演協」という。）の中に「公開森林実習運営委員会」を設置する。

2. 委員会の構成と委員長

- 1) 委員会は次に掲げる委員をもって構成する。
 - ① 公開森林実習実施校の担当者
 - ② 委員長が指名する者
- 2) 委員長は委員の互選により定める。
- 3) 委員会に事務局をおき次の事項を取り扱う。
 - ① 実施計画の取りまとめ
 - ② 年度活動のとりまとめおよび報告書作成
 - ③ ウェブサイトの管理
 - ④ ポスター作成
 - ⑤ その他

3. 委員の任期

委員長及び委員の任期は、春季会議終了後から2年間とする。

4. 委員会の開催

委員長は、必要に応じて、原則として全演協の春季会議及び秋季総会時に委員会を招集し、会議を開催する。委員会の結果は会長に報告し、必要に応じて会員校に報告する。

全国大学演習林協議会技術職員連絡会議会則

1. 名 称

本会は「全国大学演習林協議会技術職員連絡会議」（以下「技術職員連絡会議」と称する。

2. 設置目的

技術職員相互の情報交換を通じて技術の向上を図り、各大学の演習林等の運営に寄与することを目的とする。

3. 組 織

- ①技術職員連絡会議は、全国大学演習林協議会に所属する大学の技術職員をもって構成する。
- ②各大学においては、代表技術職員又は連絡担当者を選定する。
- ③相互の連絡調整として事務局を置く。
- ④事務局は、全国大学演習林協議会会長校に置き、事務局長は同校の技術職員が務め、他の技術職員がこれを補佐する。

4. 会 議

- ①開催は、原則として年1回とし、その時期は全国大学演習林協議会秋季総会時とする。
- ②会議では、技術職員相互の情報及び意見の交換を行うとともに、技術職員に関わる諸問題についての検討を行う。

5. 連絡体制

- ①事務局は、代表技術職員・連絡担当者名簿を各年度の4月1日現在で作成し、会員大学に送付する。
- ②各大学の代表技術職員・連絡担当者は、年度途中に、それぞれに異動があった場合、その都度、事務局に連絡するものとし、事務局はその都度、新たな代表技術職員・連絡担当者名簿を会員大学に送付する。

6. 報 告

技術職員連絡会議において要望等がまとまれば、事務局から全国大学演習林協議会総会に報告するものとする。

附 則

この会則は、平成16年5月12日から施行する。

附 則

この会則は、平成17年9月15日から施行する。

附 則

この会則は、平成20年9月18日より施行する。

全国大学演習林協議会の役員選出に関する申し合せ

全国大学演習林協議会規約（昭和26年5月28日施行）第6条から第8条に基づき、役員を選出に
関して次のように定める。

1. 会長

- (1) 北海道大学、東京大学、京都大学、九州大学を会長持ち回り校とし、その演習林等の長から輪番
で会長を選出し、総会へ推薦し、決定する。
- (2) 任期途中で会長を交代する場合は、当該会長選出大学の次期演習林等の長を選出する。
- (3) 会長を決定するための総会が開催されない場合は、総会の招集に代えて書面による表決を求める
ことができる。

2. 理事及び副会長

- (1) 理事は、会長が選出された大学を除く以下の大学の演習林等の長とし、会長が委嘱する。
 - (i) 前条(1)に規定する会長持ち回り校
 - (ii) 下記4つのブロックのうち、会長が選出された大学が所属するブロックの大学
 - ① 北ブロック(6大学)
北海道大学、岩手大学、東北大学、山形大学、宇都宮大学、新潟大学
 - ② 東ブロック(8大学)
東京大学、東京農工大学、筑波大学、信州大学、静岡大学、日本大学、東京農業大学、玉川大学
 - ③ 西ブロック(7大学)
京都大学、名古屋大学、岐阜大学、三重大学、京都府立大学、鳥取大学、島根大学
 - ④ 南ブロック(6大学)
九州大学、愛媛大学、高知大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学
- (2) 理事の互選により理事の内1名を副会長に選出し、会長が委嘱する。
- (3) 任期途中で理事及び副会長を交代する場合は、当該役員選出大学の次期演習林等の長を選出する。
- (4) ブロックの構成の変更は、総会の承認を経るものとする。
- (5) ブロックの構成変更を承認するための総会が開催されない場合は、総会の招集に代えて書面によ
る表決を求めることができる。

3. 監事

- (1) 監事は、その任期が理事会を担当する任期と重ならないブロックの会長持ち回り校以外から1名
ずつを会長が推薦し、総会の承認を経るものとする。
- (2) 会長、副会長、理事、各種委員会委員長は監事を兼ねることができない。
- (3) 監事は原則として4月以降春季理事会までに前年度の会務監査を実施する。
- (4) 任期途中の監事を交替する場合は、当該監事選出大学の次期演習林等の長を推薦する。
- (5) 監事を承認するための総会が開催されない場合は、総会の招集に代えて書面による表決を求める
ことができる。

附 則

この申し合せは、平成25年12月20日から施行する。

附 則

この申し合せの施行後最初に選出された監事の任期は、平成27年3月31日までとする。

附 則

この申し合せは、平成26年9月25日から施行する。

全国大学演習林協議会会員名簿 (R6年度)

		大学名	郵便番号	住所	電話番号	Eメールアドレス	林長等名
北 ブ ロ ッ ク	1	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	060-0811	札幌市北区北11条西10丁目	011-706-2590		揚妻直樹
	2	岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	020-8550	岩手県盛岡市上田三丁目18-8	019-621-6234 019-621-6232		山本信次
	3	東北大学大学院農学研究所附属複合生態フィールド教育研究センター	989-6711	宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3	0229-84-7311		西田瑞彦
	4	山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター	997-0369	山形県鶴岡市高坂字古町5-3	0235-28-2880		菊池俊一
	5	宇都宮大学農学部附属演習林	329-2441	栃木県塩谷郡塩谷町大字船生7556	0287-47-0057		山本美穂
	6	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	952-2206	新潟県佐渡市小田94-2	0259-78-2613		梶本卓也
東 ブ ロ ッ ク	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	113-8657	東京都文京区弥生1-1-1	03-5841-5233		古井戸宏通
	8	東京農工大学農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター	183-8509	東京都府中市幸町3-5-8	042-367-5813		吉田智弘
	9	筑波大学山岳科学センター	305-8577	茨城県つくば市天王台1-1-1	029-853-4629		津村義彦
	10	信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター	399-4598	長野県上伊那郡南箕輪村8304	0265-77-1520		岡野哲郎
	11	静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	426-0001	静岡県藤枝市仮宿63	054-641-9500		今泉文寿
	12	日本大学生物資源科学部演習林	252-0880	神奈川県藤沢市亀井野1866	0466-84-3768		安部哲人
	13	東京農業大学地域環境科学部奥多摩演習林	198-0212	東京都西多摩郡奥多摩町水川2137	0428-83-3351 03-5477-2235		根本唯
	14	玉川大学農学部農産研究センター	194-8610	東京都町田市玉川学園6-1-1	042-739-8288		飛田有支
西 ブ ロ ッ ク	15	名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター・稲武・設楽フィールド	464-8601	愛知県名古屋市千種区不老町	052-789-4180 052-789-4181		梶村 恒
	16	岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター	501-1193	岐阜県岐阜市柳戸1-1	058-293-2972		玉木一郎
	17	三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター・附帯施設演習林	514-8507	三重県津市栗真町屋1577	059-231-9505		木佐貴博光
	18	京都大学フィールド科学教育研究センター	606-8502	京都府京都市左京区北白川追分町	075-753-6442		徳地直子
	19	京都府立大学環境科学部附属演習林	606-8522	京都府京都市左京区下鴨半木町1-5	075-703-5681 075-703-5637		古田裕三
	20	鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター	680-8553	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101	0857-31-5604		山中啓介
	21	島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター	690-1102	島根県松江市上本庄町2059	0852-32-6590		山下多聞
南 ブ ロ ッ ク	22	愛媛大学農学部附属演習林	790-8566	愛媛県松山市榑味3-5-7	089-946-9538		都築勇人
	23	高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター	783-8502	高知県南国市物部乙200	088-864-5137		鈴木保志
	24	九州大学農学部附属演習林	811-2415	福岡県糟屋郡篠栗町大字津波黒394	092-948-3117 092-948-3100		古賀信也
	25	宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター・田野フィールド(演習林)	889-1702	宮崎県宮崎市田野町乙11300	0985-86-0036		高木正博
	26	鹿児島大学農学部附属演習林	890-0065	鹿児島県鹿児島市郡元1-21-24	099-285-3532		井倉洋二
	27	琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター	903-0213	沖縄県中頭郡西原町字千原1	098-895-8820		赤嶺光

東北大学は昭和60年度以降オプザーバー校として参加

電話番号欄の二段書きは、上段林長室、下段研究室



令和7年1月31日 発行

編集発行責任者 全国大学演習林協議会
会長 揚妻 直樹
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター別棟
〒060-0809 北海道札幌市北区北9西9